文部科学省検定済教科書
高等学校 地理歴史科用

130 二宮 地探 703

地理探究

大学入学共通テストに対応

詳しい内容で理解を深める
地理探究教科書の決定版！

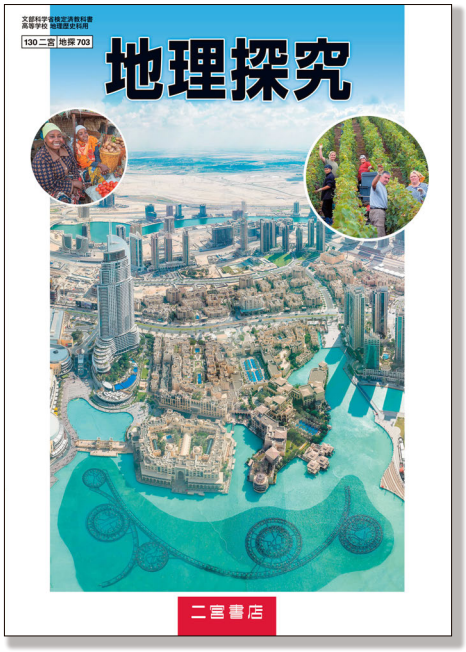
令和7年度用
（2025年度用）

二宮書店
内容解説資料

この資料は，令和7年度用高等学校教科書の内容解説資料として，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

特色・内容紹介 ➡ p.2-37
準拠ワークブック ➡ p.38-39
教師用指導書 ➡ p.40-43
年間指導計画評価規準 ➡ p.44-47

二宮書店



地理探究

130二宮　地探703
B5判326頁／写真459点／図表633点

［代表者］
手塚　章　筑波大学名誉教授

［著作者］
伊藤 徹哉　立正大学教授
小田 宏信　成蹊大学教授
呉羽 正昭　筑波大学教授
永田 成文　広島修道大学教授
中西 僚太郎　筑波大学教授
山下 亜紀郎　筑波大学助教
大伴 一成　東京都立八王子東高等学校主任教諭
菊池 美千世　前お茶の水女子大学附属高等学校副校長
中山 秀晃　東京都立戸山高等学校主幹教諭
松本 穂高　茨城県立竹園高等学校教諭
松本 至巨　東京学芸大学附属高等学校教諭
株式会社　二宮書店

［編集協力者］
目代 邦康　東北学院大学准教授
渡来　靖　立正大学教授
清沢 創一　長野県松本深志高等学校教諭
小河 泰貴　岡山県立岡山朝日高等学校教諭
松永　謙　早稲田中学校・高等学校教諭
脇阪 義和　東海高等学校教諭

Message

手塚 章（筑波大学名誉教授）

地理探究には，現代の世界や諸地域が直面している課題について，どのような対応が望ましいか，どのような解決法が可能かを，生徒みずからが主体的に考える力を育成するという大きな目標があります。

そのため，本教科書では，こうした探究活動への手がかりとなる問いかけを，それぞれの章や節に数多く盛りこみました。温暖化や感染症などの地球的な課題から，身近な地域にかかわる問題まで，人々にとって重要な課題の多くは，自然・経済・文化など，さまざまな要因と結びついています。これらがどのように関連しあっているかを考えることが地理的な探究の眼目であって，そこに地理のおもしろさがあります。

しかし，地理的な探究活動の多くに，必ず明確なゴールがあるとは限りません。地理的な探究は，性急で安直な正解探しではありません。正しい道筋を探究するためには，多様な地理的事実を的確に整理し，理解することが前提になります。本教科書では，それを系統地理と地誌という二つの観点からまとめました。また，具体的な探究活動において，地図や地理情報の利用，地域調査の技術など，地理総合で身につけた地理的技能を活用することが重要なことは言うまでもありません。

松本　穂高（茨城県立竹園高等学校教諭）

自然環境や産業などを分野別に扱う系統地理の分野は，生徒の探究活動とよくマッチします。たとえば世界の気候と生活の関係を本書で詳しく学ぶと，同じ気候でも異なった生活がみられることに，生徒は疑問をもちます。そうした疑問に応えられるよう，本書では系統地理分野を現行の地理 B 教科書より分量的に充実させるとともに，探究活動を想定した「新しい視点」や「日本を知る」などの特設ページを，各単元について設けました。最新の動向や日本の現状を取り上げたこれらのページにより，生徒みずから探究できる姿が期待できます。

松本　至巨（東京学芸大学附属高等学校教諭）

高度に情報化の進んだグローバルな社会，そして地球温暖化など世界的な課題を抱えた時代を生きていくためには，世界各地の様子をより正確に知ることが大切です。地誌では，世界各地の特徴を基礎から学べるように内容を精選し，用語の説明や写真を充実させ，正確に実情を掴むために多くの統計に関する図表を掲載しました。特設ページの「海洋からみた世界のつながり」では，これまで扱いのなかった海を通した世界のつながりを読み解きます。日本はもちろん国際社会で活躍できる人材が育つよう，地理を中心とした総合的な力を養える構成になっています。

詳しくわかりやすく現代世界への理解を深める

1 地理総合の基礎力を地理探究の実践力へ！

パンフ p.2-33

- 系統地理のページ割合を，**61%に拡大**。系統の各分野と地誌の事例地域を体系的に整理し，相互に連携しあって理解が深まるよう構成しました。
- **系統地理**では，成因や空間的な規則性，相互の関連性，現在の動向などをわかりやすく解説。地理総合での学習事項を基盤に，理解を深めます。
- **地誌**では，変化の激しい国際情勢を反映し，12の地域の特色と課題をまとめました。地球的課題について自ら考察する力を育みます。

2 共通テストに必要な知識と技能を確実に！

パンフ p.34-37

- 現代世界を映し出す**新しい主題図**を多く取り入れました。共通テストの求める「思考力」「判断力」を育成します。
- **「地理の技能」**ページを充実し（21テーマ），地形図・主題図・写真を読み解く技能の習得をはかります。
- 各所に配置した二次元コードから，地理院地図やウェブページ，統計データといった探究活動をサポートするコンテンツを閲覧できます。

3 激動する世界をとらえるコラムと特設ページ！

パンフ
新しい視点 p.14
日本を知る p.16
海洋 p.30

- 地球温暖化やエネルギー問題，紛争や難民，感染症の広がりなど，地球的課題をSDGs（持続可能な開発目標）と関連づけて取り上げました。
- 特設ページ**「新しい視点」，「日本を知る」，「海洋からみた世界のつながり」**を新設。新しい切り口から最新事情を取り上げ，考察を深めます。

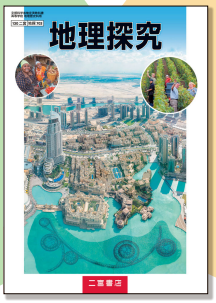
◀地理探究をトータルサポート▶

指導 先生用サポート

教師用指導書＋付録DVD

パンフ p.40-43

学習 生徒用サポート



教科書

パンフ p.2-37

準拠ワークブック

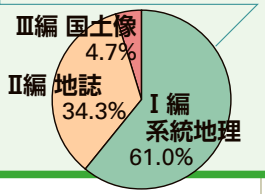
パンフ p.38-39

系統分野と地誌の学習が連携し，世界の現状と

全編のうち約6割が系統地理分野

世界的な視野から人々を取り巻く環境の多様性や国際情勢をとらえ，現代世界のかかえる地球的な課題の解決を担う力を養成します。

教科書 編別のページ数割合



第Ⅰ編　現代世界の系統地理的考察 ➡p.6-23

第1章　自然環境

❶ 地形 …… 8
1 世界の地形と地形をつくる力 …… 8
2 プレートの運動が地形におよぼす影響 …… ➡p.6-7
3 地震と火山 …… 12
4 造山運動と世界の陸地 …… 14
5 河川がつくりだす地形 …… 16
6 海岸にみられる地形 …… 20
7 さまざまな環境で形成される地形 …… 22
❷ 気候と生態系 …… 30
1 水の循環と利用 …… 30
2 海洋の循環 …… 32
3 大気の大循環と気候 …… 34
4 気候の地域性 …… ➡p.8-9
5 植生と土壌 …… 38
新しい視点　自然環境と生態系 …… 40
❸ 世界各地の自然と生活 …… 42
1 世界の気候区分 …… 42
2 熱帯の自然と生活 …… 46
3 乾燥帯の自然と生活 …… 48
4 温帯の自然と生活 …… 50
5 亜寒帯と寒帯の自然と生活 …… 54
新しい視点　高山地域の自然と生活 …… 56
❹ 日本の自然環境と防災 …… 58
1 日本の地形 …… 58
2 日本の気候 …… 60
3 日本の自然災害と防災 …… 62
❺ 地球環境問題 …… 64
1 環境問題に関する大観 …… 64
2 越境する汚染 …… 66
3 地球温暖化の現状 …… 68
4 地球温暖化への対策 …… 70
新しい視点　環境問題への国際協力とシチズンサイエンス …… ➡p.10-11 72

第2章　資源と産業

❶ 農林水産業 …… 74
1 農業の諸条件 …… 74
2 社会の発展と農業の変化 …… ➡p.14-15
新しい視点　都市とその周辺で営まれる農業 …… 80
3 グローバル化・技術革新と農業 …… 82
4 林業 …… 85
5 水産業 …… 86
6 食料問題 …… ➡p.16-17
日本を知る　日本の農林水産業とその課題 …… 90
❷ 資源・エネルギー …… 92
1 社会の発展と資源の利用 …… 92
2 世界の鉱産資源 …… 94
3 世界のエネルギー資源とその課題 …… 96
4 電力の利用と変化 …… 100
日本を知る　日本の資源・エネルギー問題 …… 102
❸ 工業 …… 104
1 社会の発展と世界の工業化 …… 104
2 工業の立地 …… 106
3 工業地域の形成と変化 …… 108
4 自動車工業の特徴と日本の海外生産 …… 110
5 国際分業の進展と多国籍企業 …… ➡p.18-19
6 工業生産のグローバル化に伴う諸課題 …… 114
新しい視点　知識集約型産業の発展 …… 116
日本を知る　日本の工業　変化と課題 …… 118
❹ 第3次産業 …… 120
1 サービス経済化と社会の変化 …… 120

第3章　人・モノ・金のつながり

❶ 交通・通信 …… 122
1 世界を結ぶ交通 …… 122
2 世界を結ぶ通信 …… 126
新しい視点　交通・通信の発達と買い物行動の変化 …… 128
日本を知る　日本の暮らしを支える交通とその課題 …… 130
❷ 貿易・観光 …… 132
1 世界を結ぶ貿易 …… 132
2 世界と日本の貿易とその課題 …… ➡p.20-21
3 世界を結ぶ資金の流れ …… 136
4 世界を結ぶ観光とその課題 …… 138
日本を知る　日本の観光とその課題 …… 140

第4章　人口，村落・都市

❶ 人口 …… 142
1 人口の推移と分布 …… 142
2 人口構成と人口転換 …… 144
3 人口移動 …… 146
4 人口増加地域，減少地域の人口問題 …… 148
日本を知る　日本の人口問題 …… ➡p.22-23
❷ 村落・都市 …… 152
1 集落の成り立ちと機能 …… 152
2 都市の成り立ちと機能 …… 156
新しい視点　都市の拡大と都市システム …… 158
3 世界の都市・居住問題と解決への努力 …… 162
日本を知る　日本の都市・居住問題と解決への努力 164

第5章　文化と国家

❶ 生活文化と言語・宗教 …… 166
1 生活文化と地域 …… 166
2 世界の衣服 …… 168
3 世界の食生活 …… 170
4 世界の住居 …… 172
5 世界の言語 …… 174
6 世界の宗教 …… 176

課題を よりわかりやすく 示すよう構成しました

➡p.○-○は本パンフレットで取り上げているページです

❷国家とその領域 …… 178
1 国家の形成と領域 …… 178
2 世界の民族・領土問題 …… 180
3 日本の領土に関する問題 …… 182
4 海洋国家としての日本 …… 184
新しい視点 北極圏と南極圏 …… 186
5 国際連合の役割と課題 …… 188

第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察 ➡p.24-31

第1章 地域区分

❶現代世界の地域区分 …… 190
1 地域区分の目的と方法 …… 190
2 さまざまな地域区分 …… 192
3 本書でとりあげる地域と考察方法 …… 195

第2章 現代世界の諸地域

❶中国 ▶経済成長に着目 …… 196
1 経済の改革開放による変化 …… 196
2 経済発展を支える人口 …… ➡p.24-25
3 経済発展を支える農業の地域性 …… 200
4 経済・産業の発展と現代の生活 …… 202
5 経済成長と国内外の課題 …… 204
❷朝鮮半島 ▶項目ごとに整理 …… 206
1 東アジアのなかの朝鮮半島 …… 206
2 朝鮮半島の文化と経済発展 …… 208
3 韓国の課題と国際関係 …… 210
海洋❶ 環日本海 ～海上輸送の発達 …… 212
❸東南アジア ▶民族文化に着目 …… 214
1 東南アジアの成り立ちと多様な民族文化 …… 214
2 自然環境と農業・食文化 …… 216
3 工業化による発展と生活文化への影響 …… 218
4 地域内外の経済関係と文化のつながり …… 220
❹南アジア ▶項目ごとに整理 …… 222
1 自然環境と人口 …… 222
2 住民と文化 …… 224
3 農業と農村 …… 226
4 産業の発展とグローバル化 …… 228
❺西アジア・中央アジア ▶類似的な地域を比較 …… 230
1 多様な自然環境 …… 230
2 民族と文化 …… 232
3 資源開発の進展と生活の変化 …… 234
4 地域紛争と国際関係 …… 236
❻北アフリカ・サブサハラアフリカ ▶対照的な地域を比較 238
1 自然環境と農業 …… 238
2 歴史と文化 …… ➡p.24-25
3 産業と経済発展 …… 242
4 地域紛争と国際関係 …… 244
海洋❷ 環インド洋 ～交易と宗教文化 …… 246
❼ヨーロッパ ▶地域統合に着目 …… 248
1 統合するヨーロッパ …… 248
2 統合の背景としての文化の多様性 ……
3 自然と農業の地域性と共通農業政策 ……
4 エネルギー・工業と貿易・交通の変化
5 ヨーロッパの変化と課題 ……
❽ロシア ▶項目ごとに整理 ……
1 自然環境と民族・文化 ……
2 体制転換と産業の変化 ……
3 ロシアと世界の結びつき ……
❾アングロアメリカ ▶項目ごとに整理 …… 264
1 自然環境の多様性と自然災害の特徴 …… 264
2 社会の多様性と多文化社会 …… 266
3 世界をリードする農業と産業 …… ➡p.26-27
4 世界と結びつくアメリカ …… 270
❿ラテンアメリカ ▶項目ごとに整理 …… 272
1 多様な自然環境と農業 …… 272
2 混ざりあう民族、拡大する都市 …… ➡p.24-25
3 鉱工業の移り変わり …… 276
4 地域内外との政治的・経済的関係 …… 278
海洋❸ 環大西洋 ～結びつきの変化 …… 280
⓫オーストラリア ▶項目ごとに整理 …… 282
1 自然と農牧業・鉱工業 …… 282
2 多文化主義の社会と大都市の発達 …… 284
3 世界との結びつき …… 28
⓬ニュージーランドと島嶼国 ▶項目ごとに整理 28
1 オセアニアのなかのニュージーランド …… 28
海洋❹ 環太平洋 ～開発と海洋保護 …… 29
➡p.30-31

第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像
❶現代日本に求められる国土像 …… 294
1 2050年の日本の姿 …… 294
2 テーマ❶ 自然災害に強い国土をめざすには …… 29
テーマ❷ 産業の変化と持続可能な成長 …… 29
テーマ❸ 人口減少社会を活性化するためには …… 30
テーマ❹ 多文化共生社会の実現を ➡p.32-33
3 国土像の探究 ～エネルギーの安定供給をめざして …… 304

巻末付録 地図とGISの理解を深める
1 地図の見方・考え方 ……
2 地理院地図を活用しよう ……
3 Web GISにアクセスしよう ……
4 GISとGNSSのしくみ ……

あとがき よりよい世界を構築するために ……

事項・地名さくいん ……

12地域の特色と課題を考察する地誌学習

第Ⅰ編の系統分野の学習を，地域の構造や変容，課題の視点から，捉え直します。

日本の国土像の探究

これまでの学習をふまえ，日本がかかえる課題について現状の把握から考察を進め，将来の国土像のあり方について展望します。

地図とGISの理解を深める付録

地理学習の基本となる図法や地図，GISの基礎について，巻末にまとめました。

学習を深める，三つの特設ページ

新しい視点 …新しい切り口から各分野の動向を取り上げます

日本を知る …世界の学習を踏まえたうえで日本の現状と課題を考えます

海洋からみた世界のつながり …海に視点を移して，地域のつながりを読み解きます

第１章 自然環境 ①地 形

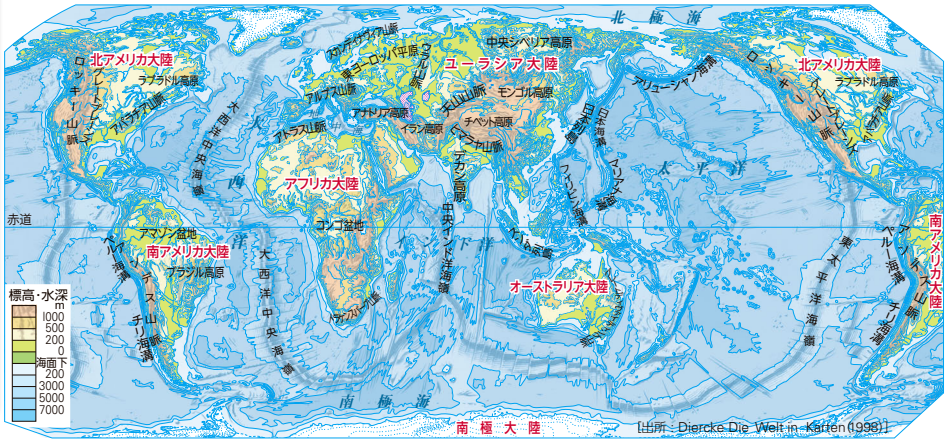
地理総合での地形学習をふまえ，形成過程を段階的に整理しました

教 p.8-9

第1章 自然環境

① 地形

本節の学習に関連するSDGs



[出所：Diercke Die Welt in Karten (1998)]

1 地球の表面の起伏　標高の高い山脈や高原はどのような地域に分布しているだろうか。また，海溝や海嶺の分布にも注目してみよう。

イントロ

世界の陸地と海洋はどのように分布し，どのような要因によってつくられているのだろうか。

地理総合の地形学習は，生活文化や防災とのかかわりを中心に大観。地理探究では，成因や形成過程に焦点をあて，地理総合を深めながら，探究の内容に発展できるよう整理しました。

1 世界の地形と地形をつくる力

地球表面の形

図1で地球の表面をみると，陸地には平らに広がる平原や標高の高い山脈があり，海底にも複雑な起伏（きふく）があることがわかる。地球の表面の起伏がおりなす形を**地形**という。特に，大きな陸地のまとまりを**大陸**といい，世界の陸地はユーラシア，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，オーストラリア，南極の六つの大陸と多くの島からなっている。一方，海（海洋）は，地球表面の約7割を占めている。

『地理総合』（地総 704）と『地理探究』（地探 703）教科書の「地形」単元の掲載用語の比較

	2章① 変動帯とプレート		5章④ 火山の噴火と防災 ⑤ 地震・津波と防災		2章② 河川がつくる地形と生活	2章③ 海岸の地形と生活	
地理総合 地総 704 のみ			カルデラ湖，火口湖，温泉，地熱発電，火山泥流，土石流，二次災害，溶岩流，火山ガス，降灰予報，陸域の浅い地震，耐震化，免震化，制振化		流域，ダム	波食棚	
共通する用語	内的営力，外的営力，変動帯，プレート，プレートテクトニクス，狭まる境界，広がる境界，海嶺，海溝，ずれる境界，安定大陸		火山，噴火，火砕流，火山灰，地震，プレート境界の地震，活断層，津波，液状化，		侵食，運搬，堆積，V字谷，谷底平野，河岸段丘，扇状地，水無川，湧水，氾濫原，蛇行，自然堤防，後背湿地，三日月湖，三角州（デルタ）	岩石海岸，砂浜海岸，海食崖，砂州，砂嘴，潟湖（ラグーン），陸繋砂州（トンボロ），陸繋島，離水，海岸平野，浜堤，海岸段丘，沈水，氷河，氷期，間氷期，リアス海岸，フィヨルド，サンゴ礁	
地理探究 地探 703 のみ	① 世界の地形と地形をつくる力	② プレートの運動が地形におよぼす影響	③ 地震と火山	④ 造山運動と世界の陸地	⑤ 河川がつくりだす地形	⑥ 海岸にみられる地形	⑦ さまざまな環境で形成される地形
	地形，大陸，大洋，営力，地殻変動，火山活動	衝突帯，沈み込み帯，弧状列島，大地溝帯，褶曲運動，断層運動	ホットスポット，楯状火山，成層火山，	造山運動，新期造山帯，アルプス＝ヒマラヤ造山帯，環太平洋造山帯，古期造山帯，安定陸塊，楯状地，卓状地，構造平野，ケスタ	沖積平野，地盤沈下，輪中集落，低地，台地，丘陵，縄文海進	エスチュアリー	氷床，山岳氷河，カール，U字谷，フィヨルド，モレーン，岩石砂漠，礫砂漠，砂砂漠，ワジ，塩湖，裾礁，堡礁（バリアリーフ），環礁，カルスト地形，ドリーネ，ウバーレ，鍾乳洞，タワーカルスト

単元の学習の流れ

大地形

地理総合を深める

1 世界の地形と営力 (教 p.8) → 2 プレートの運動 (教 p.10) → 3 地震と火山 (教 p.12) → 4 造山運動 (教 p.14)

探究で追加

小地形

地理総合を深める

5 河川のつくる地形 (教 p.16-18) → 6 海岸の地形 (教 p.20) → 7 さまざまな環境の地形 (教 p.22)

探究で追加

技能

地形図の読図 (教 p.24-29)

↑3 地殻変動によって大きく隆起し，侵食によって険しくなった山脈（ヒマラヤ山脈，2017年撮影）

↑4 火山活動によってできた巨大な火口（ハワイ・オアフ島のダイヤモンドヘッド，2013年撮影）　火口の直径は1kmにおよぶ。

↑5 外的営力によって蛇行を繰り返す河川（イギリス・スコットランド，2020年撮影）

「内的営力」「外的営力」を軸に，世界図や写真で大観させながら，大規模な地形が形成される要因を整理しています。

地形をつくる力

地形をつくる力を**営力**（えいりょく）といい，大きく二つに分けられる。一つは地球内部から生み出される**内的営力**で，地表の隆起（りゅうき）や沈降（ちんこう）などの**地殻変動**（**写真3**）や**火山活動**（**写真4**）をおこしている。内的営力は，長い時間をかけて広範囲に地表を変化させ，**図1**にみられるような大陸や大山脈，海洋や海嶺などをつくってきた。こうした大規模な地形を**大地形**という。

もう一つは，おもに太陽エネルギーを起源とする**外的営力**で，岩石をもろくする風化（ふうか）作用❶や，河川水，海水，氷河，風などによる侵食，運搬，堆積（たいせき）作用を引きおこす。つまり外的営力は，地表をもろくして高いところを削（けず）り，削られた礫（れき）や砂などを地表の低いところに運んで埋める力である。外的営力によってつくられる山の尾根（おね）や谷，河川の蛇行（だこう）（**写真5**），平野にみられる扇状地（せんじょうち）（→p.16）や三角州（さんかくす）（→p.18），海岸にみられる岩石海岸や砂浜海岸（→p.20）など，私たちが見渡せる範囲の小地形を**小地形**という。

❶**風化作用**　地表付近の岩石が温度変化や化学変化などによって変質・分解する作用をいう。

まとめと探究

❶海嶺や海溝は海洋のなかでどのような場所にみられるか，まとめてみよう。

❷地形をつくる力について，大きく二つに分けてまとめてみよう。

第1章 自然環境 ②気候と生態系

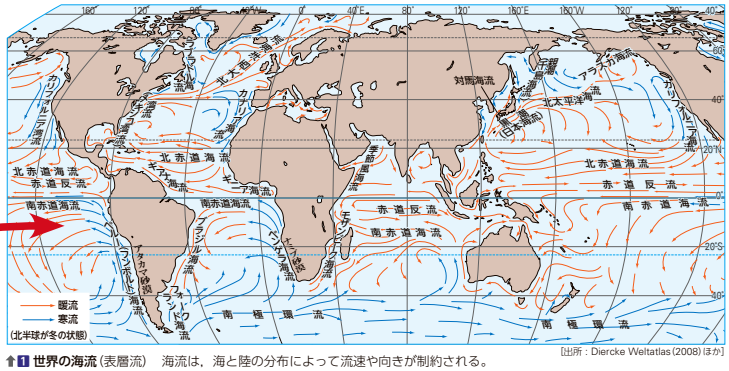
「水」「海洋」「大気」の循環を追い，

単元の学習の流れ

1 水の循環と利用 教p.30 → 2 海洋の循環 教p.32 → 3 大気の大循環と気候 教p.34 → 4 気候の地域性 教p.36 → 5 植生と土壌 教p.38 → 視点 自然環境と生態系 教p.40 → ❸ 世界の自然地域と生活 教p.42～ → ❹ 日本の自然環境と災害 教p.58～ → ❺ 地球環境問題 教p.64

新指導要領に即し，「水」「海洋」「大気」の空間的な規則性や傾向性に着目させます。相互の関わり合いもふまえ，気候のしくみについて段階的に理解を進めます。

教 p.30「水の循環と利用」



↑1 世界の海流（表層流）　海流は，海と陸の分布によって流速や向きが制約される。

[出所：Diercke Weltatlas(2008)ほか]

2 海洋の循環

の役割 風の力や水温，塩分の違いにより生じる海水の流れを**海流**という。海流は，低緯度の熱エネルギーを高緯度に輸とともに，沿岸地域の大気環境にさまざまな影響を与え，地域の特徴づける一因になっている。また，水温・流路・流速などの海質は，季節や数年におよぶ周期で変化するため，海流の変化を知は，**気候変動**など，地球環境の変化を考える重要な手がかりにな流は，流れる水深によって表層流と深層流に分けられる。

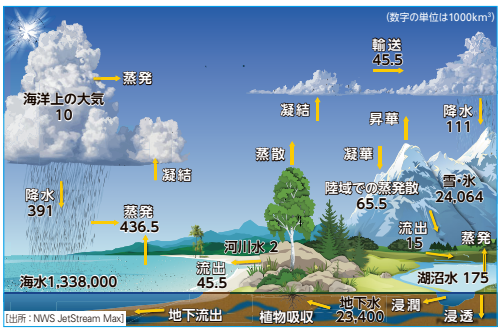
流に循環 海の表層では，海水はおもに風の影響を受けて循環（風成循環）しており，この水平的な海流を**表層流**（吹送流）図1から世界の表層流の傾向をみると，北半球では時計回りに，では反時計回りに流れていることがわかる。北大西洋を流れる**メ湾流**（**湾流**）と，その延長にあたる**北大西洋海流**は，低緯度の熱ギーを高緯度に輸送する**暖流**で，ヨーロッパ沿岸の気候に影響を。また，南太平洋のペルー海流や南大西洋のベンゲラ海流は高緯低緯度に向かう**寒流**で，沿岸では下層の大気が冷やされ上昇気流しにくく，海霧が発生しやすいが，降水量は少なくなる。そのた岸地域の一部では海岸砂漠がみられる。

と寒流の境を**潮境**（潮目）といい，豊かな漁場が発達する。日本太平洋では黒潮（暖流）と親潮（寒流），日本海では対馬海流（暖流）ン海流（寒流）が接している（図2）。表層流は季節や年によって流化させ，黒潮が蛇行すると台風の進路や漁場に影響を与える。

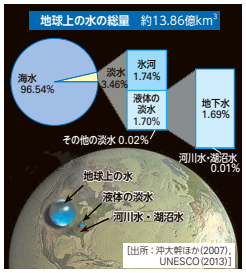
黒潮大蛇行　黒潮の流路が紀伊半島の潮岬沖合で大きく蛇行する現象。蛇行する流路に囲まれた海域に冷水塊が停滞すると，台風や低気圧の経路に影響を与えたり，漁場を沖合に移動させたりする。

② 気候と生態系

本節の学習に関連するSDGs



↑1 水循環と水収支　塩分を含む海水は，蒸発する際に淡水化される。



↑2 地球上の水の量
地球上にある水を球体にして一箇所に集めると，直径1385kmになる。

イントロ
地球上の水循環は気候や生態系にどのような影響を与えているのだろうか。

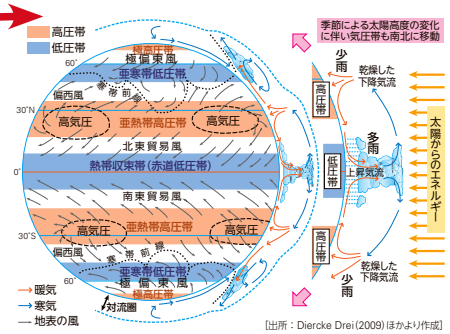
ポイント補説
水管理と国際協力
水は生命の起源であり，最も貴重な天然資源といえるが，地域的な偏りが大きく，深刻な水不足や水質汚染，水を巡る紛争もおきている。一方，水は地球共有の資源として，海水の淡水化や下水処理による水の再生

1 水の循環と利用

循環する水 地球上には約14億km³の水が存在し，地球表面の約3分の2が水でおおわれている。地球上の水は，図1のように固体（雪や氷），液体（水），気体（水蒸気）と絶えず姿を変えて循環している。海洋や地表にある水・氷は熱エネルギーによって蒸発・昇華し，上空で冷やされて雲ができ，雲を構成する水滴や氷の粒が集まって重くなると，雨や雪となって地表に降る。地表に降った水は，湖沼水や河川水，地下水となり，やがては海へと流れ出る。こうした一連の水の流れを**水循環**とよんでいる。

気候のしくみを段階的に深めて理解させる構成です

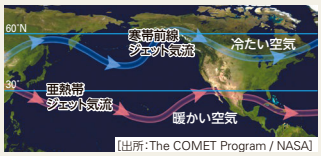
教 p.35「大気の大循環と気候」



[出所：Diercke Drei (2009) ほかより作成]

↑4 **大気の大循環**　対流圏には，低緯度・中緯度・高緯度に三つの循環がある。上昇気流がおきる場所は，赤道付近の熱帯収束帯と，冷たい極偏東風に暖かい偏西風が乗り上げる亜寒帯低圧帯付近である。

地理の話題　ジェット気流



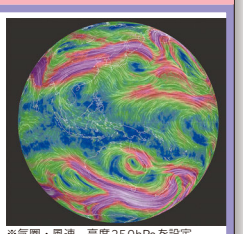
[出所：The COMET Program / NASA]

↑5 **亜熱帯ジェット気流と寒帯前線ジェット気流**

中緯度の対流圏の上層に発達するジェット気流は，蛇行を繰り返しながら南北の熱交換をしている。亜熱帯ジェット気流と寒帯前線ジェット気流があり，亜熱帯ジェット気流は季節によって分流と合流を繰り返し，梅雨や夏・冬の天候に影響を与えている。

大気の大循環　地球の表面上には薄い大気の層があり，太陽からのエネルギーを受けて循環している。太陽からのエネルギーは図3のように低緯度に多く入ってくるが，大気や海洋の循環を通して高緯度との間で熱エネルギーの交換が行われ，地球全体での気温差を解消しようとする。この地球規模での大気の流れを，**大気の大循環**という（図4）。なかでも，地表に近い**対流圏**❶での循環は，気候に大きな影響を与える。

風は，気圧の高いところ（高気圧）から低いところ（低気圧）に向かって吹く。赤道付近では，地表面が太陽からのエネルギーを多く受け，地表面に接する大気が温められ，上昇気流が発達して**熱帯収束帯**（赤道低圧帯）ができる。上昇気流は，上空で南北に分かれたあと自転の影響により緯度20～30度付近で下降し，**亜熱帯高圧帯**（中緯度高圧帯）を形成



※気圏・風速，高度250hPaを設定
[出所：earth]

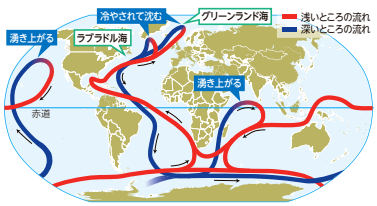
↑6 **「地球の風，天気，海の状況地図earth」ウェブサイトでみるジェット気流の動き**

●ウェブサイトで現在の偏西風の動きを追ってみよう。

earth

大気の大循環を可視化できるウェブサイトの二次元コードを掲載しました。教科書の模式図への理解を深めます。

教 p.32-33「海洋の循環」



↑3 **大洋をめぐる深層循環**　深層流の流速は秒速1cm程度で，沈み始めてから表層に戻るまでに1000年以上もかかる。

↑4 **海洋**
2015年1
足している
取や観測を
行や気候変

深層流による循環　水温や塩分など海水の密度の違いによって深層流が生じる。長い時間スケールでの水の循環を**深層循環**（深層大循環）とよぶ（図3）。グリーンランドの近海や南極海付近では，海氷の発達によって海水の塩分が高くなり，重くなって海中に沈む。沈み込んだ海水は**深層流**となり，大西洋から南極海を経て，インド洋を北上しながら表層へと湧き上がり，もとの位置に戻っていく。

海洋の大循環　表層流と深層流による地球規模の循環を，**海洋の大循環**という。循環によって海水温や塩分の地域差が解消され，地球規模で海洋の平衡が保たれている。現在では，海水温や海流の変化が上空の大気環境に大きく影響することがわかっており，大循環に変化が生じると，地球全体の気候変動につながると考えられている。

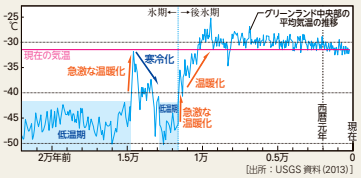
まとめと探究

❶海流にはどのようなタイプがあるか，まとめてみよう。
❷海洋の大循環が地球の気候にどのような影響を与えているか調べてみよう。

地理の話題　海洋の大循環が止まる？

グリーンランドや南極大陸に発達する氷床を掘削して氷を調べると，過去の気候（古気候）が復元できる（図5）。こうした記録から過去の気温を調べると，北大西洋の北部では約1.5万年前に急激な温暖化が生じたあと，約1.3万年前から1000年以上，低温な時期が再来したことがわかる。その急激な温暖化は「海洋のコンベヤーベルト」とよばれる深層循環が現在の形（図3）へと変化したために生じた。直後に北アメリカ北部の氷床の融水でできていた巨大な湖が決壊し，その淡水が海洋に流入して深層循環がいったん停止したため，寒冷化したと考えられている。

北半球で温暖化が進むと，グリーンランドの氷床が融け，海水を薄めて密度を低くするため，海洋の深層循環が弱くなる。その結果，北大西洋海流の流れが弱まり，ヨーロッパに暖流が届かなくなるため，北大西洋では気温上昇が抑えられる。一方，南大西洋には熱が滞留して気温がさらに上昇する。このように，海洋の大循環は，海洋だけでなく地球全体の気候に大きな影響を与えており，海洋観測は，気候変動の仕組みの解明に重要な役割を果たしている（写真4）。



[出所：USGS 資料（2013）]

↑5 **過去2万年のグリーンランドの気温変化**　急激に温暖化が進んだ約1.5万年前以降，氷床の融解などにより現在までに世界の海面水位は100m以上上昇し，日本列島は大陸から離れた弧状列島となった（→p.19,21）。

ワード　海流　気候変動　表層流　メキシコ湾流（湾流）　北大西洋海流　暖流　寒流　潮目　深層循環　深層流　海洋の大循環

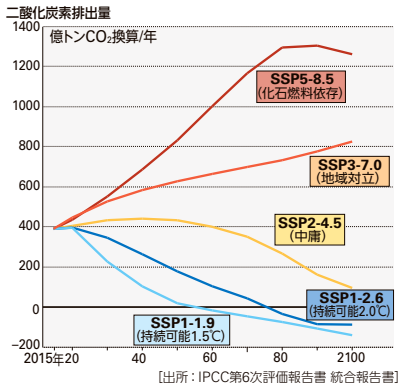
海洋の循環を学習する一方で，その循環が止まることによる影響を考察させ，多面的な探究活動を促します。

コラムでは，「気温上昇の海洋の循環への影響」や「対流圏の上層のジェット気流」を取り上げるなど，本文を深め，より発展的に考察させる **地理の話題** を用意しています。

第1章 自然環境 ⑤地球環境問題

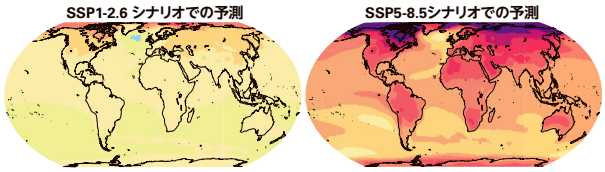
地球環境問題の現状と対策について，

教 p.70-71



[出所：IPCC第6次評価報告書 統合報告書]

⬆1 SSP（共有社会経済経路）シナリオ
SSP1-2.6のシナリオに沿って温室効果ガスの排出量を減らすことができれば，気温上昇を低く抑えられる。



(1981〜2010年平均に対する2081〜2100年平均の地上気温の変化)

0　1　2　3　4　5　6　7　8℃

SSP（共有社会経済経路）シナリオ		2041〜2060年(℃)		2081〜2100年(℃)	
		平均	可能性の高い範囲	平均	可能性の高い範囲
SSP5-8.5	化石燃料依存型の発展のもと気候政策を導入しない	2.4	1.9 〜 3.0	4.4	3.3 〜 5.7
SSP3-7.0	地域対立的な発展のもと気候政策を導入しない	2.1	1.7 〜 2.6	3.6	2.8 〜 4.6
SSP2-4.5	中道的な発展のもと気候政策を導入する	2.0	1.6 〜 2.5	2.7	2.1 〜 3.5
SSP1-2.6	持続可能な発展のもと気温上昇を2.0℃未満に抑制	1.7	1.3 〜 2.2	1.8	1.3 〜 2.4
SSP1-1.9	持続可能な発展のもと気温上昇を1.5℃以下に抑制	1.6	1.2 〜 2.0	1.4	1.0 〜 1.8

[出所：IPCC第6次評価報告書]

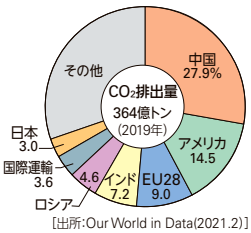
⬆2 2100年までの気温変化の見通し　SSP1-1.9のシナリオでは一時的に気温上昇が1.6℃に達するが，最終的には1.5℃以下に抑えられる。

地球環境問題の最大の関心事である地球温暖化に6ページをあてて詳細に解説。このページでは，IPCCのシナリオをふまえて，「緩和」と「適応」という二つの側面から対策を考察します。

効果ガスの
00年の地球
るのだろう
適応策には
るのだろう

❶SSP（共有社会経済経路）シナリオ
将来の社会経済の発展傾向を示した共有社会経済経路と，放射強制力（気候変動を引き起こす強さ）を組み合わせたシナリオ。第6次評価報告書で採用された。

❷産業革命　18世紀中頃のイギリスから始まった，技術革新による産業構造と経済・社会の大きな変革をいう（→p.104）。



[出所:Our World in Data(2021.2)]

⬆3 二酸化炭素の国別排出割合
中国，アメリカ，インドの動向が，気候変動対策の鍵を握っていることがわかる。

4 地球温暖化への対策

複数ある温暖化シナリオ

IPCCの第6次評価報告書では，将来の社会経済の発展傾向に関する仮定をもとに，五つの**SSP（共有社会経済経路）シナリオ**❶（図1）を示しており，これに基づいて21世紀末までの気温変化が予測されている。シナリオでは，持続可能な発展のもとでただちに対策をとり温室効果ガスの排出を最大限に抑制できた場合は，気温上昇を約1.4℃に抑えられるとされている（図2：SSP1-1.9）。しかし，化石燃料に依存する発展を続けた場合は，21世紀末の世界の平均気温は約4.4℃上昇するとされている（図2：SSP5-8.5）。

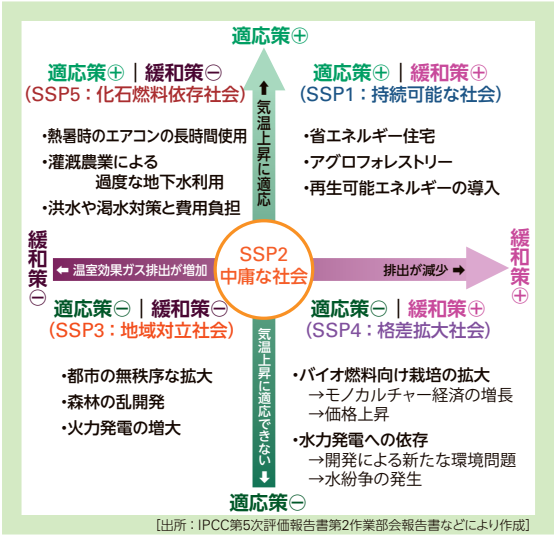
温暖化防止への国際的な取り組み

IPCCのシナリオは，21世紀末に平均気温の上昇を2℃以下に抑えるためには，ただちに温室効果ガスの排出を削減し，21世紀末には排出ゼロを実現する必要があることを示している（図1）。こうした目標を実現するために，温室効果ガスの排出量を削減する取り組みが世界的に進められている。

国別に二酸化炭素の排出量をみると，中国，アメリカ，インドからの排出量が世界全体の半分近くを占めている（図3）。こうした温室効果ガスを大量に排出する国と，それ以外の国との間では，排出規制のあり方について意見の隔（へだ）たりが大きい。また，技術が未発達の発展途上国は，自力で温暖化対策を進めることは難しい。2016年に発効した**パリ協定**では，気温の上昇を**産業革命**❷の前と比べて2℃以下に抑える数値目標が国際的な合意をもとに設定された。しかし，目標実現のための温室効果ガスの削減目標は各国の自主性にゆだねられ，足並みはそろっていない。今後の交渉の場となる締約国会議（COP）の動向が注目される。

多角的に捉えて考察します

緩和策・適応策を通して持続可能性について考察



[出所：IPCC第5次評価報告書第2作業部会報告書などにより作成]

4 温暖化への緩和策と適応策　温暖化対策を持続可能なものにするには，緩和策と適応策の両立が不可欠である。

単元の学習の流れ
1 環境問題の大観 教p.64 → 2 越境する汚染 教p.66 → 3 地球温暖化の現状 教p.68 → 4 地球温暖化への対策 教p.70 → 視点 国際協力とシチズンサイエンス 教p.72

5 エネルギーを自給自足する「0＋ハウス」（中国・天津（テンチン），2020年5月撮影）　「天津エコシティ」は，今後の中国の都市開発のモデルとして，中国・シンガポールが共同開発を進めている。

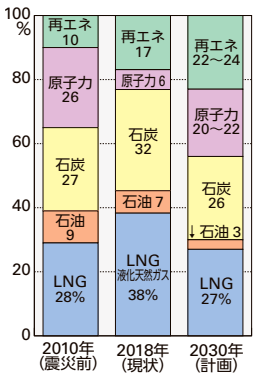
6 アグロフォレストリー（コートジボワール，2016年2月撮影）　ゴムの木の間で農作物を育て，天然ゴム農家の安定収入と環境保全を両立させる。

緩和策と適応策

地球温暖化への対策は，図4のように緩和策と適応策の二つに分かれ，さまざまな取り組みが行われている。

緩和策は，温室効果ガスの排出量を抑えることにより温暖化の進行を抑える対策をいう。例えば，自動車，住宅，工場などの**省エネルギー化**と**再生可能エネルギー**（→p.101）の導入，資源や製品の**リサイクル**，環境に配慮した都市の開発・再開発などがあげられる。**省エネルギー住宅**では，太陽光発電を導入するとともに，高断熱素材を壁面などに使用し，高効率の給湯器や照明などを設置し，それらをネットワークで結ぶことで，エネルギー消費を抑える工夫が行われている（図5）。エネルギーの面では，図7のように枯渇性エネルギー（→p.92）（化石燃料）から再生可能エネルギーへの移行が進められている。

適応策は，気候の変化に合わせて，暮らしのあり方や，農業，工業など産業活動の構造を変えたり，渇水（かっすい）対策や治水（ちすい）など，自然災害に対する備えを進めたりする対策をいう。例えば，ぶどうや米などの農作物を，栽培地域の移動や品種改良によって，温暖化が進む気候条件に適応させようとしている。熱帯地域では，**アグロフォレストリー**とよばれる農業モデルを，国連食糧農業機関（FAO）が推奨している。これは，同じ区画の樹木の下で畑作や放牧を行い，強い日射から作物や家畜を守るもので，林業と農牧業が一体となって自然との調和をはかるよう進められている（写真6）。温暖化対策と経済発展を両立させる**持続可能な開発**の実現には，こうした緩和策と適応策を適切に組み合わせていく必要がある。



再エネ：水力,太陽光,風力,バイオマス,地熱
[出所：エネルギー白書2020ほか]

7 日本の発電電力量構成と2030年の計画　原発事故後に化石燃料の割合が増えたが，今後は，再エネと安定供給のバランスをとるようエネルギー計画が進められている。

日本のエネルギー計画について，震災前と現状を比較することにより，温暖化対策としての火力低減，再エネ普及が進められるなかでの原発の位置付けについても考察させます。

本パンフ →p.32

まとめと

❶温暖化防止
はどのよう
まとめてみ
❷適応策には
あるか，ま

エネルギーの持続可能性については教p.100，102で世界・日本の動向を学習し，教p.304「国土像の探究　エネルギーの安定供給をめざして」で学んだ内容を総括し探究活動を行います。

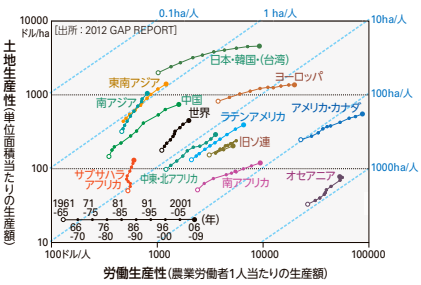
第２章 資源と産業 ①農林水産業

各産業分野，成立の背景から

農林水産業では，各農業地域の特徴や成立条件など基本的事項をおさえます。その上で，「都市の農業と市場」や「グローバル化」といった違う側面からの学習を通して，食料問題や日本の農業を考察します。

単元の学習の流れの例
「農林水産業」単元の流れ

1 農業の諸条件 教 p.74-75 → **2** 社会の発展と農業の変化 教 p.76-79 → **3** 都市とその周辺で営まれる農業 教 p.80-81 → **4** グローバル化・技術革新と農業 教 p.82-83



3 地域別にみた土地生産性と労働生産性の変化
先進地域では，資本集約的な農業を展開し，短期間で土地生産性と労働生産性を高めた。一方で，サブサハラに代表される途上地域では，資本投下量が小さいことから，労働生産性は停滞傾向にある。

4 大規模な小麦栽培（オーストラリア ・ ウエスタンオーストラリア州，2015年11月撮影） 世界各国の需要に対応して，多様な品種が輸出されている。

5 都市近郊の農地（韓国釜山，2018年10月撮影） 都市部での需要に対応するため，ビニルハウスを利用した施設園芸により生産性を高めている。

思考力・判断力の育成
地域別に土地生産性と労働生産性の関係の推移を読み解き，各地域の農業の特徴を考えさせます。

…，労働時間や労働者当たりの生産性や，単位面積当たりの生産…使われる（図3）。例えば，アメ…

知識の獲得・整理
グローバル化や食生活の変化が農業にどのように影響しているか，大豆の貿易に注目して解説します。

地理の話題 多様化する大豆の用途

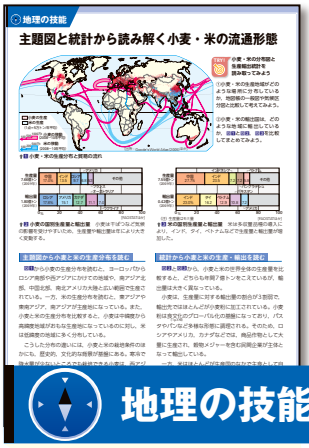
経済のグローバル化によって，食料以外の用途で取り引きされる農作物も増加している。例えば，大豆は食料ではなく，搾油原料，家畜飼料，バイオディーゼルの原料としての需要が中心である。ブラジルには穀物メジャーが進出し，大豆を世界に販売するアグリビジネスを展開している。その輸出先は，経済発展によって飼料需要が増加している中国が大半を占めている（写真2，図4）。しかし，食料としての農作物の供給が逼迫することや，農地を広げるための森林伐採などにより，土地の荒廃が進むことが懸念されている。

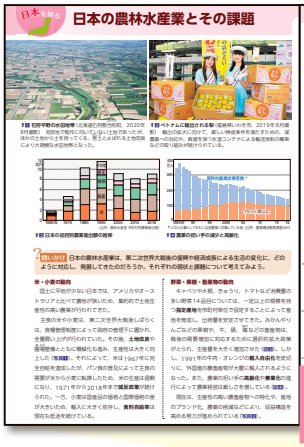
4 大豆の貿易動向 中国は大豆の輸出国であったが，1990年代後半に輸入量が輸出量を逆転した。

現状まで段階的に学習できます

第1次産業：農林水産業 → 第2次産業：資源・エネルギー → 第2次産業：工業 → 第3次産業

第3次産業を独立させて第3章への接続をはかりました





本パンフ →p.16

地理の技能

日本を知る

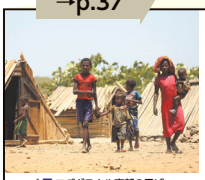
→ 主題図と統計から読み解く小麦・米の流通形態 教p.84

→ 5 6 林業・水産業 教p.85-87

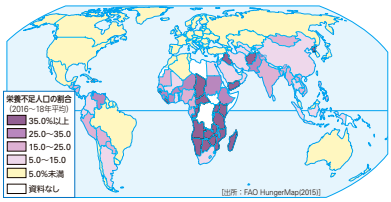
→ 7 食料問題 教p.88-89

→ 日本の農林水産業とその課題 教p.90-91

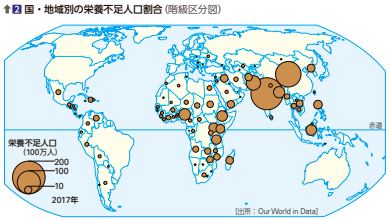
本パンフ →p.37



↑1 マダガスカル南部の干ばつ（2020年11月撮影） 気候変動による干ばつが長期化して，食料不足が深刻化し，150万をこえる人々が栄養不足におちいった。



↑2 国・地域別の栄養不足人口割合（階級区分図）



↑3 国・地域別の栄養不足人口（図形表現図）

GIS上で，国・地域別に，①国・地域名（3文字略称），②総人口，③栄養不足人口が記されたデータを読み込み，国・地域別に塗り分けられた地図と関連づけ，図2や図3のような地図を描いてみよう。

◉栄養不足人口と総人口のデータをダウンロードしよう。

イントロ

世界の栄養不足人口の分布に，地域的な偏りがあるのはなぜだろうか。

6 食料問題

偏在する食料

世界全体でみると，人口の増加を上回るペースで食料生産量が増加しており，計算上は，世界人口を養えるだけの食料が生産できている。しかし，実際には食料の需要と供給には地域的な偏りがあり，世界では，9人に1人の割合で栄養不足に苦しむ人々がいる。

国・地域別の**栄養不足人口**の割合を示した地図（図2）をみると，アジアやアフリカで栄養不足の傾向がみられ，特にサブサハラアフリカで深刻化していることがわかる。アフリカには，植民地時代からプランテーション農業による**商品作物**の栽培に依存する国が多く，自給用穀物の生産量は少なく，生産性も低い状態にある。また，干ばつ（写真1）や自然災害，地域紛争の影響，過耕作などによって荒廃する農地も増えている。次に，栄養不足人口の絶対数に着目した地図（図3）をみると，アフリカだけでなく，インドや中国でも栄養不足人口が多いことがわかる。インドや中国は新興国として経済発展を続けているが，国内での経済格差が大きく人口総数も多いため，栄養不足人口も多くなっている。

ポイント補説

アフリカで自給生産が伸び悩む理由

アフリカでは，米などの穀物栽培にかかる費用が高く，干ばつなどのリスクもあることから，換金ができるプランテーション作物の栽培が中心となった。輸入される米が比較的安価であることも，自給用穀物の生産量が伸び悩む要因となっている。

豆知識 **アフリカの都市農業** アフリカでは農村から都市への人口流入が続いていて，都市人口を賄うだけの農業生産が課題になっている。そのため，都市部で農業に従事している住民も多い。

↑4 WFPによる学校給食の提供（イエメン・サナア，2020年12月撮影） 学校に行けば給食を食べることができるため，子供にとって，学校に行くことは生きる

↑5 JICAによる稲作支援（カメルーン，2017年2月撮影） 高収量のアジア稲と病気や雑草に強いアフリカ稲を掛け合わせたアフリカ米の普及が進められている。

食料問題への対策

干ばつなどの自
などによる突発
国際社会による無償の**緊急援助**
料供給が追いつかず，栄養不足
開発援助（ODA）（p.136）などの2国間
われている。例えば，**国連世界**
ムを通して子供たちの栄養不足

また，農業技術が未発達な地
導入により土地生産性と労働生
東南アジアや南アジアでは，1
ド米の導入によって生産性が飛躍的に上昇した。しかし，サブサハラでは，自然災害や紛争，人口増加などの影響もあり，発育不全の子供の数が増加しており，緊急援助と継続的な支援の双方が欠かせなくなっている（図6）。日本は，WFPを通した支援のほかに，**ネリカ米**とよばれるアフリカの気候に適した高収量品種の栽培を支援している（写真3）。

思考力・判断力の育成

食料問題も，干ばつや紛争による緊急援助が必要なもの，自然条件や輸出用商品作物の栽培により自給率が低いことに起因するものなど，地域によって様々であることを，統計やコラムから読み解きます。

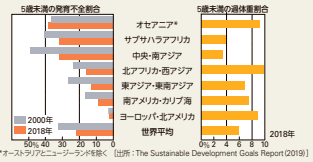
まとめと探究

❶栄養不足の状況を地域ごとにまとめてみよう。

❷サブサハラの国を一つ取り上げ，どのような援助活動が行われているか，調べてみよう。

地理の話題 **経済発展により生じる食料問題**

経済発展が進むと，発育不全の子供の割合は少なくなるが，肉類の消費量が増加して飽食（ほうしょく）になり，肥満や生活習慣病が増加する（図6）。肉類の消費量が増加すると，飼料用として，とうもろこし，小麦，大豆などの穀物や豆類が利用される割合が増える。さらに，バイオ燃料向けの穀物需要が増加すると，食料向けに供給される穀物や豆類の量はさらに少なくなる。そのため，食料自給率が低い発展途上国では，自国の経済力だけで食料用穀物を確保することが難しくなり，慢性的な栄養不足が続く状況になる。



↑6 地域と経済発達段階により異なる栄養状況（5歳未満） 途上国の人々の生活も，穀物や脂質が多く安価な加工食品に依存する傾向にあるため，肥満が課題になっている。

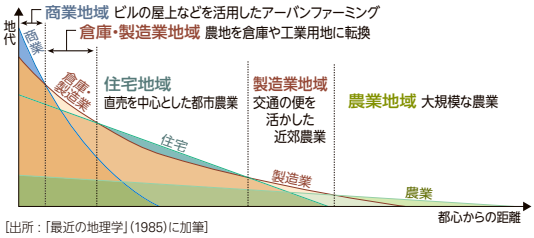
教 p.80-81

新しい視点

都市とその周辺で営まれる農業

農業への新しい視点として，「農地」と「市場」の近接性に着目します。具体的な地図・模式図・写真を通して，農業の立地の距離との関係について理解を深めます。

↑1 東京周辺の農地の分布　図の撮影地点Ⓐ～Ⓔは写真3～7のどれに当てはまるだろうか。



[出所：「最近の地理学」(1985)に加筆]

↑2 地代と距離の関係にみる農業の傾向　集約的な経営を行うとともに，生産緑地制度による優遇を受けたり，不動産との兼業などで収入源を確保したりすることで，都市でも農業が維持されている。

↑3 ビルの屋上を活用した小規模農園（東京都江東区，2017年9月撮影）　個人向けの小規模区画が貸し出され，近隣で働く人々を中心に利用されている。

↑4 倉庫・製造業に土地利用が転換した地域（東京都板橋区，2015年10月撮影）　昭和初期から水田が埋め立てられ，工業地域に変化した。

世界の農業地域の学習の後に，都市農業や近郊農業といった具体的な事例から，農地と市場の距離の関係や，都市化の進行による農業の変化について解説します。

問いかけ 都市とその近郊で営まれる農業には，どのような特徴があるのだろうか。また，都市の発展と拡大によって，どのように変化してきたのだろうか。

都市からの距離と農業

大きな市場である都市とその近郊で営まれる農業は，市場からの距離によって特徴づけられる。市場に近いほど農業は集約的になり，離れるほど粗放的になる。

例えば，市場に近いところでは輸送費はかからないものの地代（ちだい）が高くなるため，狭い土地で付加価値の高い作物を生産する**集約的**な経営が多くなる。そのため，多品目少量生産による野菜生産や酪農など，生鮮（せいせん）品に特化する傾向が強い。

一方，市場から離れると，地代は安くなるが輸送費が高くなるため，広大な土地で大量の農作物を**粗放的**に生産する経営となり，穀物や野菜などの少品目大量生産が中心になる。

都市化と農業

第２次産業や第３次産業が農業より高い利益を得られる地域では，農地はほかの土地利用へと転換する（図2）。都心部では，LED照明を用いた水耕栽培による建物内での野菜の生産や，ビルの屋上を利用した小規模農園の設置など，アーバンファーミングと呼ばれる新たな農業の形が普及しつつある（写真3）。都心に近い地域では，都市の拡大とともに写真4のように農地から住宅・工業用地への転換が進むが，住宅地の近くでは，都市住民向けの園芸農業を中心とした**都市農業**が維持されている（写真5）。都市農業では，機械・設備・農薬・肥料などを投入した集約的な経営により直売向け野菜を生産し，付加価値を高めている。

ワード 集約的　粗放的　都市農業　近郊農業　付加価値　6次産業

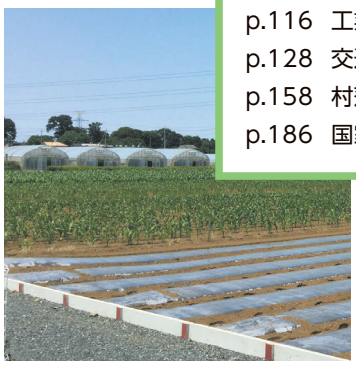
新しい視点

題材を取り上げ，理解を深めます

新しい視点のテーマ

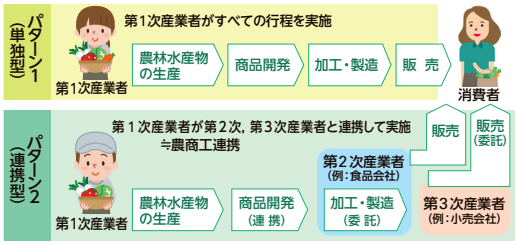
p.40	気候と生態系	自然環境と生態系
p.56	自然と生活	高山地域の自然と生活
p.72	地球環境問題	環境問題への国際協力とシチズン・サイエンス
p.80	農林水産業	都市とその周辺で営まれる農業
p.116	工業	知識集約型産業の発展
p.128	交通・通信	交通・通信の発達と買い物行動の変化
p.158	村落・都市	都市の拡大と都市システム
p.186	国家とその領域	北極圏と南極圏

↑5 住宅地で営まれる都市農業
(東京都小平市，2016年5月撮影)
都市近郊の農地は，災害時の避難空間としての役割も果たしている。

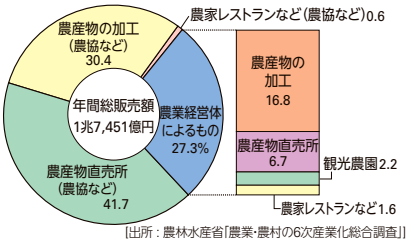


↑6 都市に野菜を供給する近郊農業
(埼玉県狭山市，2016年6月撮影)
露地栽培とともに，ビニルハウスによる施設園芸農業も営まれている。

↑7 大規模な稲作地帯
(茨城県取手市，2016年7月撮影)
社員食堂との提携や回転寿司チェーンへの出荷など，地産地消をはかっている。



↑8 農業の6次産業化



[出所：農林水産省「農業・農村の6次産業化総合調査」]

↑9 農業生産関連事業の総販売金額

農業と多くの分野の業種や地域が結びつき，新たな付加価値を創出する「農業の6次産業化」を取り上げます。
農業の市場との関係や採算性を，新たな切り口から考察することができます。

都市の拡大と農業

都市の近郊では，交通に便利な地域を中心に住宅地や工業団地などが整備されるようになるが，交通の便を活かして鮮度を保った状態で消費地へ野菜・果物・花卉類などを供給する**近郊農業**が営まれている。かつては粗放的な農業が行われていた地域でも，流通網の整備によって**写真6**のような集約的な農業が営まれるように変化してきている。さらに都心から離れた低地では，**写真7**のような大規模な稲作が維持されている。

現在は，冷蔵・冷凍技術の向上により高い鮮度と品質を維持したまま，年間を通して農作物を出荷している。また，乾燥野菜や果汁へ加工して製品の重量を減らすことにより，さらに長期保存や長時間輸送が可能になる。技術の発展により農作物の**付加価値**を高めることは，農業の維持につながっている。

農業の6次産業化

農業の複合的な経営という観点で，**6次産業**という言葉が注目されている(**図8**)。具体的には，第1次産業で生産される1次産品を，その生産地で加工したり調理したりして付加価値を高め，第2次産業である製造業を発展させる。さらに製品化したものを地元の直売所やレストランなどで販売することで，第3次産業であるサービス業などを発展させるというものである(**図9**)。

6次産業による付加価値の創出は，地域活性化や雇用の創出につながり，農業の持続可能性を高めることに寄与する。例えば都市近郊の酪農は，季節の変動による搾乳量の変動や，飲料用の牛乳の需要減少などにより安定的な経営が難しくなっている。そこで，チーズなどの乳製品に加工し，直売施設やカフェを併設することで販路を拡大している。

まとめ 都市とその近郊で営まれる農業は都市に近いほど集約的になるが，都市化や交通網の発達などの影響を受け市場が拡大し，多種多様な形態で商品を販売するようになっている。

問いかけ → まとめ

最初の問いかけで，「新しい視点」の着目点を明確に設定します。最後のまとめで，学習内容を確認できるようにしています。

各系統分野の世界の学習後に，

教 p.90-91

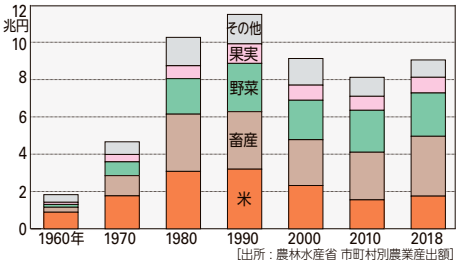
日本を知る

日本の農林水産業とその課題

日本の農林水産業について，「米・小麦」「野菜・果樹・畜産物」「林業」「水産業」に項目を立てて整理しながら，歴史的な経緯や現状，課題をしっかり記述しています。

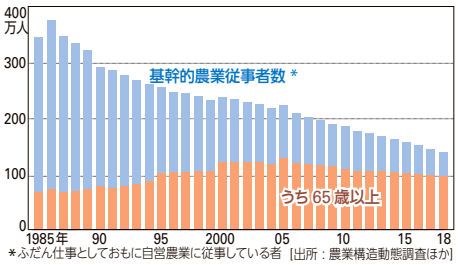
↑1 **石狩平野の水田地帯**（北海道石狩郡当別町，2020年8月撮影） 泥炭地で稲作に向いていない土地であったが，ほかの土地から土を持ってくる，客土とよばれる土地改良により大規模な水田地帯となった。

↑2 **ベトナムに輸出される梨**（福島県いわき市，2019年8月撮影） 輸出の拡大に向けて，厳しい検疫条件を満たすための，減農薬への対応や，鮮度を保つ氷温コンテナによる輸送体制の構築などの取り組みが続けられている。



［出所：農林水産省 市町村別農業産出額］

↑3 **日本の品目別農業産出額の推移**



＊ふだん仕事としておもに自営農業に従事している者 ［出所：農業構造動態調査ほか］

↑4 **農業の担い手の減少と高齢化**

問いかけ 日本の農林水産業は，第二次世界大戦後の復興や経済成長による生活の変化に，どのように対応し，発展してきたのだろうか。それぞれの現状と課題について考えてみよう。

知識の獲得・整理
左ページでは，日本の農業の現状と課題を，順序だてて整理します。

❶日本の農業の特徴
↓
❷主食の米や小麦の歴史的変化と課題
↓
❸主食以外の動向と課題
↓
❹新しい動き

米・小麦の動向

❶ 国土に平地が少ない日本では，アメリカやオーストラリアと比べて農地が狭いため，集約的で土地生産性の高い農業が行われてきた。

❷ 主食の米や小麦は，第二次世界大戦後しばらくは，食糧管理制度によって政府の管理下に置かれ，全量買い上げが行われていた。その後，**土地改良**や圃場整備とともに機械化も進み，生産性は大きく向上した（**写真1**）。それによって，米は1967年に完全自給を達成したが，パン食の普及によって主食の需要が米から小麦に転換したため，米の生産は過剰になり，1971年から2018年まで**減反政策**が続けられた。一方，小麦は国産品の価格と国際価格の差が大きいため，輸入に大きく依存し，**食料自給率**は現在も低迷を続けている。

野菜・果樹・畜産物の動向

❸ キャベツや大根，きゅうり，トマトなど消費量の多い野菜14品目については，一定以上の規模を持つ**指定産地**を市町村単位で設定することによって産地を育成し，出荷量を安定させてきた。みかんやりんごなどの果樹や，牛，豚，鶏などの畜産物は，戦後の需要増加に対応するために選択的拡大政策がとられ，生産量を大きく増加させた（**図3**）。しかし，1991年の牛肉・オレンジの**輸入自由化**を皮切りに，外国産の農畜産物が大量に輸入されるようになった。また，農業の担い手の**高齢化**や**兼業化**の進行によって農業経営は厳しさを増している（**図4**）。

❹ 現在は，生産性の高い農畜産物への特化や，産地のブランド化，農薬の削減などにより，収益構造を高める努力が進められている（**写真2**）。

ワード 土地改良　減反政策　食料自給率　指定産地　輸入自由化　高齢化　兼業化　都市農業　植林　木材自給率　合板　沿岸漁業　沖合漁業　遠洋漁業　排他的経済水域

日本を知る

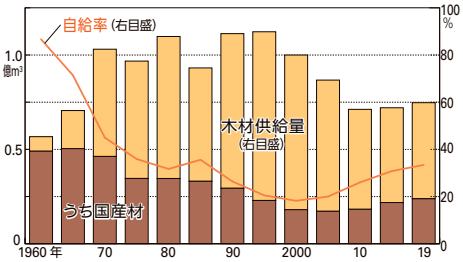
日本の現状と課題を取り上げます

日本を知る のテーマ

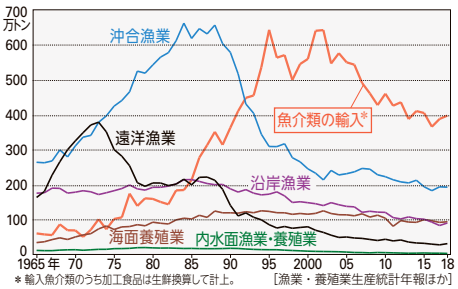
p.90	農林水産業	日本の農林水産業とその課題
p.102	資源・エネルギー	日本の資源・エネルギー問題
p.118	工業	日本の工業　変化と課題
p.130	交通・通信	日本の暮らしを支える交通とその課題
p.140	貿易・観光	日本の観光とその課題
p.150	人口	日本の人口問題
p.164	村落・都市	日本の都市・居住問題と解決への努力

⬆5 **機械化された林業**（宮崎県都城市，2013年9月撮影）

⬆6 **カツオの水揚げ**（宮城県気仙沼市，2018年4月撮影）



⬆7 **日本の木材供給量・自給率の推移**



⬆8 **日本の漁業別漁獲量と魚介類輸入量の推移**

農業・林業・水産業の推移をあらわす主要な統計を掲載しました。時代による発展や衰退をグラフの変化から追うことができます。

林業の動向

日本の国土の約7割を占める森林は，第二次世界大戦後の復興需要などで成長の早い針葉樹の**植林**が推奨されたため，スギ，マツ，ヒバなどの人工林が多くなっている。しかし，1964年に木材輸入が全面自由化されたため，安い外国産材の流入によって（→p.85）林業経営は厳しくなり，**木材自給率**は2002年まで減少を続けた（**図7**）。近年は，過伐採（かばっさい）への対策と現地産業の保護から，東南アジア諸国では丸太の輸出規制が進み，**合板**用のラワン材の入手が難しくなった。その結果，合板の国産化が進み，木材自給率は上昇に転じている。

しかし，急傾斜地が多い日本の林業は規模も小さく，伐採と搬出にコストがかかり，担い手の高齢化も進んでいる。林野庁による「森林・林業基本計画」では，木材自給率を5割にすることを目標に，戦後に植林され50～70年の伐採適齢期を迎えている国産材の利用を推進している（**写真5**）。

水産業の動向

日本周辺の海域では，暖流からはまぐろ，かつお，いわしなどが北流し，寒流からはさけ，さんまなどの回遊魚が南下してくる。そのため，暖流と寒流が接する潮境（しおざかい）付近が豊かな漁場になっている（→p.86）（**写真6**）。日本の漁業従事者の9割近くは個人経営で，小型船による**沿岸漁業**に従事している。一方，日本の漁獲量の4割以上は，**排他的経済水域**（→p.179）（EEZ）内で操業される**沖合漁業**によるもので（**図8**），日本各地に拠点となる漁港がある。**遠洋漁業**は，各国がEEZを設定したことなどにより衰退したが，かつおやまぐろを中心に，公海や，協定を結んだアフリカやオセアニアの国々のEEZで漁を続けている。

一方で，近年は魚介類の国内消費量が減少傾向にあり，2016年度には肉類の国内消費量を下回った。水産業の維持・拡大には魚介類の消費拡大が必要となるため，ライフスタイルの変化にあわせた商品開発や消費を促す啓蒙（けいもう）活動が進められている。

世界の林業・水産業に関する記述と関連づけて，日本の動向を整理しました。

思考力・判断力の育成
日本の農業・林業・水産業のもつ構造的な課題とともに，維持・発展に向けた動きを取り上げて，解決に向けた今後の展望を考えさせます。

まとめ 日本の農林水産業は，経済や環境の変化に対応しながら，農業の多機能化，林業の人材育成と国産化，水産資源の回復や消費拡大など，維持，発展のあり方を模索している。

問いかけ から **まとめ** へ
「新しい視点」と同様に学習内容の確認をはかります。

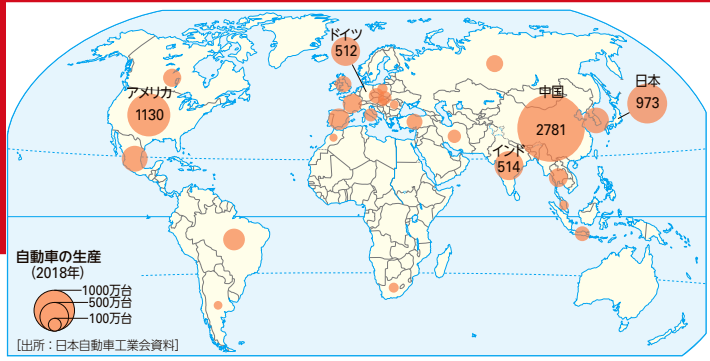
第2章 資源と産業 ③工 業

経済成長を牽引する工業の新しい動きについて解説します

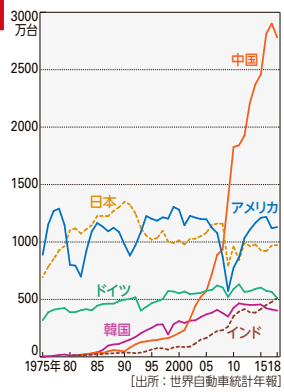
教 p.110-111

工業の基幹的な役割をもつ自動車工業を取り上げ，世界図や推移グラフ，工場の分布図から，国際分業の進むようすについて理解を深めます。

←1 輸出自動車と自動車運搬の専用船
（名古屋港，2017年11月撮影）



↑2 世界の自動車生産



↑3 世界の自動車生産の推移

4 自動車工業の特徴と日本の海外生産

イントロ

基幹工業としての自動車工業は❶どのような歩みを経て，国際的なネットワークをもつようになったのだろうか。

自動車工業の成長

1880年代に登場したガソリン自動車の生産は，1910年代には**流れ作業**による**大量生産方式**が導入され，飛躍的な発展を遂げ，**モータリゼーション**の時代をもたらした。一方，1920年代には軽油を燃料にしたディーゼル自動車が開発され，トラックやバスという輸送手段も可能になった。主要先進国では，第二次世界大戦後までに自動車工業が**基幹工業**になった。生産国としては，かつてはアメリカ，ドイツ，フランスがリードしていたが，1970年代には日本が急成長し，1980年代には世界最大の自動車生産国になった（図3）。しかし，2000年代以降は，中国，韓国，インドで生産が急増しているほか，タイ，ブラジルなどでの生産も伸びている（図2）。

（→p.122, 128）

（→p.228）

現在の自動車生産は，世界各国の自動車企業の資本提携や部品供給など，相互に密接に結びついており，グローバルな生産ネットワークがつくられている。さらにハイブリッド車❶や電気自動車など環境に配慮した開発も進んでおり，技術面でも国際的な競争と連携が深まっている。

❶**ハイブリッド車**　ガソリンで動くエンジン（内燃機関）と，電気で動くモーター（電動機）といった複数の動力源をもつ自動車の通称。燃費や環境性能に優れている。

自動車産業の総合組立産業としての立地

総合組立産業ともよばれる自動車工業は多分野にわたる部品から構成されているため，工場間，企業間での分業化が進みやすい。特に，関連工場や下請工場が一つの地域に集中する傾向が強い。例えば，ドイツのヴォルフスブルク，フランスのミュルーズ，愛知県豊田市などは，**企業城下町**を形成している（図4）。アメリカの自動車産業はデトロイトなどの五大湖沿岸から中部のテネシー州まで広い範囲にわたっている。

↑4 豊田市の自動車製造業の系列工場の分布

知識の獲得・整理

自動車産業の現状を理解するために，段階を追って整理します。

教p.112からの国際分業・多国籍企業の理解へとつながります。

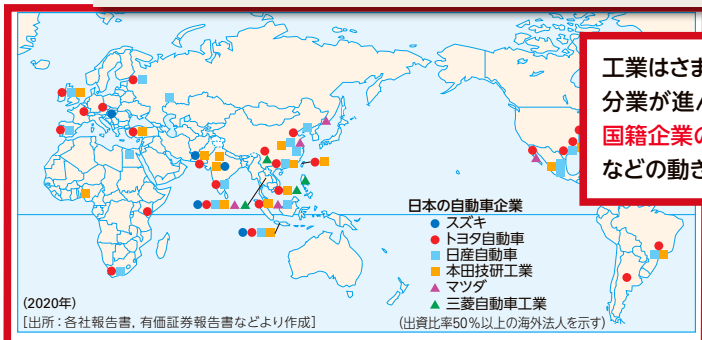
❶現在に至る歴史的な発展
↓
❷総合組立産業としての立地
↓
❸日本を事例とした海外生産の発展

単元の学習の流れ

工業地域と立地

1 社会の発展と世界の工業化 教p.104 ➡ 2 工業の立地 教p.106 ➡ 技能 分布から読む立地指向 教p.107 ➡ 3 工業地域の形成と変化 教p.108 ➡ 4 自動車工業の特徴と日本の海外生産 教p.110 ➡ 国際分業と課題 5 国際分業の進展と多国籍企業 教p.112 ➡ 6 グローバル化に伴う諸問題 教p.114 ➡ 視点 知的集約型産業の発展 教p.116 ➡ 日本 日本の工業変化と課題 教p.118

工業はさまざまな技術革新を経て，世界各地に広がり，現在では，国際分業が進んでいます。各項目ごとの基本となる知識を整理しつつ，「多国籍企業の現地化」「サプライチェーンの確立」「ソフト化する工業生産」などの動きを取り上げ，新しい工業の動向に対応しています。



⬆5 日本の自動車企業の海外での乗用車組立工場
1980年代から本格化した海外生産は，近年では，中国やインドなどの新興大国での増加が目立つ。オセアニアからの撤退や，EUから離脱したイギリスからの生産の引き上げなど，貿易環境の影響を受け海外生産にも変化がみられる。

⬆6 中国の日系自動車工場（武漢（ブーハン）市，2020年3月撮影）　年間70万台にのぼる組み立てが行われる世界有数の生産拠点である。

3 日本の自動車企業の海外生産

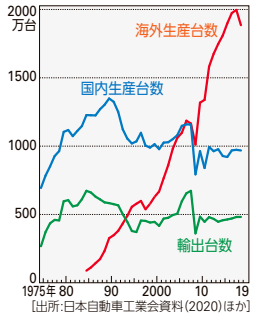
日本の自動車企業の国内生産台数は，かつての世界首位から2018年現在，3位となっているが（図3），海外生産台数を加えれば年間3000万台に近く，依然として自動車生産大国であることに変わりはない（図7）。

日本の自動車工業の海外展開は，1960年代のアジアやオーストラリアなどへの**ノックダウン輸出**に始まった。これは，完成品を輸出するのではなく，日本から一揃（そろ）いの部品を輸出し，現地工場で組み立てて供給する形態である。さらに1970年代後半に，アメリカとの貿易摩擦（まさつ）が問題になると，アメリカの貿易赤字解消から**現地生産**が求められ，本格的な海外生産が始まった。アメリカ中西部には，日本からさまざまな部品工場が進出して，現地の組立工場の系列下に組み込まれ，日本企業による現地生産体制が生まれた。石油危機後は，ガソリン価格が高騰（こうとう）したため，小型で燃費のよい日本車が強い市場競争力をもつようになった。また，1980年代に入ると，日本企業の現地生産は東南アジアやメキシコ，ブラジルでも本格化し，EUの発足以降はヨーロッパ市場をねらって，フランスやチェコへの工場進出が進んだ。さらに2000年代以降は，中国やインド，ロシアなど新興大国への進出が続いている（図5）。

（→p.113）

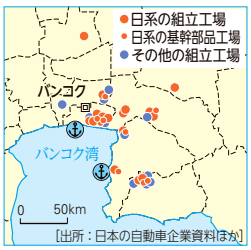
海外生産が進むなか，自動車の製造が国境をこえて行われるようになった。完成車の貿易には関税が課せられるため，これまで組立工場は国ごとにおいて関税を回避し，一方，部品についてはある国の特定工場に生産を集中させて，そこから調達することで，効率化をはかってきた。**自由貿易圏**が設定され関税がかからなくなると，東南アジアではタイに生産を集中させるなどの動きもみられるようになった（図8）。

（→p.218）



⬆7 日本の自動車企業の国内生産・輸出・海外生産の推移

思考力・判断力の育成
本文の日本における自動車工業の年代別変化について，グラフの推移と比べることで，理解を深めることができます。



⬆8 タイ・バンコク付近の自動車工場の分布

まとめと探究

1. 自動車産業が地域的に集中し，企業城下町を形成するのはなぜだろうか。
2. 日本の自動車メーカーの海外進出は今後どのように変化するか考えてみよう。

地誌学習との連携
タイへの多国籍企業の進出については，地誌の東南アジアの工業の単元で輸出加工区や工業団地などを扱っており，地域の事例としてより具体的に学習することができます。
→教p.218

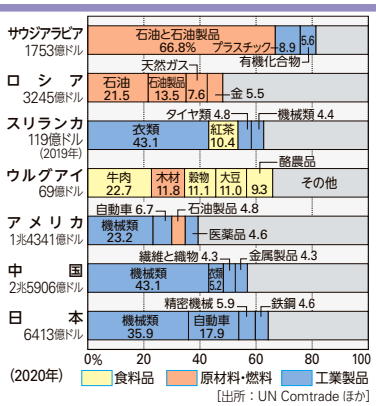
教 p.132-133

系統分野の冒頭に各節に関連の深いSDGs目標マークを取り上げています。

本節の学習に関連するSDGs

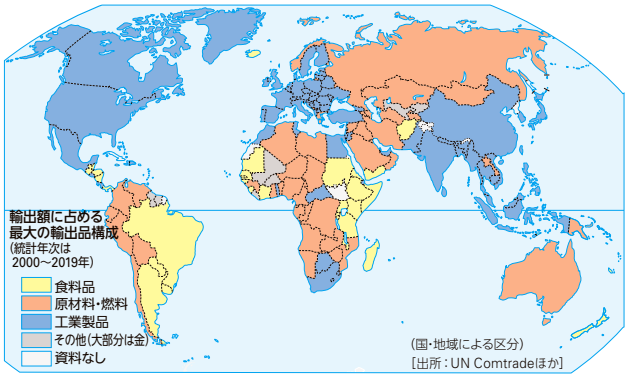
❷ 貿易・観光

知識の獲得・整理
冒頭では，グラフと世界図から世界各国の輸出品目の状況を読み解きながら，本文の理解を深めていきます。



[出所：UN Comtrade ほか]

↑1 おもな国の輸出品目



↑2 各国の輸出額１位品目

イントロ
先進国と途上国にはどのような貿易構造がみられるだろうか。また，自由貿易を推進するためにどのような国際的な取り組みが進められているのだろうか。

言葉の整理
南北問題と南南問題
先進国と発展途上国の経済格差を地理的な位置から**南北問題**とよぶ。一方，発展途上国のなかでも，新興国や産油国と，サブサハラアフリカの最貧国の経済格差を**南南問題**とよぶ。

❶**特恵関税**　先進国が発展途上国から輸入を行う際に関税率を引き下げるもので，発展途上国の支援を目的とする国際的な関税制度。

1 世界を結ぶ貿易

世界の貿易と広がり　国家間の物資やサービスの取り引きのことを**貿易**といい，輸入と輸出からなる。世界の国々は自国に有利なものを生産し，輸出入しあうことで結びついている。図1と図2で各国の輸出品目をみると，日本をはじめとするアジアの大部分やヨーロッパ，北アメリカでは工業製品が輸出額の大部分を占めているのに対し，アフリカや南アメリカでは，食料品や原材料・燃料などの1次産品の輸出が多いことがわかる。一方，こうした物資の貿易に対し，金融や特許，技術など，目にみえないものの売買（ばいばい）を**サービス貿易**という（図4）。

貿易構造の変化　1960年代までは，発展途上国が1次産品を生産して先進国に輸出し，先進国はそれをもとに工業製品を生産するという**垂直分業**（→p.112）がほとんどだった。その結果，発展途上国では1次産品の輸出に依存するモノカルチャー経済（単一経済）が拡大し，先進国との経済格差が大きくなり，**南北問題**●とよばれるようになった。そのため，国連貿易開発会議（UNCTAD（アンクタッド））United Nations Conference on Trade and Development などの呼びかけで，発展途上国の

発展途上国からの輸入関税を引き下
るようになった。1980年代に入る
型の工業が発達し，先進国との間で
業が盛んになった。さらに，2000
(112)
る企業移転や多国籍企業による**国際**
急増した（図3）。中国では工業生産
一の輸出大国になった。

言葉の整理　欄外を使って類似・対比する地理用語を整理しました（全30組）

プレートと地殻・マントル
干拓と埋め立て
日較差と年較差
熱帯雨林と熱帯季節林
硬葉樹と照葉樹
コケ植物と地衣類
盛土と切土
硫黄酸化物と窒素酸化物
労働生産性と土地生産性
粗放的農業と集約的農業
遺伝子組み換えとゲノム編集
沿岸漁業・沖合漁業・遠洋漁業
レアメタルとレアアース
LPGとLNG
輸入代替型の工業化と輸出指向型の工業化
空間距離と時間距離
南北問題と南南問題
FTAとEPA
対外直接投資と対内直接投資
NGOとNPO
人口ボーナスと人口オーナス
Push型とPull型の人口移動
公用語と母語
語族と語派と諸語
自然的国境と人為的国境
華北・華中・華南
華僑と華人
海峡と地峡
ネイティヴアメリカンとインディアン
フロストベルトとサンベルト

②貿易・観光

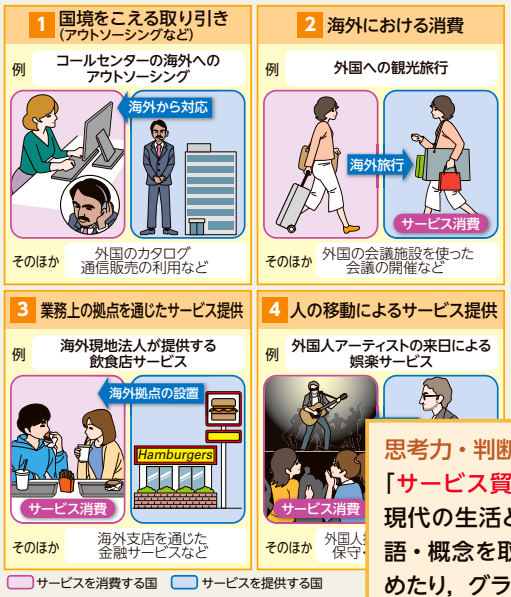
産業での学習をふまえ，人・モノ・金の国境をこえた流れに焦点をあてます

地理の話題 サービス貿易の発展

国家間の経済活動が活発になった結果，物資の貿易と並んで，サービス貿易（図4）の重要性が増し，世界貿易に占める割合は約2割に達している。

例えば，外国旅行でホテルに宿泊すると，外国の事業者から観光サービスの提供を受けていることになる。また，日本にいても，外国企業の通信販売を利用したり，来日アーティストの公演に出かけたりすると，外国のサービスを受けていることになる。さらに，外国資本の飲食店で食事をしても外国のサービスを受けていることになり，いずれもサービス貿易に含まれる。

一方，外国企業による，国内での通信販売などの経済活動への課税や，特許，商標（しょうひょう），著作権などの**知的財産権の保護**は，デジタル化やインターネット環境が変化し，従来の貿易の国際ルールでは十分に保証できなくなってきており，国家間の貿易協定や国際条約を見直そうという動きもある。

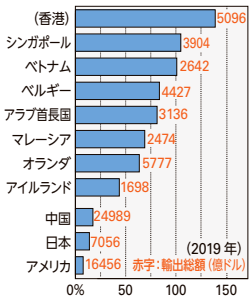


4 サービス貿易の例

思考力・判断力の育成
「サービス貿易」「輸出依存度」など，現代の生活とより密接した切り口の用語・概念を取り上げます。コラムで深めたり，グラフで可視化することで，従来にはない視点から貿易について考察することができます。

貿易に特化する国

貿易総額をみると，中国，アメリカ，ドイツ，日本など，国内総生産（GDP）の高い国が上位を占めている。一方，小さな国や新興国，資源輸出国のなかには，**輸出依存度**が高い国がみられる（図5）。国土が狭く経済規模が小さいと，国内市場だけでは産業が成り立たないため，国外市場の開発や国際関係の強化がはかられる。海運の盛んなシンガポールやジブチ，オランダでは，周辺国から製品を集めて輸出する**中継（ちゅうけい）貿易**が行われている。オランダは，機械類や医薬品のほか，高収益の花卉（かき）や野菜など，輸出の多角化をはかっていて，輸出依存度が高くなっている。また，医薬品の輸出額が多いアイルランドのように，特定の製品や資源の輸出に大きく依存している国もある。



※輸出依存度は国内総生産に占める輸出の割合
［出所：World Development Indicators］
5 おもな国の輸出依存度

貿易政策の発展

第二次世界大戦までは，主要工業国は国内産業の保護のために関税同盟を結び，高率の関税をかけて自国経済を守る**保護貿易**が盛んだった。それが世界大戦につながり世界経済が停滞した反省から，戦後は国際通貨基金（IMF）（International Monetary Fund）や「関税と貿易に関する一般協定（GATT）」（General Agreement on Tariffs and Trade）によって，輸入制限の撤廃（てっぱい）や関税の引き下げがはかられ貿易の自由化が進められた。しかし，各国間の貿易収支の不均衡（ふきんこう）が拡大し，**貿易摩擦（まさつ）**（→p.113）が激しくなった。それに対して，世界貿易機関（WTO）（World Trade Organization）❶は緊急輸入制限措置（**セーフガード**）❷を容認し，各国は再び，関税の引き上げや輸入制限によって自国産業の保護をはかっている。

❶**世界貿易機関**　GATTの自由貿易を発展させる形で発足した。現在160をこえる国が参加する。

❷**セーフガード**　外国からの特定品目の輸入が増えすぎた際に，国内産業の保護のため政府が発動する関税引き上げや輸入制限措置。

知識の獲得・整理
重要な事象や用語について，内容を補足しています。

まとめと探究

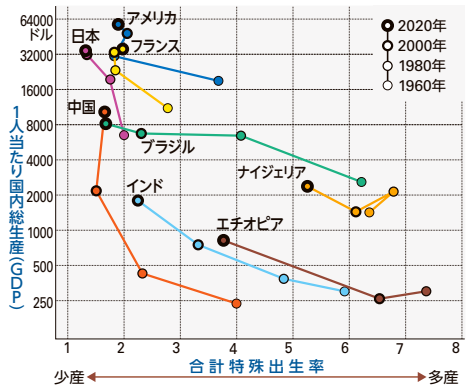
❶先進国と途上国とで輸出品目にはどのような違いがあるかまとめてみよう。

❷保護貿易のメリットとデメリットを考えてみよう。

教 p.148-149

人口増加地域は人口ボーナス，人口減少地域は人口オーナスという観点から人口問題を捉えさせます。図2からは，経済発展と合計特殊出生率の関係について考察することができます。

↑1 多くの子供をもつ一家（ウガンダ，2017年撮影）　女性は12歳ごろに親が決めた相手と結婚し，38人の子供をもうけたという。子供たちは学校に行かず，洗濯や料理，たきぎ拾いをして家族を支えている。



［出所：Gapminder Toolsにより作成］

↑2 おもな国の1人当たりGDPと合計特殊出生率　経済的に豊かになると，栄養や医療・衛生状態が改善し，乳幼児死亡率が下がり，教育や社会保障も整備されることで貧困と多産の連鎖を止めることができる。

4 人口増加地域，減少地域の人口問題

イントロ

人口増加や人口減少は「人口問題」としてとらえられることが多いが，何がどのように問題なのだろうか。

言葉の整理

人口ボーナスと人口オーナス
人口ボーナスは一国の人口構成で，子供と高齢者が少なく，生産年齢人口が多い状態。豊富な労働力で高度の経済成長が可能になる。
人口オーナスは，子供や高齢者と比べて生産年齢人口が少なく，経済成長の重荷になっている状態。多産少死社会から少産少死社会に変わる過程であらわれる。

人口増加地域と人口ボーナス

2020年から2050年までの世界人口の増加の半分は，インド，ナイジェリア，パキスタン，コンゴ民主共和国，エチオピアなど7か国に集中すると推計される。特に，サブサハラアフリカの合計特殊出生率（ごうけいとくしゅ）は4.6と世界平均の2倍近く，2050年までに人口はほぼ倍増すると予測されている。（→p.241）

人口増加は，豊富な労働力と大きな市場をもつ可能性をもたらし，**人口ボーナス**●を生かせれば，経済成長の絶好の機会になる。しかし，就労に必要な知識や技能を修得させる教育や増えた人口分の雇用の確保も必要になるため，人口の増加速度の調整が必要になる場合もある。

ナイジェリアの多産と貧困

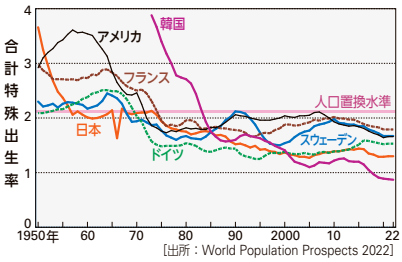
ナイジェリアの人口は，現在約2.1億で，2050年には3.7億まで増加し，インド，中国についで世界3位になり，2100年には5.5億に近づくと推計されている。中国やインドに比べ出生率の低下は緩やかで，ナイジェリアの人口は今後も急増が続く（図2）。ナイジェリアは，1日当たりの生活費が2.15ドル（約310円）未満で，極度の貧困状態（**国際貧困ライン**）とされる人口が世界最多の約6500万人と人口の約3割に達しており，乳幼児死亡率も高い。農業などの第一次産業に依存する社会経済のなかでは，子供は家計を助ける存在であり，家族が多いほど裕福という考え方もある。母子保健を整備し乳幼児死亡率を下げるとともに，家庭や社会での女性の地位を高める**ジェンダー平等**など，**リプロダクティブヘルス／ライツ**❶（性と生殖（せいしょく）に関する健康と権利）を保障することも出生率低下の鍵になる。
Sexual and Reproductive Health and Rights

❶リプロダクティブヘルス／ライツ
子供をもつかもたないか，いつもつか，何人もつかを決める自由を有することを意味する。さらに，安全で効果的，安価で利用しやすい避妊法についての情報とサービスを入手することができることも含まれる。

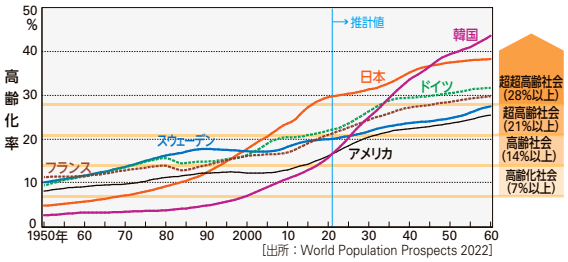
豆知識 知識の獲得・整理
本文に関連するトリビアや補足情報を載せています。話題を広げる題材として活用してください。

豆知識 **貧困状況を示す指標は？**　国際貧困ラインが生きるうえで必要な絶対的な貧困状況を示すのに対し，国や地域の大多数の水準よりも貧しい状態を相対的貧困という。先進国でも貧困とは無縁ではない。

各国のかかえる人口問題の現状について，具体的な事例や統計とともに理解を深めます



⬆3 おもな国の合計特殊出生率の推移



⬆4 おもな国の高齢化率の推移

➡5 おもな国の少子化に関連する国際指標比較

短い労働時間や父親の家事・育児参加，多様な家族のあり方などが，出生率維持の背景にあることが考えられる。

	年	日本	フランス	イギリス	スウェーデン	ドイツ	アメリカ
合計特殊出生率	2018	1.42	1.88	1.68	1.76	1.57	1.73
女性の平均初婚年数（歳）	2018	29.4	33.1	(15) 31.5	34.0	(17) 31.2	(17) 27.4
第1子出生時の母親の平均年齢（歳）	2018	30.7	28.7	29.0	29.3	29.7	(11～15) 23.1
婚外子の割合（%）	2018	2.3	60.4	(17) 48.2	54.5	33.9	39.6
長時間労働者＊の割合（%）	2018	19.0	10.1	11.5	6.8	8.1	19.2
男性の無償労働時間＊＊	2016	41分	(09) 2時間15分	(14) 2時間20分	(10) 2時間51分	(12) 2時間30分	2時間25分

（）は統計年。＊過労働月49時間以上の労働者。＊＊家事や育児，介護ボランティア活動など家族や他人に対し無償で行われる労働

思考力・判断力の育成
資料から，各国の合計特殊出生率や高齢化率の推移を比較するとともに，その違いには，初婚年齢や労働時間，男性の家事育児参加，社会保障給付の割合など，多様な家族のあり方があることを考察させます。

人口減少地域と人口オーナス

世界的に平均寿命が延びている一方で，出生率が低下している。高齢化率が7%をこえる社会を**高齢化社会**❶，14%をこえる社会を**高齢社会**，21%をこえる社会を**超高齢社会**とよんでいるが，世界の高齢化率は1割近くに達し，先進国のほとんどは高齢社会に移行している（図4）。2018年には，歴史上初めて世界の高齢者人口が5歳未満の子供の数を上回った。また，日本や東欧などでは死亡率が出生率を上回り，人口が減少し始めている。

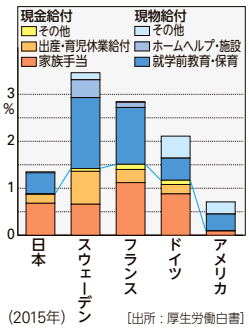
人口ボーナスに対し，生産年齢人口の割合が減少し，養わなければならない高齢者や年少者が多くなる状態を**人口オーナス**●とよんでいる。医療，年金，介護などの**社会保障費**の負担が重くなることで（図6），社会全体の貯蓄や投資が停滞し，労働市場や経済成長の縮小も懸念される。

❶高齢化社
をこえた社
1956年の
明確な根拠
当時のヨー
の先進国の

ヨーロッパの少子化への対応

高齢化や人口減少が進行する国々では，社会保障費の負担が過重にならないようにするため，少子化対策に取り組んでいる。人口置換水準（→p.145）を下回ってはいるが，フランスやスウェーデンでは合計特殊出生率の回復傾向もみられた（図3）。これらの国では，子供への補助金，教育や医療の負担軽減など，資金面での援助とともに，男女対象の育児休暇取得や保育サービスの充実，ワークシェアリングによる短時間勤務，法律婚以外の多様な家族を認める法制など，結婚，出産，子育てや，就労に関して幅広い環境整備が進められており（表5），合計特殊出生率の維持や回復に一定の効果を上げている。

リプロダクティブヘルス／ライツの尊重は，多産の地域では出生率を抑制する効果があるが，少子化が進んでいる地域では出生率を維持，回復させる方向にはたらく。



⬆6 おもな国の家族関係社会支出の対GDP比

まとめと探究

❶世界ではどのような人口問題がおきているか，まとめてみよう。
❷出生率の高低とジェンダー平等の関係を考えてみよう。

ワード　人口ボーナス　国際貧困ライン　ジェンダー平等　リプロダクティブヘルス／ライツ　高齢化社会　高齢社会　超高齢社会　人口オーナス　社会保障費

- 世界の諸地域を偏りなく学習できるよう，様々な規模の12の地域を取り上げています。
- 各地域は，「項目ごとに整理して考察」，「特色ある事象に関連づけて考察」，「類似的／対照的な地域を比較して考察」の三つの方法で考察しています。

特色ある事象と関連づけて考察

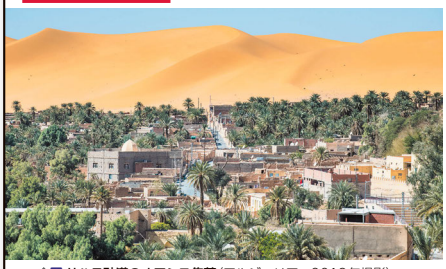
変化の大きい地域について，主題を軸に展開しています。 教 p.196

教 p.238-239

二つの地域を比較して考察

6 北アフリカ・サブサハラアフリカ

対照的な地域を比較　南北で異なるアフリカ大陸を考察する



↑1 サハラ砂漠のオアシス集落（アルジェリア，2019年撮影）

↑2 マラウイ湖の漁業（マラウイ，2015年3月撮影）
大地溝帯の南端に位置し，魚類が豊富である。

イントロ
北アフリカとサブサハラの対照的な自然の特徴を比べてみよ

1 自然環境と農業

サハラ砂漠の北と南　アフリカ大陸を，サハラ砂漠（写真1）を境に南北に区分する方法は，地理的な知識が深まった19世紀から行わ

さらに，近年は，サハラ砂漠より南のアフリカ，つまり，北以外のアフリカを**サブサハラアフリカ**（サブサハラ）❶とよぶよ

ている。南北という緯度の違いによる地域区分は，気候の差にものが多い。しかしアフリカの場合は，気候だけでなく，歴史や文化，国際関係などについても，二つの地域に大きな違いが（→p.191）

フリカ自然環境　アフリカ大陸は全体的に台地状の地形をしており，海岸線が単調で広い平野に乏しい（図3）。また，面00万km²と広大で，北西端のアトラス山脈は新期造山帯に属が，それ以外は安定陸塊が大部分を占める。しかし，エチオピとマラウイ湖（写真2）にかけては，**大地溝帯**（→p.11）が南北に走っている山が分布し，地震も発生する。大地溝帯はプレートの広がる境で，将来は，ここを境にアフリカ大陸は東西に分裂すると考えられる。アフリカ大陸には，気候に大きな影響を与えるような山脈ため，南北とも，緯度に沿って気候区がほぼ帯状に変化している。赤道直下のコンゴ盆地は熱帯雨林気候で，緯度が高くなるにサバナ気候，ステップ気候，砂漠気候と変わっていく。また，大（→p.46）端と南西端には地中海性気候がみられることも，南北間の気候が特性を示している。

リカの大断崖　アンゴラから南アフリカ共和国の東部にかけて「グレートエスカープメント」とれる比高約1,000mの大断崖がある。南米大陸とアフリカ大陸が分裂したときの名残とされる。

特色ある事象と関連づけて考察

本書の地誌的考察で

第2章 現代世界の諸地域

1 中国

経済成長に着目　経済成長による影響力拡大と国内外の課題について考察する

↑1 上海の高層ビル群　遠くの高層ビルと手前の古い建物は上海の現代と近代を対照的に象徴している。

↑2 天安門（北京，2015年撮影）
この楼上で毛沢東が中華人民共和国の建国宣言を行った。

イントロ
アメリカと並ぶ経済大国に成長した中国では，どのような国づくりが進められてきたのだろうか。

1 経済の改革開放による変化

経済大国としての中国　中国の経済発展は著しく（図4），国内総生産（GDP）（→p.137）ではアメリカに次いで世界2位，輸出額では世界の首位を占めている（図5）。パソコンやテレビ，携帯電話，自動車など多くの工業製品で世界最大の生産国となり，軽工業から先端技術産業まで，さまざまな分野で工業が発達して「**世界の工場**」とよばれている。一方，14億という世界一の人口をかかえ，所得の向上によって耐久消費財の普及や都市化が進み，巨大

また，先進諸国が経済成

ともに新興経済大国として

近代中国の歩み　辛亥革命に

成立した。

の間で主導権をめぐって内

により，1949年に**中華人民共和国**（中国）が誕生した。国民党は台湾に逃れ，台北に臨時首都を

を認めず，長く対立をして

中国では**社会主義**をか

め，**計画経済**による国家建

は**人民公社**❶がつくられた

導者争いが激しくなり，

1966年には**文化大革命**❷

❶人民公社　農村地域での行政と生産活動，生活が一体になった共同組織をいう。

❷文化大革命　毛沢東が権力闘争のためにおこした大規模な政治運動。

年	事　項
1912	辛亥革命により中華民国成立
1937	日中戦争始まる
1945	第二次世界大戦終結
1949	中華人民共和国成立
1958	大躍進運動（1960年頃まで）
1966	文化大革命（1976年まで）
1972	日中国交正常化
1978	改革開放政策始まる
1982	人民公社解体
1989	天安門事件
1997	香港返還
2001	世界貿易機関（WTO）加盟
2008	北京オリンピック開催
2010	GDPが世界2位に
2016	一人っ子政策の廃止

↑3 近現代の中国の歩み

中国の経済成長に着目

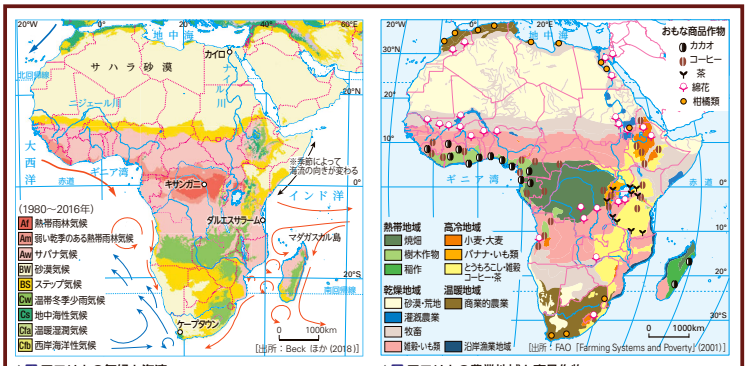
中国について，経済成長による世界への影響力と国内外の課題に着目して考察します。

「特色ある事象から考察する」

地域事例と主題

- 中国　経済成長
- 東南アジア　民族文化
- ヨーロッパ　地域統合

二つの地域の類似性または対照性に着目して比較しながら展開しています。



⬆4 アフリカの気候と海流　⬆5 アフリカの農業地域と商品作物

北アフリカの自然と農業

北アフリカの大部分は**砂漠気候**(→p.48)で，降水量がきわめて少ない（図4）。農業に適した地域が限定され，特にリビアでは，サハラ砂漠が地中海沿岸にまで広がっている。そのようなかか，エジプトでは，**外来河川**のナイル川❶に沿って農業が盛前には古代文明が栄えていた。また，西部の**マグレブ地方**❷ラス山脈の周辺で，古くから農耕文化が発達していた。

現在，モロッコ，アルジェリア，チュニジアなどの地中海は，温暖な地中海性気候を活かして，オレンジなどの柑橘ブ，ぶどうが栽培されている（図5）。また，サハラ砂漠に点シスでは灌漑農業が行われ，なつめやしが栽培されている。

サブサハラの自然と農業

これに対して，サブサハラの大部分は，南に挟まれた熱帯地域で，**雨季**と**乾季**によっ大きく変わる（図4，図6）。熱帯収束帯が近づくと降水量が遠ざかると乾季になる。また，アフリカ大陸は全般的に台地海岸から内陸に入るとわずかな距離でも標高が高くなる。コンベジ川などの大河川でも，下流部は急流区間があるため河達しにくい。こうした地形が内陸への接近を妨げてきた。

サブサハラでは**自給的農業**が広くみられ，現在でも農業人国が多い。主食については，赤道近くの多雨地域ではキャッいもなどのいも類が多く，ほかに，米やバナナなどを主食にある（図5）。一方，サバナ気候やステップ気候の半乾燥地域の生育に適した期間が短いため，とうもろこし，ひえ，あわが栽培されている。

❶**ナイル川**　世界最長の河川で，本流は赤道近くを水源に，南スーダンの北端からスーダンのハルツームまでは白ナイルとよばれている。支流の青ナイルはエチオピ

ワード　サブサハラアフリカ　大地溝帯　砂漠気候　外来河川　マグレブ地方　熱帯　雨季　自給的農業

アフリカ大陸を南北で比較

サハラ砂漠を境とした南北アフリカについて，気候，歴史的背景，文化，国際関係などの違いを比較しながら考察します。

「二つの地域を比較して考察する」地域事例

西アジア・中央アジア　類似的な地域

北アフリカ・サブサハラアフリカ　対照的な地域

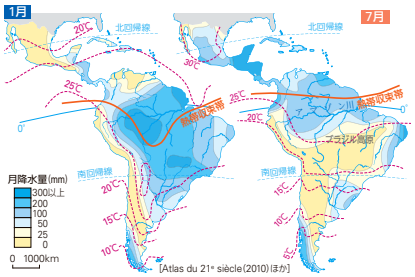
項目ごとに整理

地域の全容について，各項目を順序立てて整理して展開しています。　教 p.272

⑩ ラテンアメリカ

項目ごとに整理　植民により国家が形成されてきた地域を考察する

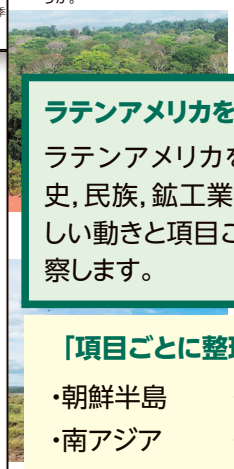
⬅1 ラテンアメリカの地形



⬆2 ラテンアメリカの1月と7月の気温と降水量
南北に長いラテンアメリカは，気候も多様である。

イントロ

南北に長いラテンアメリカの多様な自然環境は農業の地域性とどのように関連しているのだろうか。



1 多様な自然環境と農業

多様な地形

南アメリカ大陸の太平洋側には標高6,000mをこえるアンデス山脈が連なる。赤道付近にはアマゾン川が流れ，中部にはブラジル高原，最南端のパタゴニアには氷河や氷河地形がみられる（図1）。一方，メキシコには標高1,000～2,000mのメキシコ高原

メリカの多くの地域では雨季と乾季がはっきり。赤道に近いアマゾン川流域では乾季は短く，帯雨林気候（Af・Am）で，**セルバ**とよばれる世っている（写真3）。土壌は激しい降雨によって低い赤土の**ラトソル**(→p.39)（オキシソル）が分布する。帯(→p.35)の移動によってあらわれる（図2）。7月には熱帯収束帯が北上し，降水域が移動し　カリブ海周辺や大陸北部で雨季バナが広がるブラジル高原中央～5か月間続く。一方，1月に広い範囲で雨が多くなる。アマ季で大きく変動する。

郊の内陸には有刺灌木林が，ま　よばれる大平原が広がる（写真漠などの**海岸砂漠**(→p.32)がみられる。

ラテンアメリカを項目ごとに整理

ラテンアメリカを，自然環境，歴史，民族，鉱工業，政治・経済の新しい動きと項目ごとに整理して考察します。

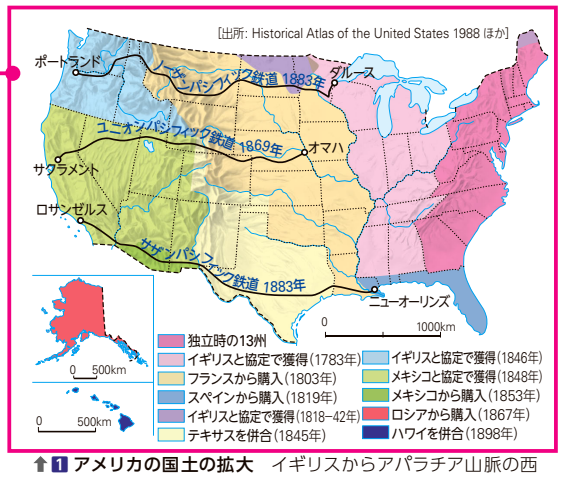
「項目ごとに整理して考察する」地域事例

- 朝鮮半島
- 南アジア
- ロシア
- アングロアメリカ
- ラテンアメリカ
- オーストラリア
- ニュージーランドと島嶼国

比較して考察　扱う地域　　項目ごとに考察

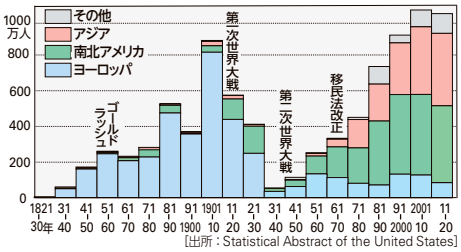
教 p.266-267

視覚的にわかりやすい図版（地図・グラフ）を多く掲載し，生徒の理解を促します。



↑1 **アメリカの国土の拡大**　イギリスからアパラチア山脈の西方を獲得した後，1803年にミシシッピ川の西のルイジアナを購入し，1848年にはカリフォルニアを獲得した。

↑2 **アメリカ国旗の日を記念するパレード**（2009年撮影）
星条旗が合衆国の旗に採用された1777年から毎年行われる。



↑3 **アメリカへの移民の推移**

見開き単元で学ぶことについて，着目点を示した導入文です。

イントロ
カナダとアメリカの建国の経緯や移民の出身地域の変化は，それぞれどのように社会的特徴を生み出してきたのだろうか。

2 社会の多様性と多文化社会

移民による建国と発展　アングロアメリカでは，インディアン●と呼ばれる先住民の**ネイティヴアメリカン**●から土地を奪（うば）うことで，17世紀にヨーロッパ系移民による植民が本格化した。カナダではフランス人による入植（にゅうしょく）が始まったが，その後，イギリスの植民地になり1931年に実質的に独立した。アメリカはイギリス人による入植が始まり，1776年に東部13州が独立し，その後，移民が増加して，新しい州が次々とつくられた（図1）。**開拓前線（フロンティア）**は東部から内陸部，西部へと進んでいった。19世紀後半に，いくつかの大陸横断鉄道が相次いで開通すると，東部から西部への開拓（かいたく）民の移動が激しくなり，西部開拓はさらに進んだ。一方，ネイティヴアメリカンは，西部の不毛な地に設けられた**インディアン居留地**にしだいに追いやられた。

移民の出身地の変化　アングロアメリカでは，時代ごとに移民の出身地が変化しており，住民構成は複雑になっている。アメリカでは，独立時にはイギリスからの移民が中心で（図3），その流れをくむ**WASP**（ワスプ）（プロテスタント）とよばれる人々が，政治，
Protestant
ハた。国土の拡大や経済発展を遂（と）げるアメ
ド，ドイツ，イタリアなど，ヨーロッパ
こうした移民以外にも，南北戦争まで**奴隷**（どれい）
，多数のアフリカ系の人々がプランテー
。また，20世紀に入るとメキシコやプエ
語系住民（**ヒスパニック**）が増加している。

ペイン語系住民の総称で，移民だけでなく，アメリカ南西部の旧系住民を含む。アメリカ最大のマイノリティとなっている。

言葉の整理
ネイティヴアメリカンとインディアン
いずれもアングロアメリカの先住民を意味するが，ネイティヴアメリカンにはヨーロッパ系移民から「インディアン」とよばれた人々のほか，アラスカの先住民などが含まれる。

ポイント補説
カナダでの国土開発
カナダに最初に入植したのはフランス人だったが，その後，イギリス人に支配が移った。そのためイギリス系移民によって開発が進められ，現在もイギリス

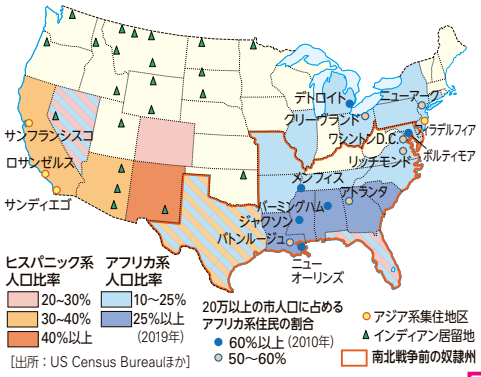
ポイント補説　新しい動きや具体的な状況を取り上げ，本文を補足します。

天井川
風によって運ばれるレス
水管理と国際協力
寒流と霧
内水面漁業
アフリカで自給生産が伸び悩む理由
アフリカへの日本の稲作支援
エシカルな調達・消費
成長する情報通信市場
さまざまな専用船
テレワーク
地球が養える人口は？
都市の持続性（サスティナビリティ）
文化の定義
日本の着物
高床式住居
ハラール／ハラーム
大きな政府と小さな政府
時代によって異なる地域区分
戸籍がない子供たち
中国の三農問題
中国の特許出願
マングローブ
シク教
ハリジャンの優遇策
カナート
イスラームの五行
西アジアの3大言語
中央アジア5か国の文字
揺らぐシェンゲン協定
EUの地理的表示制度（GI）
イギリスのEU離脱
カナダでの国土開発
ブラジルの首都移転
乳製品の輸出先の変化
文献調査の資料例

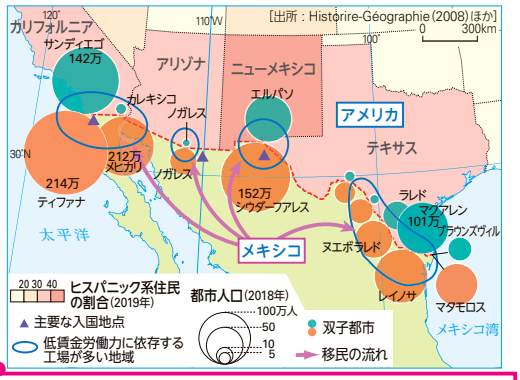
の多様性と多文化社会

への理解を深めます

図版のキャプションでは，図版の読み取りポイントを丁寧に記載するだけでなく，メキシコからの移民急増の現状など，新しい動向についても取り上げています。



5 アメリカの民族構成の地域差　ヒスパニック系住民はメキシコと近接する南西部で，アフリカ系住民は南東部で割合が高い。一方，おもに乾燥地域や山岳地域の広がる西経100度以西にインディアン居留地がみられる。



6 アメリカ・メキシコの国境地域　国境付近には，メキシコの低賃金労働に依存する工場などが立地する都市が発達した。また，輸出入や人々の出入国の拠点として成長してきた。近年，不法入国者に対する取り締まりが厳重になっている。

増え続ける移民によって，最近はヨーロッパ系住民の割合が減り続けていることに気づかせます。

民族構成の地域差　移民の流入や人口移動の歴史から，アメリカ各州の民族構成には地域差がみられる（**図5**）。民族構成の中心はヨーロッパ系住民で，全土に居住しているが，移民の増加によって，人口に占めるヨーロッパ系の割合はしだいに減少している。アフリカ系住民の比率は，奴隷制度が長く続いた南部諸州のほか，20世紀の工業化による人口移動を背景に，北部の一部の大都市でも高くなっている。

ヒスパニック系住民は，メキシコとの国境近くの州で増加している。二国間を連絡する幹線道路には，国境を挟（はさ）んで**双子都市**とよばれる二つの都市が発達し（**図6**），メキシコ側には安価な労働力を背景にマキラドーラ[1]（maquiladora）を活用した工場群が広がっている。メキシコからアメリカへの不法入国者も多く，国境付近では厳重な取り締まりが行われている。（→p.278）

アジア系住民はロサンゼルスなどの太平洋岸の諸都市に多いが，ニューヨークなどの東部の大都市でも増加している。大都市の市街地では，特定の民族や文化集団が集中して暮らす，人種や民族の住み分け（**セグリゲーション**）（→p.285）も生じている（**写真7**）。

7 チャイナタウン（サンフランシスコ）　中国系アメリカ人の集住地区で，観光客も多い。

アメリカの都市における社会問題の一つ「住み分け（セグリゲーション）」に着目して，都市スケールでの民族問題についても考察させます。

多民族・多文化社会　アングロアメリカには歴史を通して多くの移民が流入し，**多民族社会**を形成してきた。アメリカでは，多様な文化や慣習をもつ人々が互いを尊重し合い，共存する社会が理想とされ，**民族のサラダボウル**[2]とたとえられている。カナダでは，フランス系住民の多いケベック州と，イギリス系の住民が多数を占めるほかの地域との対立が続いたため，英語とフランス語の両方を公用語と定め，双方の共存をはかっている（**図4**）。このようにして，すべての人が尊重され，平等に社会参加できるような**多文化主義**をめざしている。

1 マキラドーラ　アメリカとメキシコ間の委託加工制度の一種。完成品をメキシコから国外へ輸出することを条件に，原材料などを国外から輸入する際に関税などを減免するメキシコの制度である。

2 民族のサラダボウル　社会を一つの皿に見立て，異なる民族や文化集団がそれぞれの個性を活かし共存しながら，全体として調和している状態をいう。

まとめと探究

見開き単元について二つの問いかけを設定しました。
❶学習した内容をまとめます。
❷調べたり，自分の考えをまとめたりして理解を深めます。

まとめと探究

❶カナダとアメリカの建国の歴史や移民の出身地の変化をまとめてみよう。
❷アメリカやカナダにおける多様な背景をもつ人々の共生に向けた取り組みを調べてみよう。

ワード　ネイティヴアメリカン　開拓前線（フロンティア）　インディアン居留地　WASP　奴隷制　ヒスパニック　双子都市　セグリゲーション　多民族社会　民族のサラダボウル　多文化主義

見開き内で取り上げた重要用語を欄外の**ワード**にまとめています。定期考査や受験対策としてご使用いただけます。

地域の話題 地誌の学習をさらに深める 22 のコラム

各地域の新しい動向や深掘りしたい内容に焦点をあてます

教 p.201

地域の話題 中国の品種改良とスマート農業

中国では2000年代後半以降，農産物の増産が進んでいる。その背景にはハイブリッド米などの優良品種の登場やトラクター・田植え機の普及などの機械化の進展がある。また，AI技術の導入によって，農業のスマート化が進められ，耕作のリモートコントロール，水や肥料・農薬の最適化が行われ，無人田植え機も登場している。

➡4 **ハイブリッド米の収穫**（貴州省，2019年撮影）　異なる二つの品種を人為的に交配してつくられたコメで，収穫性にすぐれている。中国だけでなくアジアやアフリカにも広がり，米の増産に貢献している。

教 p.243

地域の話題 アフリカでの産業多角化への動き

近年，アフリカでも新しい発展の動きがみられる。多くの国で高い経済成長率を示すようになり，植民地時代に始まった「モノカルチャー経済」という言葉だけでは説明がつかなくなってきている。

例えば，ケニアの首都ナイロビの北西約70kmには，ヨーロッパ資本によって一大温室園芸産地が造成され，バラなどの切り花がオランダを経て世界の市場へと出荷される。植民地時代からの茶やコーヒー豆の農園経営に加え，付加価値の高い切り花の輸出は新たな雇用を生み出している。また，エチオピアでは工業化の進展により，急速な経済成長をみせている。首都のアディスアベバには工場団地がつくられ，中国や韓国，インドなどから工場が進出した（写真4）。いずれの場合も，アフリカの豊富で安価な労働力が，輸出向けの生産能力を向上させた。アフリカ各国の経済発展には，産業の多角化に加え，外国からの投資や輸出に向けた輸送路などが重要な条件になる。

⬆4 縫製工場
ア，2018年）
り多くの雇用

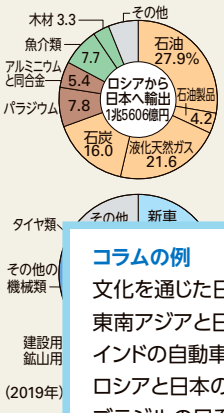
コラムの例
- 台湾の経済発展
- 中国の品種改良とスマート農業
- 中国の周辺地域への影響
- ドバイの発展戦略
- 人口増加と社会の変化
- アフリカでの産業多角化への動き
- 多極化する世界とアメリカ
- 多文化共生に向けて　　など

各地域と日本との結びつきに焦点をあてます

教 p.263

地域の話題 ロシアと日本の結びつき

ロシアと日本は，平和条約が締結されておらず，北方領土問題（→p.182）やウクライナ紛争もあって，人々の交流は停滞している。しかし，ロシアから日本へは，石油や液化天然ガスなどのエネルギー資源が，日本からは，自動車や機械類などが輸出されている（図6）。ロシアでは，丈夫で性能のよい日本車の人気が高い。2010年代には，ロシア政府による安全規制により日本企業などもロシア国内で自動車を現地生産する傾向を強め，サンクトペテルブルクやウラジオストクなどに現地工場をおいていた。ウクライナ紛争の影響でその多くは操業を中止し，新車の販売は低迷している。日本の中古自動車は販売が続いているが，紛争の激化により輸出規制が強化されている。



➡6 **日本とロシアの貿易品目**　ロシアからは鉱産資源の輸出が8割近くを，日本からは機械類などの輸出が8割近くを占め，対照的である。

コラムの例
- 文化を通じた日韓の交流
- 東南アジアと日本の交流
- インドの自動車工業と日本企業
- ロシアと日本の結びつき
- ブラジルの日系人
- オーストラリアと日本の結びつき

地球的課題の考察

地球的課題の背景や影響，対策を SDGs とともに考察します

教 p.245

地球的課題に着目

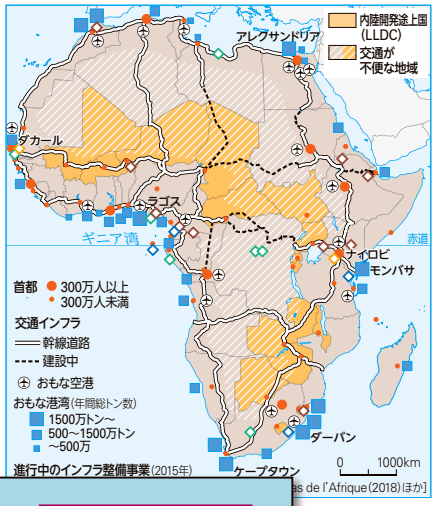
六つの地域について，各地域のかかえる地球的課題を取り上げ，SDGs（持続可能な開発目標）を意識させながら，生徒の探究活動を促します。

教 p.219

地球的課題の考察

成長に向けた交通インフラ戦略

↑4 **アルジェリアで建設中の高速道路**（2016年3月撮影）
サハラ横断道路の整備が，中国による支援で続けられている。



ss de l'Afrique（2018）ほか]

多くを**海上輸送**に
はコンテナ貨物へ
時に内陸から港湾
れてきた。ケニア
（**写真5**）は，こう
また，**航空輸送**に
備が進められてい
港への貨物の集中
っている。

自然条件がきびし
市場からも距離が
，鉄道や，商品を
の整備も，大幅に
通関手続きのため
国連では，こうし
（LLDC）と位置づ
ンフラ（CBTI）の
整備，経済統合の強化に向けた支援を行っている。

考察 アフリカでの交通インフラの整備では，どのようなことが課題になるだろう。北アフリカとサブサハラ，沿岸国と内陸国など地理的条件を比べながら考えてみよう。

地球的課題の考察

シンガポールにおける水資源の確保

シンガポールは，工業化による経済発展を遂げた，人口密度の高い都市国家である。しかし，国土面積が狭く**水資源**に乏しいため，1960年代からは国内で使用する水の多くをマレーシアからの輸入に依存してきた。そのため，自国内で水資源を自給することをめざし，さまざまな取り組みを行っている。

（→p.31）

降水を効率的に利用できるように貯水池を増やしたほか，都心部の湾を堰き止めるマリーナバレッジという施設をつくり，淡水化した水を貯められるようにした（**写真4**）。また，下水を最先端技術により高度処理して「ニューウォーター」として再利用する施設や，複数の**海水淡水化**施設も稼働している。

その結果，シンガポールの水自給率は70％に達した。さらに培った淡水化技術により，シンガポールは水ビジネス大国となり，オーストラリアや西アジアの乾燥地域など水不足地域に技術を展開している。

➡4 **マリーナバレッジ**（シンガポール，2020年撮影）　写真中央の長さ350mの堰の奥側が湾内。貯水機能だけでなく，シンガポールの低地を洪水から守る役割も果たしている。

考察 シンガポールでの水資源の確保の取り組みは，SDGsの目標達成にどのようにつながるだろうか。また，乾燥地域でも同じ対策が有効であるか考えてみよう。

地球的課題のテーマとSDGsの視点

p.219	東南アジア	シンガポールにおける水資源の確保	6 11
p.227	南アジア	農村地域の貧困と教育・ジェンダー	1 5
p.237	西・中央アジア	地域紛争と国際社会の動き	16 17
p.245	アフリカ	成長に向けた交通インフラ戦略	9 11
p.251	ヨーロッパ	ユーゴスラビアの解体と少数民族	3 10
p.277	ラテンアメリカ	熱帯林地域の持続可能な開発	12 15

生徒自ら考察し，表現させる問いかけ

本コラムには生徒自らが考え，表現させることをねらいとした **考察** を設けています。

特設ページ 海洋からみた世界

これまでの教科書では見られなかった「海洋」を取り上げました。海を通した交易や文化交流の歴史，結びつきの変化など，海洋の地図でとらえることで，新しい世界観が浮かび上がってきます。

教 p.290-291

海洋からみた世界のつながり ④

環太平洋 ～開発と海洋保護

第二次世界大戦後，環太平洋地域では多くの独立国が生まれた。豊かな海洋資源に恵まれているが，先進国や新興国による援助に依存し，開発に伴うさまざまな課題に直面している。どのようなことが課題となっているのだろうか。

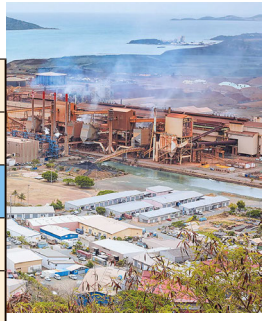
豊かな写真資料

各海洋ページには，それぞれのテーマに即した資料性の高い写真を掲載しています。「海洋」の今を読み解くうえで，考えるヒントとなります。

各地域を学習したうえで，その地域と関係の深い海洋ページを設けています。

↑1 **パラオ・違法漁船の取り締まり**（2016年9月撮影）
パラオはアメリカと自由連合関係にあり，アメリカの沿岸警備隊が違法漁船に対する取り締まりにあたっている。

↑2 **ミッドウェー諸島・アホウドリの営巣地**（2012年3月撮影）
太平洋を横断する飛行機の給油地であったが，現在は国立の野生生物保護区になっている。



ッケル鉱山（2014年1月撮影）
その一方で，固有種が多く暮らす
している。

↑4 **タヒチ島・サーフィンを楽しむ人々**（2020年10月撮影）
2024年のパリ五輪ではサーフィン競技の会場となるが，観光開発による環境破壊が懸念されている。

海洋ページの配置箇所

- ❶ 中国
- ❷ 朝鮮半島
- **海洋① 環日本海 ～海上輸送の発達**
- ❸ 東南アジア
- ❹ 南アジア

- ❺ 西アジア・中央アジア
- ❻ 北アフリカ・サブサハラアフリカ
- **海洋② 環インド洋 ～交易と宗教文化**
- ❼ ヨーロッパ
- ❽ ロシア

- ❾ アングロアメリカ
- ❿ ラテンアメリカ
- **海洋③ 環大西洋 ～結びつきの変化**

- ⓫ オーストラリア
- ⓬ ニュージーランドと島嶼国
- **海洋④ 環太平洋 ～開発と海洋保護**

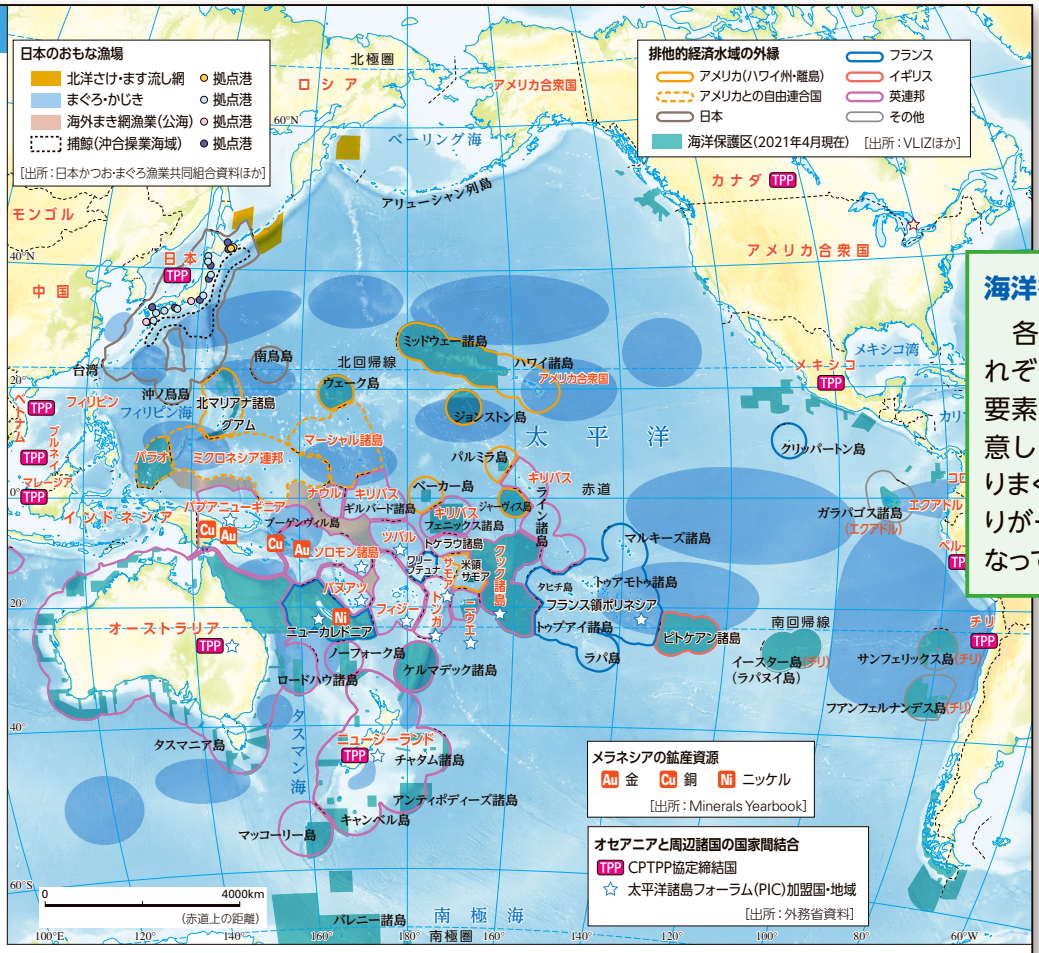
ミクロネシアは，第二次世界大
委任統治が行われ，まぐろやか
われるようになった。戦後は，
統治を経てアメリカとの自由連
を果たしたが，日本などへのか
が経済の軸になっている。近年
問題となり，排他的経済水域の
なっている。（→p.87）
鉱産資源のある島がみられる
層に独占され，森林を伐採して
かすことから，たびたび地域紛
が採掘されるブーゲンヴィル島
と，ニッケルが採掘されるニューカレドニア島では島の独立の是非を問う住民投票が実施されている。

ポリネシアでは，サンゴ礁の美しい島々そのものが観光資源となり，リゾート地として開発されている島も多いが，自治権を獲得できていない地域も多く，持続可能な観光のあり方が問われている。

オーストラリアやニュージーランドは，CPTPP（→p.286）協定に加盟し，環太平洋地域での経済的な結びつきを強めている。一方，島嶼（とうしょ）国の間では地域経済機構として太平洋諸島フォーラム（PIF）が設立されていて，日本とPIFは「太平洋・島サミット」を3年おきに日本で開催している。

のつながり　海に視点を移して，地域のつながりを海洋から読み解きます

環日本海（経済），環インド洋（文化），環大西洋（政治），環太平洋（自然）を舞台に，地域のつながりを考察します。



⬆5 **環太平洋地域**（ヴァンデルグリテン第1図法）

海洋を中心に据えた地図

各海洋ページには，それぞれのテーマに即した要素を配置した地図を用意しています。海洋をとりまく国や地域のつながりが一目でわかる地図となっています。

太平洋の今　イギリスが CPTPP のメンバーになる！

⬆6 **ピトケアン島に近づいた貨客船**（2020年5月撮影）
ニュージーランドから貨客船が就航しているが，大型船は接岸できないので小さな船に乗り換える必要がある。

イギリスは，2023年にCPTPP協定への加盟を承認された。イギリス本土は太平洋に面していないが，メンバーにはオーストラリアやニュージーランドなど英連邦に加盟する国も多く，イギリスはこれらの国との間での自由貿易の実現をめざしている。それとともに，イギリスがポリネシアに領有しているピトケアン諸島に注目が集まった。ピトケアン島には，1

の反乱者

は，排他

され，資

各海洋の「今」をとらえるコラムを設けました。海洋の役割がますます重要になるなか，世界の新しい動向をおさえます。

日本海の今　**見直される日本海の内航水運**　～敦賀港
インド洋の今　**セシルワ**　～セーシェルのクレオール文化
大西洋の今　**再び注目される喜望峰ルート**

これまでの学習を踏まえて，日本の国土像を

教 p.304

現状の確認　**日本のエネルギー資源の自給と消費の現状**

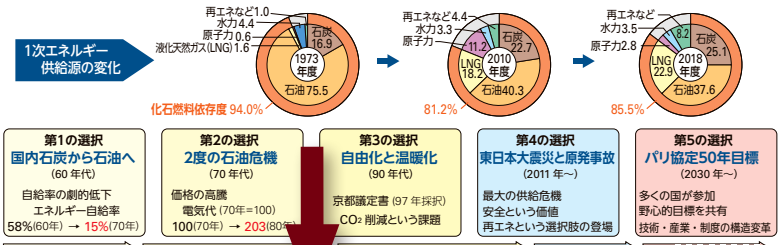
□ 日本の1次エネルギーの自給率は1割未満で，化石燃料はほぼ全量を輸入している。1次エネルギー純輸入量は中国に次いで世界第2位で，世界のエネルギー供給量の約3%を輸入している。

□ 石油危機後はエネルギー源の多様化（脱石油）がはかられ，原子力と天然ガスの導入が進んだが，2011年の福島第一原子力発電所の事故後は，再び化石燃料への依存度が高まっている（図1）。（→p.102）

□ 2016年のパリ協定の発効によって，日本は2030年までに二酸化炭素（CO_2）を2013年比で26%削減する義務が課され，政府は脱炭素社会の実現をめざして「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」（カーボンニュートラル）という目標を掲げている。（→p.70）

□ 福島第一原子力発電所の事故後，一時，国内すべての原子力発電所が運転を停止した。その後，新規制基準の審査に合格した発電所から再稼働したが，安全性，もんじゅ廃炉による核燃料サイクル事業の見直し，高レベル放射性廃棄物の最終処分場の選定など課題は多い。（→p.100）

□ 2018年の北海道胆振地方東部地震では北海道全域に停電「ブラックアウト」がおきた。また，翌2019年には台風15号の暴風で千葉県で大規模な停電が発生，長期化し，住民生活に打撃を与えた。



第1の選択	第2の選択	第3の選択	第4の選択	第5の選択
国内石炭から石油へ（60年代）	2度の石油危機（70年代）	自由化と温暖化（90年代）	東日本大震災と原発事故（2011年～）	パリ協定50年目標（2030年～）
自給率の劇的低下 エネルギー自給率 58%(60年) → 15%(70年)	価格の高騰 電気代(70年=100) 100(70年) → 203(80年)	京都議定書(97年採択) CO_2削減という課題	最大の供給危機 安全という価値 再エネという選択肢の登場	多くの国が参加 野心的目標を共有 技術・産業・制度の構造変革

国土像の考察テーマと関連するSDGs

❶ 自然災害に強い国土をめざすには
❷ 産業の変化と持続可能な成長
❸ 人口減少社会を活性化するためには
❹ 多文化共生社会の実現をめざして
❺ エネルギーの安定供給をめざして

Step① 現状の把握と確認

系統地理的分野で学んできた内容を整理し，日本がかかえる課題について確認をします。五つのテーマについて分析した上で，探究活動の例としてエネルギーの安定供給を取り上げています。

仮説の設定

主題　国内のエネルギーの安定的な供給

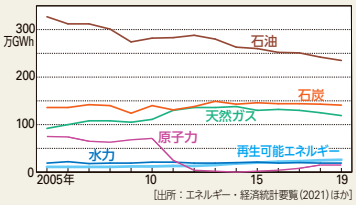
主題へ問い　非常時にも強いエネルギー供給は？

大地震・台風・噴火などの自然災害　／　テロや事故での発電・送電不能　／　資源の枯渇，価格の急騰，輸入制限

仮説❶ 備蓄や輸入の分散を図る　／　仮説❷ 新しい発電方法を開発する　／　仮説❸ 地域での自給体制を整える

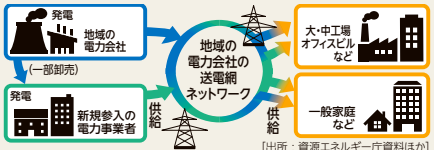
仮説　地域でのエネルギーの自給体制を整える

情報収集と調査　地域でのエネルギー生産の状況を調べてみよう



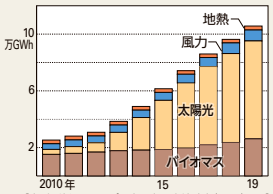
[出所：エネルギー・経済統計要覧(2021)ほか]

↑2 一次エネルギーの国内供給の推移



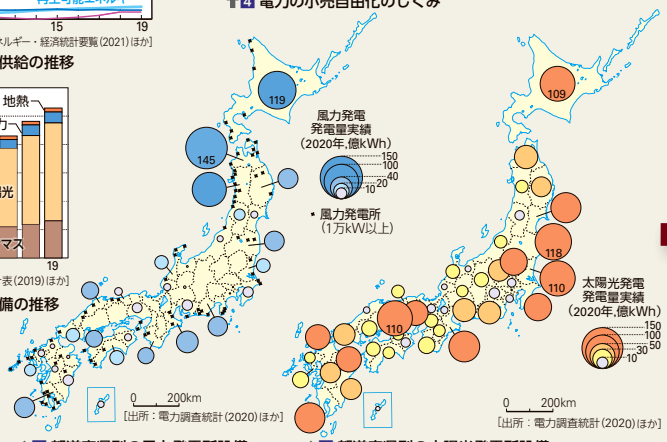
[出所：資源エネルギー庁資料ほか]

↑4 電力の小売自由化のしくみ



[出所：資源エネルギー庁電力調査統計表(2019)ほか]

↑3 再生可能エネルギー設備の推移



[出所：電力調査統計(2020)ほか]　[出所：電力調査統計(2020)ほか]

↑5 都道府県別の風力発電所設備　↑6 都道府県別の太陽光発電所設備

Step② 仮説の設定 情報収集と調査

探究するべき仮説を設定し，探究活動を始めます。各種の文献やインターネットで必要な資料を集め，調査をしていきます。
第Ⅲ編では教科書紙面右側ページの欄外に**情報源**を設け，自ら調べて，学習のヒントとなる資料やサイトを紹介しています。

教 p.305

考察します

教 p.307

系統地理の全ての分野からテーマを取り上げています。

	系統地理分野
11 14 15	自然環境
9 12	資源と産業，人・モノ・金のつながり
8 11	人口，村落・都市
3 5 10	文化と国家
7 9 11	資源と産業

Step④ まとめと発表

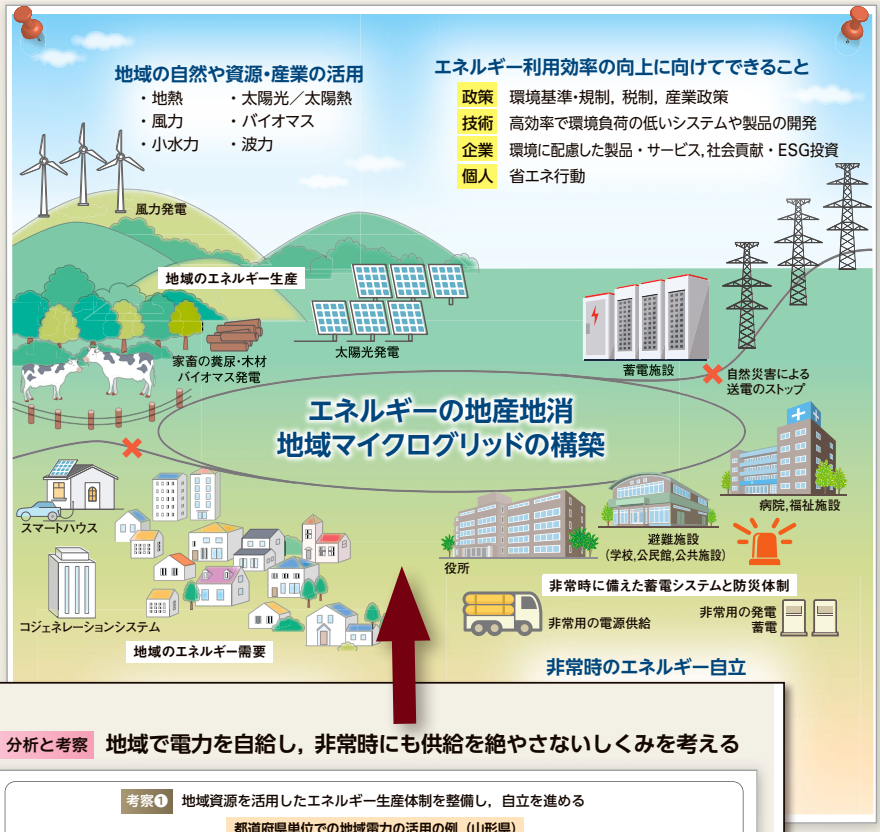
考察した結果をポスターやプレゼンテーションソフトを利用して，課題の解決に向けた提言をまとめます。

まとめあげた成果物はクラスで発表し，意見や感想を受けて，さらに内容を磨き上げていくと探究活動も深まります。

Step③ 分析と考察

設定した仮説が実現可能かどうか，問題点はないか，ほかに解決方法はないかなど多面的・多角的に分析・考察をはかります。

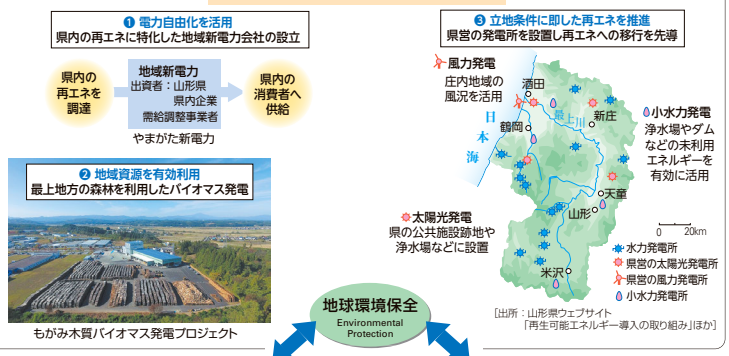
まとめと発表 エネルギー自立を可能とする地域社会の構築

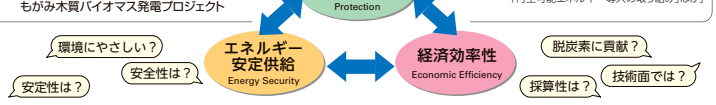


分析と考察 地域で電力を自給し，非常時にも供給を絶やさないしくみを考える

考察❶ 地域資源を活用したエネルギー生産体制を整備し，自立を進める

都道府県単位での地域電力の活用の例（山形県）





考察❷ 地区で蓄電や排熱などの高度利用を進める

発電と排熱を利用するコジェネレーションシステム
天然ガスで自家発電した際の排熱を有効利用している。

考察❸ 非常時に，地域で最低限の電力を確保できるようにする

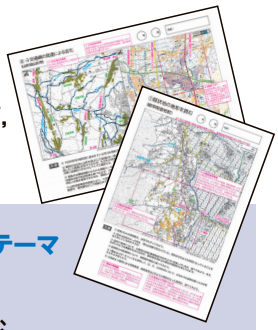
非常時は生命と健康維持が最優先。電力供給が欠かせない病院，高齢者施設，役所，避難所の電力を確保
→自家発電，蓄電（避難所の設置と運営の連携）
→地域資源で発電を維持できる自家発電
→各家庭での蓄電，発電の推進，資金援助

考察結果 地域の自然環境に応じた再生可能エネルギーの利用や，電力自由化を活用した地域電力会社の設立など，エネルギーの地産地消に向けた整備が始まっていることがわかった。さらに，地区単位ではエネルギーの高度利用も進められており，非常時には自治体や各家庭での発電や蓄電も有効と考えられる。

教 p.306

地理の技能

地図の作業や主題図の読み解きを通して，



小地形や新旧比較など，地形図の典型的なテーマを網羅。

地形図の読図 14テーマ

地形・防災

① 扇状地の地形を読む
② 氾濫原の地形を読む
③ 河岸段丘の地形を読む
④ 海岸平野の地形を読む
⑤ 陸繋島の地形を読む
⑥ カルスト台地の地形を読む
ハザードマップでリスクを知る

村落・都市

⑦ 地形図で読み解く村落の機能と形態（4テーマ）
⑧ 新旧地形図で読み解く村落や都市の変化（3テーマ）

技能ページは，作業用のシートを付 録DVD-ROMに用意しています。

地理の技能

教 p.28

地形図読図⑤ 陸繋島の地形を読む

←5 函館山の陸繋島（北海道函館市）

図5中A－Bに沿って断面図を描いてみよう。50mごとの計曲線を正確に読み取り，山の細かな起伏も表現しよう。また，函館山の尾根を赤色で，谷を青色で書き入れてみよう。

函館の市街地が陸繋砂州上に発達した理由を，地形と交通の面から考えてみよう。

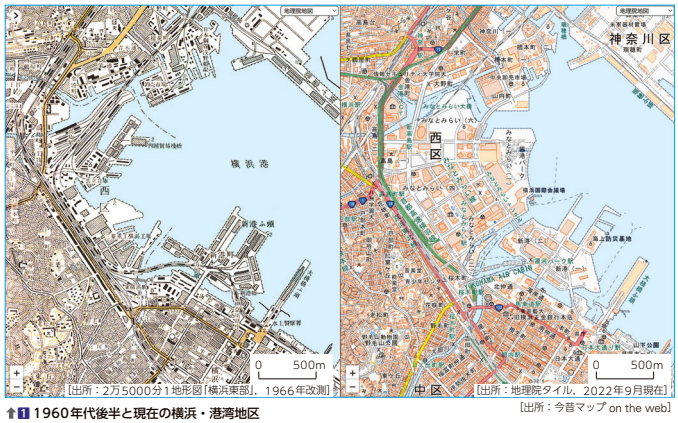
館市には，市街地の南に函館山がそびえる。函沿岸流による土砂の堆積で本土とつながり陸繋州（トンボロ）の上に広がり，その北側には古発展した函館港と函館駅がある。函館山から見気の観光スポットになっている。

●地理院地図で函館山を3Dで表示し，回転させて，尾根と谷の位置を確認してみよう。 地理院地図

地理の技能

地形図読図⑧ 新旧地形図で読み解く村落や都市の変化

工業地区からオフィス・サービス地区への変化



[出所：今昔マップ on the web]

↑1 1960年代後半と現在の横浜・港湾地区

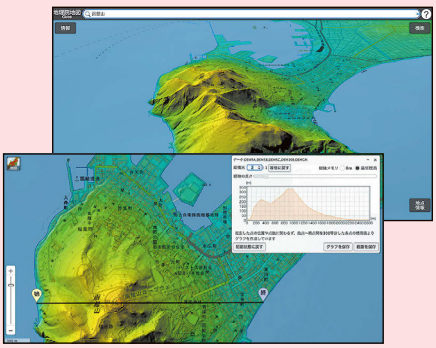
↑2 大規模な造船所跡（横浜市，1983年2月撮影）
造船所は1982年に市内の本牧・金沢地区に移転した。

↑3 みなとみらい21地区（横浜市，2020年3月撮影）
1989年の横浜博覧会以降，本格的な再開発が始まった。

教 p.160

各地形図には，二次元コードで地理院地図へのリンクを示します。さらに発展させて調べることができます。

例）・「土地条件図」で土地のなりたちを確認
・自分で作る色別標高図で細かな起伏を確認
・さらに「自然災害伝承碑」を重ねて表示



教科書で指定された断面図を確認

雨温図・ハイサーグラフ，
推移グラフ，散布図，三角グラフなど
読み取りの技能を着実に習得できます。

主題図の読み解き　8テーマ

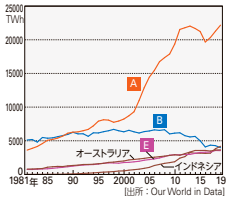
グラフから世界の気候をつかむ
主題図と統計から読み解く小麦・米の流通形態
統計で読むエネルギー資源の推移
分布から読む工業の立地指向
三角グラフから産業構造の変化を読む
地図と統計で読む輸送機関の特徴
階級区分図と散布図から読む人口増加
アフリカの地域区分を考える

地理の技能　教 p.99

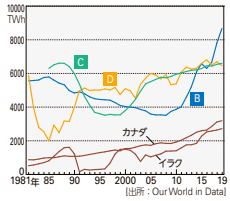
統計で読むエネルギー資源の推移

TRY! 図1～6は，1981年から現在まで40年間の石炭・石油・天然ガスの産出と消費の上位5位国（2019年）の推移をあらわしたものである。グラフ中のA国からE国の変化の特徴を読み取り，それぞれどの国にあたるかを考えてみよう。

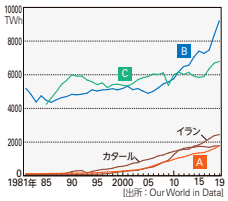
注）各資源の生産・消費とも電力換算値（TWh）であらわす



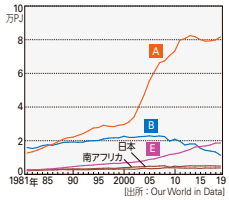
1 石炭の産出ベスト5



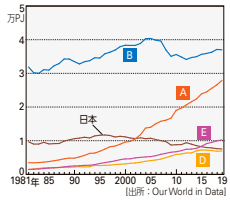
2 石油の産出ベスト5



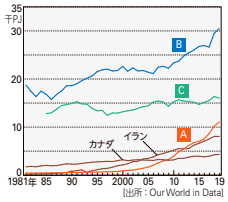
3 天然ガスの産出ベスト5



4 石炭の消費ベスト5



5 石油の消費ベスト5



6 天然ガスの消費ベスト5

エネルギー資源の産出と消費の動向は，それぞれの国の経済力や，国家間の力関係を映し出す鏡である。特に21世紀に入って，BRICS（→p.105）といわれる新興経済大国が大きな経済力を示していること，また，アメリカが西アジアへのエネルギー依存を回避する目的もあって力を注いできたシェールオイル，シェールガス開発が軌道に乗ったことを，上をグラフは如実にあらわしている。統計を読布と推移産出大国両方ともとなる。

エネルギー資源の産出や消費の上位国について，グラフの推移に着目して考察します。

着眼点

- A国は，3資源ともに特に2000年代から消費が急増している。産出は石炭の増加がめざましい。
- E国も産出大国であるとともに消費大国であるが，2000年代から石油・天然ガスの産出が大幅に増加し，石炭は産出も消費も減少している。石炭から石油・天然ガスへとシフトし，エネルギー自給率も上がっていると考えられる。
- C国は，石油・天然ガスの産出がめだっている。1990年代に経済危機がおこり，石油産出が大幅に減少した。消費では，天然ガスへの依存度が高いことが認められる。
- D国は，消費ではどの資源も5位以内には入っておらず，もっぱら石油の世界的な輸出国と判断できる。
- B国は，石炭の産出は増加しているが，石油・天然ガスはベスト5に入らない。A国と同様，石炭・石油消費の急増から，新興経済大国の一つと判断できる。

【解答は p.103へ】

地理の技能

景観写真の読み取り

地域の特徴を写し出す写真を景観写真という。景観写真を読み解くには，そこにあらわれている地理的な特徴に気づくことが大切である。次の3枚の写真から，地理的特徴を探してみよう。

写真A

写真B

写真撮影地点

写真C

TRY! 写真A～Cは世界地図中の地点a～cのどこで撮影されたものか，植生の景観や建物のようすから考えてみよう（→p.172）。

3枚の写真には，それぞれ，地域の自然条件に適応した生活の工夫がみられる。二次元コードを読み取り，地球儀ソフトを使って写真に似た景観の場所を探してみよう。

写真の読み解き　4テーマ

景観写真の読み取り
衣服から読む暮らしの地域性
食生活から読む暮らしの地域性
住居から読む暮らしの地域性

二次元コードから，
GoogleEarthプロジェクトで
写真の撮影地点を鳥瞰できます。

教 p.45

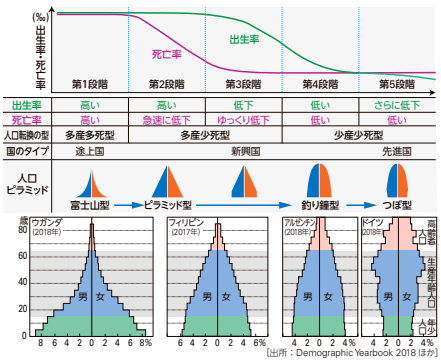
地理総合 地理探究 の知識・技能を習得して実践へ

大学入試の求める思考力・判断力

変化の激しい国際情勢を読み解く主題図やグラフを新設し，充実をはかりました。大学入試に向け思考力・判断力を養います。

教 p.144

人口構成の理解のキーとなる人口ピラミッド



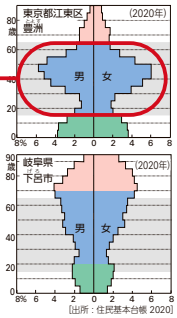
① 栄養状態，医療，衛生状態の改善による死亡率や乳幼児死亡率の低下
② 労働集約的な農業から工業への移行
③ 子供の養育にかかる費用の増大
④ 教育の普及，核家族化など出生を抑制する倫理的文化的障壁の低下
⑤ 避妊の知識や手段の普及

↑2 出生率低下のおもな要因

人も型っ星と

イントロ

日本では高齢化が進んでいるが，世界ではどの年齢層の人口が多いのだろうか。各年齢層の割合はどのように変化してきたのか，また，今後はどのように変化するのだろうか。



↑3 星型とひょうたん型の人口ピラミッド

2 人口構成と人口転換

人口構成と人口ピラミッド 人口ピラミッドはてグラフ化したも

人口（幼年人口），15～64歳の生産年（老年人口）の三つに大きく区分し，そ人口構成から社会の特性を読み取るこく，過去の人口現象や将来の人口構成

人口増加と人口転換 近代以前は，出生率と代が長く続いてきた。

人口ピラミッドは富士山型を示す（図水準が向上し，医療の普及や衛生環境て多産少死になった。人口は急速に増まるようになる（ピラミッド型）。その に結婚や家族のあり方についての考え下して少産少死になった（図2）。そう止人口が続くと，人口ピラミッドは釣の自然増加の変化を人口転換または人

教科書では，人口転換の段階とピラミッドの型との対応をおさえるとともに，生産年齢人口の極端な増減による星型やひょうたん型についても扱っています。

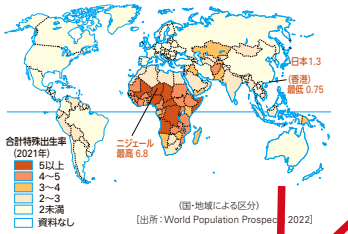
教 p.145

人口統計の指標間の関連を読み解く散布図

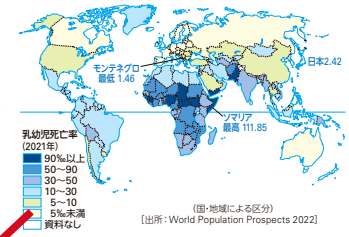
地理の技能

階級区分図と散布図から読む人口増加

1人の女性が一生の間に生む子供の数を合計特殊出生率という。合計特殊出生率が変化する要因について，階級区分図と散布図をみながら考えてみよう。

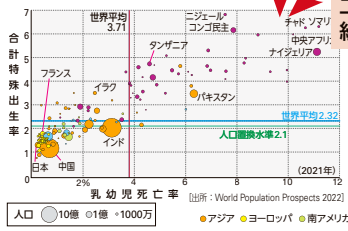


↑1 国・地域別の合計特殊出生率

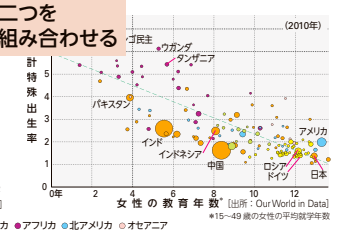


↑2 国・地域別の乳幼児死亡率

二つを組み合わせる



↑3 おもな国の合計特殊出生率と乳幼児死亡率

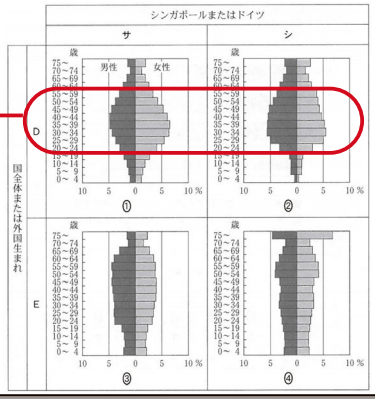


↑4 おもな国の合計特殊出生率と女性の教育年数

教科書では，階級区分図であらわした合計特殊出生率と乳幼児死亡率の統計を散布図にあらわし，分布の傾向とともに，経済発展の影響についても扱います。

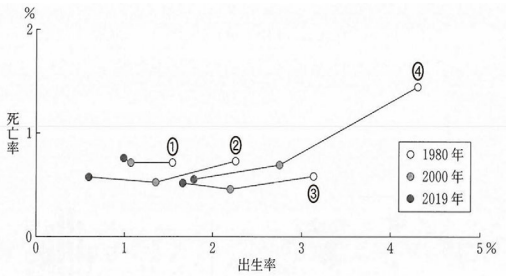
第3問 問5 四つの人口ピラミッドから，シンガポールとドイツそれぞれの国全体と外国生まれのものを判定。

2022年 大学入学共通テスト「地理B」本試験出題



生産年齢人口の多さが特徴で，労働者が中心であることを判断できます。

第3問 問6 カナダ，韓国，バングラデシュ，マレーシア4国の出生率と死亡率の推移を示す散布図を判定。

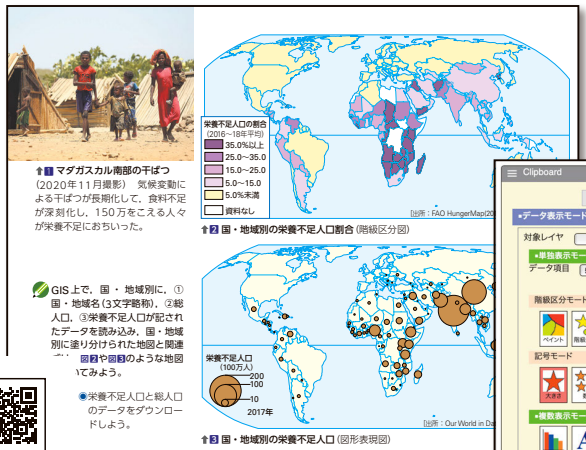


手軽に活用できるGISの素材・題材を掲載

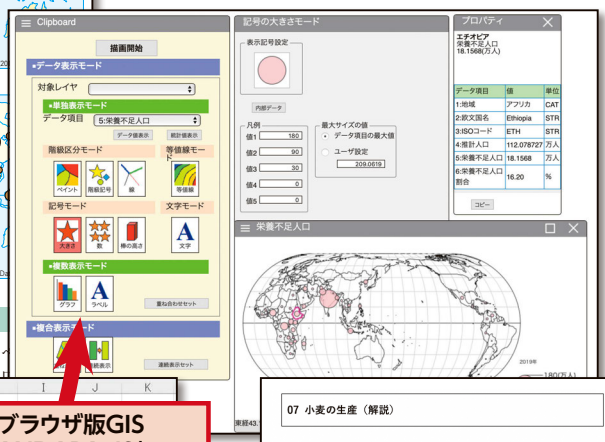
MANDARA対応の統計データにリンク

教 p.88

教p.88図2・図3「栄養不足人口」の統計データは，フリーGISソフト「MANDARA」，ブラウザ版GIS「MANDARA JS」に対応した形式で収録しています。どちらもドラッグするだけで，特別なソフトがなくてもGISを用いた主題図づくりが可能です。

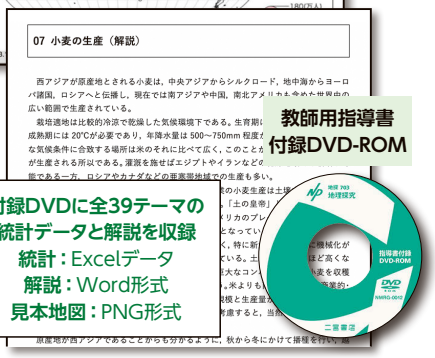


栄養不足人口のダウンロード



ブラウザ版GIS「MANDARA JS」に統計データをドラッグして主題図を作成

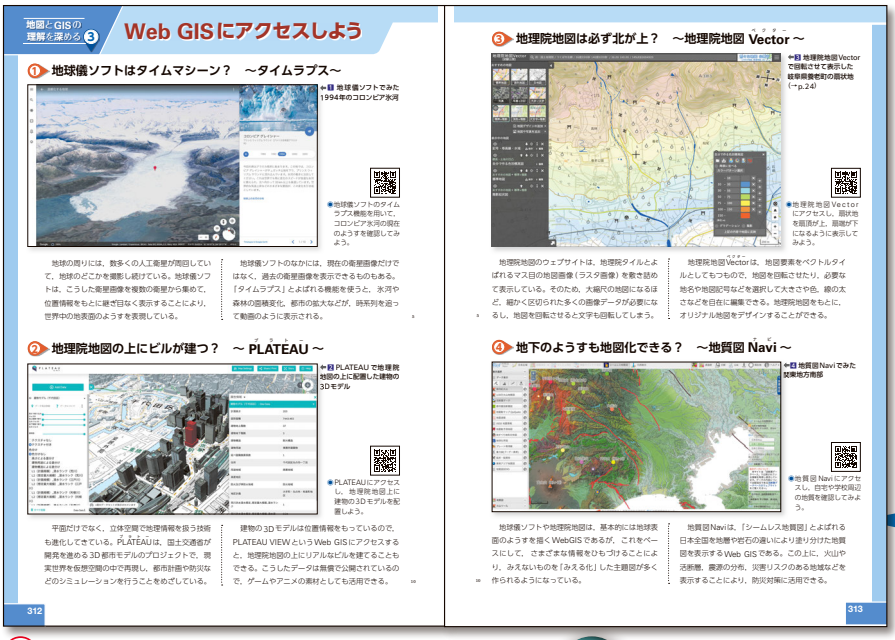
フリーGISソフト「MANDARA」対応のExcelファイルをダウンロード



教師用指導書
付録DVD-ROM

付録DVDに全39テーマの統計データと解説を収録
統計：Excelデータ
解説：Word形式
見本地図：PNG形式

巻末付録「地図とGISの理解を深める」(p.308～314)



巻末付録「地図とGISの理解を深める」では，地理探究の学習にも必要な「地図とGIS」の基礎事項をまとめました。

① 地図の見方・考え方
② 地理院地図を活用しよう
③ WebGISにアクセスしよう
④ GISとGNSSのしくみ

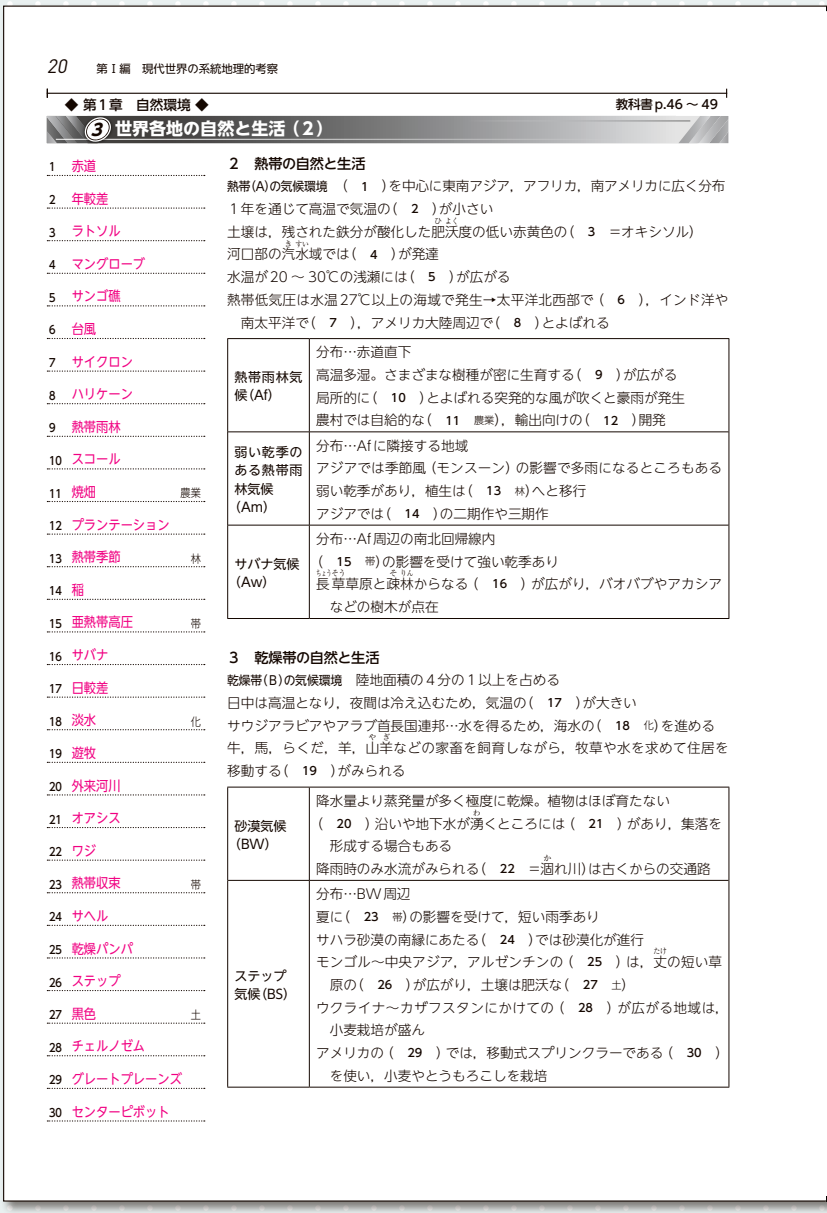
実際に操作することで，GISのしくみや，地理空間情報の扱い方が理解できるWeb GISを厳選して紹介しています。

教 p.312-313

地理探究ワークブック

地探 703 準拠

B5判・112頁・1色刷　定価：715円(10%税込)　別冊解答付



20　第Ⅰ編　現代世界の系統地理的考察

◆第1章　自然環境◆　教科書 p.46～49

③ 世界各地の自然と生活（2）

1 赤道
2 年較差
3 ラトソル
4 マングローブ
5 サンゴ礁
6 台風
7 サイクロン
8 ハリケーン
9 熱帯雨林
10 スコール
11 焼畑　農業
12 プランテーション
13 熱帯季節　林
14 稲
15 亜熱帯高圧　帯
16 サバナ
17 日較差
18 淡水　化
19 遊牧
20 外来河川
21 オアシス
22 ワジ
23 熱帯収束　帯
24 サヘル
25 乾燥パンパ
26 ステップ
27 黒色　土
28 チェルノゼム
29 グレートプレーンズ
30 センターピボット

2　熱帯の自然と生活

熱帯(A)の気候環境　（ 1 ）を中心に東南アジア，アフリカ，南アメリカに広く分布
1年を通じて高温で気温の（ 2 ）が小さい
土壌は，残された鉄分が酸化した肥沃度の低い赤黄色の（ 3 ＝オキシソル）
河口部の汽水域では（ 4 ）が発達
水温が20～30℃の浅瀬には（ 5 ）が広がる
熱帯低気圧は水温27℃以上の海域で発生→太平洋北西部で（ 6 ），インド洋や南太平洋で（ 7 ），アメリカ大陸周辺で（ 8 ）とよばれる

熱帯雨林気候(Af)	分布…赤道直下 高温多湿。さまざまな樹種が密に生育する（ 9 ）が広がる 局所的に（ 10 ）とよばれる突発的な風が吹くと豪雨が発生 農村では自給的な（ 11 農業），輸出向けの（ 12 ）開発
弱い乾季のある熱帯雨林気候(Am)	分布…Afに隣接する地域 アジアでは季節風（モンスーン）の影響で多雨になるところもある 弱い乾季があり，植生は（ 13 林）へと移行 アジアでは（ 14 ）の二期作や三期作
サバナ気候(Aw)	分布…Af周辺の南北回帰線内 （ 15 帯）の影響を受けて強い乾季あり 長草草原と疎林からなる（ 16 ）が広がり，パオバブやアカシアなどの樹木が点在

3　乾燥帯の自然と生活

乾燥帯(B)の気候環境　陸地面積の4分の1以上を占める
日中は高温となり，夜間は冷え込むため，気温の（ 17 ）が大きい
サウジアラビアやアラブ首長国連邦…水を得るため，海水の（ 18 化）を進める
牛，馬，らくだ，羊，山羊などの家畜を飼育しながら，牧草や水を求めて住居を移動する（ 19 ）がみられる

砂漠気候(BW)	降水量より蒸発量が多く極度に乾燥。植物はほぼ育たない （ 20 ）沿いや地下水が湧くところには（ 21 ）があり，集落を形成する場合もある 降雨時のみ水流がみられる（ 22 ＝涸れ川）は古くからの交通路
ステップ気候(BS)	分布…BW周辺 夏に（ 23 帯）の影響を受けて，短い雨季あり サハラ砂漠の南縁にあたる（ 24 ）では砂漠化が進行 モンゴル～中央アジア，アルゼンチンの（ 25 ）は，丈の短い草原の（ 26 ）が広がり，土壌は肥沃な（ 27 土） ウクライナ～カザフスタンにかけての（ 28 ）が広がる地域は，小麦栽培が盛ん アメリカの（ 29 ）では，移動式スプリンクラーである（ 30 ）を使い，小麦やとうもろこしを栽培

● 地理探究ワークブックの特色

教科書本文の130項目（一般ページ+特設ページ）を55テーマに整理し，いずれのテーマも見開き2ページで構成しています。

● 左頁：表形式の穴埋め

教科書本文を表にまとめ，穴埋め形式により，地理の重要用語を整理させ，基礎知識の定着をはかっています。

● 欄外の解答欄

解答欄を左側に設けたことにより，くり返し演習をすることが可能です。

地理探究におすすめの副教材

データブック オブ・ザ・ワールド
2024年版 Vol.36

A5判・496頁
定価：**803**円(10%税込)

産業・貿易・経済・自然環境など，多くの分野を網羅した「統計要覧」と，全独立国の情報を網羅した「世界各国要覧」の二部構成になっており，地理探究での系統地理学習と地誌学習に対応しています。

地理統計要覧
2024年版 Vol.64

A5判・160頁
定価：**440**円(10%税込)

最新データをもとに整理・分類した統計書のロングセラーです。コンパクトな体裁ながら，多くの分野の莫大な情報を掲載しています。検索しやすい分野別構成になっており，変化の激しい世界を，統計で明らかにします。

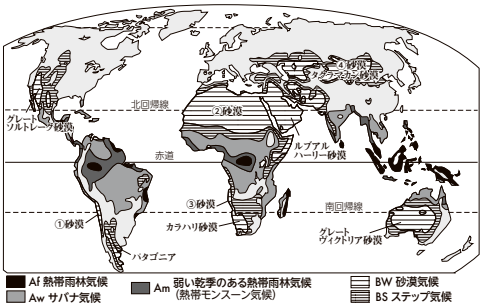
教科書に準拠し，全分野・全地域を扱ったワークブック
授業の整理はもちろん，大学入学共通テストの演習としても有効です

▼教科書p.46-49に対応した頁の例

③ 世界各地の自然と生活　21

基本 問題1　右の図中の砂漠①～④の名称を答えなさい。また，熱帯と乾燥帯の分布をみて，下の(1)(2)の気候区がどのように分布しているか，記述しなさい。

①	アタカマ	砂漠
②	サハラ	砂漠
③	ナミブ	砂漠
④	ゴビ	砂漠



(1) 熱帯雨林気候(Af)の分布　　各大陸の赤道の直下に分布する。

(2) 砂漠気候(BW)の分布　　各大陸の南北回帰線の周辺に分布する。

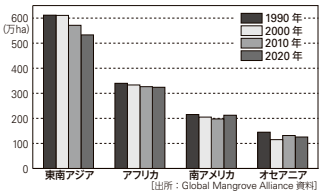
標準 問題2　下の世界の砂漠A～Gが形成された主な要因として最もふさわしいものは，次の成因1～4のどれだろうか。砂漠の位置(緯度や隔海度)や，山脈や海流との関係を参考にしながら，分類しなさい。

成因1　亜熱帯高圧帯の影響を受けている ……　A C
成因2　大陸内部にある ……　B F
成因3　卓越風に対して山脈の風下にある ……　E
成因4　沿岸を寒流が流れている ……　D G

◆指導上のヒント
砂漠の成因を理解することは，気候要素と気候因子の理解につながる。入試における出題も多く，整理しておくとよい。

【世界の砂漠】
A　サハラ砂漠　B　タクラマカン砂漠　C　グレートヴィクトリア砂漠　D
E　パタゴニア　F　ゴビ砂漠　G　ナミブ砂漠

発展 問題3　次の図1は，熱帯の汽水域に生息する樹木の生息域の変化を，世界の地域別にあらわしている。特に東南アジアでは，海岸沿いに写真2のようなえびの養殖池の開発が進み，生息面積の減少が著しい。この樹木の総称名を必ず入れ，開発が進むことでおこる環境問題について記述しなさい。



[出所：Global Mangrove Alliance 資料]

図1　汽水域に生息する樹木の生息面積の変化

写真2　海岸線に広がるえびの養殖池(ベトナム)

例）・熱帯の汽水域に生育するマングローブには多くの生物が生息しており，開発により生態系が崩れる。
・海岸沿いのマングローブが減少すると，熱帯低気圧の波浪や地震の津波から住民を守ってきた防災機能が損なわれる。

※紙面の解答・朱書き解説は，本体には含まれていません。

● **右頁：作業と演習問題を配置**
問いは内容・レベルに応じて「基本」「標準」「発展」と分類しています。

基本…教科書掲載の基本的知識を穴埋めや作業で確認します。

標準…学習した知識にもとづき，思考力，判断力を養います。

発展…教科書に掲載していない事項について資料を読み解き，考察させます。

観点別評価を行う際に役立てることができます。

● **バラエティ豊かな演習問題**
教科書に掲載していない写真や最新統計，模式図などを豊富に取り上げています。

● **ミニ論述にもチャレンジ**
学んだ知識を活用し，自ら文章にまとめ，表現力を養うミニ論述問題も用意しています。

● **解答・朱書き解説をPDFで完備**
ワークブックのご採用校向けに，解答・解説入りのPDFデータをご用意します。

白地図ワーク

B5判・56頁(別冊解答4頁付)
定価：**462**円(10%税込)

「地理的見方・考え方」を養うことができるテーマや設問を豊富に取り入れた白地図作業帳です。授業の補完だけでなく，大学入学共通テスト対策にも活用できる作業形式を取り入れました。

大学入学共通テストへの道　地理

B5判・224頁(別冊解答8頁付)
定価：**1,485**円(10%税込)

過去10年以上のセンター試験問題の良問を選出して再構成。問題ごとの詳細な解説で対策を図ります。試行調査や2021年度～2023年度の共通テスト本試験も収録。
(二宮書店編集協力・山川出版社発行)

地理探究 教師用指導書

地探 703 準拠 B5判1色刷336ページ+付録DVD-ROM，定価：22,000円（10%税込）

系統・地誌の全分野をしっかりと解説。1授業時の「目標（イントロ）」と指導の流れを簡潔に示したうえで，本文や図表写真の地理的な背景や，新しい動向を丁寧に解説します。「まとめと探究」には，学習内容を確認させたうえで発展的に考察させる指導例を掲載しています。

目標（イントロ）

学習する意図・ねらいや重要な点，この項目で習得したい内容を示しています。

関連ページ

当該ページの内容に関連の深い地図帳掲載の分野を示しています。

▼教科書p.282-287の解説の例

p.282-287 配当2時間

第2章 現代世界の諸地域

⑪ オーストラリア 項目ごとに整理

地理 地図帳『オセアニア』

目標：自然環境の開発により発展したオーストラリアについて，自然，歴史的背景，農業，資源，工業，世界との結びつきなどの事象を項目ごとに整理して地域的特色を考察・理解させ，基礎的・基本的知識を習得させる。

学習内容の要点

1 自然と農牧業・鉱工業

自然：国土の大部分が安定陸塊で侵食や風化の進む侵食平野
亜熱帯高圧帯の影響 → 砂漠や乾燥地域が大半を占める
農牧業：広大な土地で行われる大規模な農業
グレートアーテジアン盆地：牧羊 → 牧羊業は掘り抜き井戸の利用でメリノ種を中心に放牧
サバナ気候や内陸のステップ地域：粗放的牧牛
南東部：フィードロット（短期飼育）で肉牛飼育
鉱産資源：多種に渡る豊富な鉱産資源 → 鉄鉱石や石炭の多くは露天掘りで採掘し1次産品のまま輸出

まとめと探究

❶のヒント▶ 地形は p.14 図1，気候は p.42 図1，生態系は p.41 図4なども参照し，オーストラリアの自然環境の特徴を，世界のほかの地域と比較しながらまとめさせる。高く険しい山がない地形で，大陸の平均高度はヨーロッパと並んで最も低い。乾燥帯の割合が高い気候で，最も乾燥した大陸である。大陸の分離によって独自の進化を遂げた固有種の存在も特徴であり，世界最大のサンゴ礁地帯もある。

❷のヒント▶ 農牧業は降水量の制約が強いことに気づかせる。p.283 図4の年降水量の等値線から，農牧業地帯と気候の関係を捉えさせたい。牧牛地域は250 ～ 800mmまで広がり，降水量の牧牛経営への影響を考えさせたい。鉱工業では p.283 図5から東部で石炭，西部で鉄鉱石の産出が多いことを読み取らせ，地形・地質との関係に気づかせ，鉄鋼業の立地についても考えさせたい。

2 多文化主義の社会と大都市の発達

18世紀後半：イギリスによる土地開発 → 植民地開発の本格化でヨーロッパ諸国からの移民増
→ 先住民のアボリジナルは内陸へ追いやられる
中国人移民が多数流入 → 20世紀初頭に白人を優遇する**白豪主義**へ → 70年代に**多文化主義**へ
大都市の成長：人口は湿潤で湿潤な沿岸部に**集中** → 植民地経営の拠点とする港湾都市が多い
シドニー，メルボルン：社会・経済の拠点で大都市圏形成。キャンベラ：計画的に建設された政治都市
大都市内部ではセグリゲーション形成

まとめと探究

❶のヒント▶ 図3，図5から移民政策の変化と移民の出生地の変化の関係を読み取らせる。アジア系，オセアニア系の移民が増加し，近年はアジア系がヨーロッパ系を上回るようになった。多文化主義政策について，アングロアメリカとオーストラリアを比較し，背景や特徴をまとめさせたい。都市ではセグリゲーションが進み，社会経済格差の固定や住民同士の対立など，多文化主義のもとでの統合の難しさも考えさせる。

❷のヒント▶ イギリスの植民開始当時，75万 ～ 100万人いたと推定される先住民アボリジナルの人口は1920年には約7万人にまで激減したとされる。図2，図4から人種の拡大と，居住地の変化の関係を読み取らせる。投票権，市民権，土地所有権（先住民権）などが認められ，同化・福祉政策から自主決定政策への移行したことにも注目させたい。p.289ニュージーランドの先住民マオリの例も参考になる。

3 世界との結びつき

結びつきの変化：旧宗主国のイギリスなど欧州は，対蹠地に近い
→ ヨーロッパとの貿易や交流による不利益 → 戦後はアジア・環太平洋地域との結びつきを強化
貿易・投資の自由化の推進
農産物の貿易自由化への働きかけ → ケアンズグループ
APECを提唱して経済協力を強化。 2018年にはTPP11協定が発効

まとめと探究

❶のヒント▶ 図2からオーストラリアが参加する経済協力・社会的連携関係にある組織・国々をまとめ，地図で関係国の位置関係も確認させる。また貿易相手国の変化を p.286 図3から読み取らせる。イギリスおよび周辺諸国との空間的距離（図1参照），イギリスのEC加盟の影響，アジア・環太平洋地域の経済の急成長など，相手国の変化もまとめさせたい。

❷のヒント▶ 例えば「オージービーフ」を取り上げ，牛肉の貿易自由化から，自由化の利益と不利益を考えさせたい。自由化前後の関税率，輸入量や販売価格の変化，国産牛肉の販売量や価格の変化などから，自由化の影響を考えさせたい。

304 第2章 現代世界の諸地域

1 自然と農牧業・鉱工業 p.282～283

図表写真解説

写真1 ウルル（エアーズロック）(p.282) オーストラリア中央部の乾燥地域にある残丘で，鉄分を多く含む砂岩から構成される一枚岩である。先住民アボリジナルの聖地でもあり，現在では周辺に居住するアボリジナルの一族であるアナング族が所有する。1987年にはユネスコの世界複合遺産に登録され，聖地としての性格や安全性を考慮して，2019年からは一般観光客の登山が禁止された。ウルルは，アボリジナルのピチャンチャチャラ語による呼称だが，特定の意味は持たない。エアーズロックは，イギリスの探検家ウィリアム・ゴスが当時の南オーストラリア植民地首相ヘンリー・エアーズにちなんで命名したものである。

図4 オーストラリアの年降水量と土地利用(p.283) 年降水量は，大陸の外側に向かって増加する。農業も降水量に応じて発達し，年降水量250 ～ 500mm程度の地域においては牧羊や牧牛を中心とする牧畜業のほか，灌漑を用いた小麦栽培が行われる。年降水量800mm以上の湿潤かつ温暖な地域ではさとうきびが栽培される。また，都市周辺部においては酪農や野菜栽培が盛んである。

図5 オーストラリアの産出シェアの高い鉱産資源(p.283) オーストラリアは鉄鉱石やボーキサイト，ウラン，金などの鉱産資源の世界的な産出国である。また，ニッケルやマンガンなどのレアメタルの産出，蓄電池に使われるリチウムは世界最大の産出量である。鉱産資源の大半は，世界各国に輸出され，1次産品輸出型の経済構造を示す。

本文解説

▶**平坦で乾燥する大地**(p.282) オーストラリアの大部分は地質年代の古い安定陸塊で，水の作用・寒暖の差による風化侵食によって侵食平野である。そのため，平均標高は335m，高500m以下の土地が大陸全体の87%を占めて起伏が少ない地形となる(図2)。大陸の中にある一枚岩ウルルも，侵食作用によって硬い岩が残された残丘地形である(写真1)。ウルルの周辺は日中には気温が40℃に達し，夜間には氷点下になり，気温の日較差がたいへん大きい。大陸東海岸のグレートディヴァイディング（大分水嶺）山脈もなだらかな山脈で，その西側には緩斜面で複数の帯水層が重なるグレートアーテジアン（大鑽井）盆地が広がる。その一方で，山脈の東側は急斜面で，海岸平野に対してついたてのように立ちはだかり，植民者の内陸への進出を拒んだ。そのため，初期の植民者たちは，海岸から幅約100kmの海岸平野での土地開発を強いられた。

オーストラリア大陸は中緯度の亜熱帯高圧帯に位置し，「赤く乾いた大地」と称されるように内陸部は年降水量250mm以下の砂漠や乾燥地域が大半を占める。乾燥地域でみられる赤い土は，水分の補給がなく鉄分が酸化する現象（テラライト化）によるもので，オーストラリアの景観を特徴づけている。一方で，人間が居住し快適な生活を送るために必要とされる年降水量800mm以上を満たす地域は，沿岸の一部の地域に限られる。大陸の北岸は熱帯で，サバナが広がり，一部には熱帯雨林も分布している。南部の東岸や西岸は温帯で，温帯雨林やユーカリを中心とする硬葉樹林が分布し，適度な降水と湿暖な気候に恵まれて都市も発達している。オーストラリアにおける同川は乾燥地域にはほとんどみられず，年降水量800mm以上の地域に集中する。

オーストラリア大陸は，約2億年前にゴンドワナ大陸から分離して形成されたため，ゴールデン・ワトルやバンクシア，ユーカリなどの植物相と，コアラやカンガルー，カモノハシなどに代表される動物相が独特であり，固有種が多い(表p.41)。

▶**豊富な鉱産資源**(p.283) オーストラリアは化石燃料をはじめとする鉱産資源の世界的な産出国である。

[illegible]で土地探査が進んだ結果，金以外の地下資源が発見され，[illegible]

[illegible]の科学的探査技術が普及し，掘削技術の革新（ダイナマイト・ダイヤモンドドリル・圧搾空気）が進む1900年代以降，特に第二次世界大戦後であった。科学的な探査技術によって地下資源の有力な鉱脈が発見され，それまで植民者を失望させてきた不毛な土地は，ラッキーカントリーとして希望を与えるものとなった。

オーストラリアの鉱山の立地を示した分布図(図5)

❶オーストラリア 305

おすすめの文献・URL

当該ページの内容に関連する良書やウェブサイトのURLを掲載しています。

学習内容の要点

学習内容の要点は，教科書中の重要用語や内容の関連性を箇条書きに整理しました。板書や授業プリント作成にお使いください。さらに，導入の問いかけや指導上の留意点については，付録DVD-ROMの授業シートに掲載しています。

「まとめと探究」の指導例

教科書の各ページ最後の**「まとめと探究」**では，①は学習した内容をまとめる問い，②はさらなる探究を促す問いを設定しています。それぞれの解説や，指導のヒントとなる問いかけを掲載しました。

図表写真解説 / 本文解説

図表写真解説では，図版・写真の詳細情報や着目ポイントを解説しています。

本文解説では，単なる用語解説に止まらず，教科書に記述しきれなかった内容や新しい動き，類似した事例など，授業で活用しやすい内容を取り上げています。

教師用指導書付録 DVD-ROM

	教　材	形式	内　　容	数量
00	シラバス/評価規準 参考文献リスト	Excel Word	教科書のシラバス・評価規準を収録。学校のカリキュラムに合わせて加工可能。また，本書の各単元の最終ページにある参考文献のリストを収録。	2ファイル
01	教科書紙面PDF	PDF	教科書全ページの紙面をPDF形式で収録。	1ファイル
02	本文テキスト	テキスト	教科書紙面にある全テキストデータを，項目ごとにプレーンテキスト形式で収録。	149ファイル
03	授業用スライド	Power- Point	項ごと，1時限の授業の流れをPowerPoint形式で収録。教科書の図・写真とともに，小見出しごとに内容を整理。最後の「まとめと探究」で考察を促す。授業に合わせて編集可能。	118ファイル
04	教科書図版集	PNG画像	教科書掲載の全ての図版について，カラー，モノクロ，モノクロ文字なしの3種類の図版を画像形式で収録。文字なし画像はプリントや問題作成に便利。	各506図
05	定期考査問題例	Word	教科書単元ごとに，教科書の内容からの出題とともに，新たな資料を読み解く発展的な問題など，定期考査向けの問題例をMicrosoft Word形式で収録。定期考査や小テスト用にアレンジが可能。一部の記述式の問題については観点別評価を掲載。(解答別)	29分野 大問132題 A4 194ページ
06	授業シート	Word	授業を想定した指導例を，授業1時限に対し1シートのMicrosoft Word形式で収録。	A4 119シート
07	地形図読図ワーク	PDF	教科書中の地形図の発問や作業について,配布用プリントとして収録。教科書の設問に加え,発展的な読図問題も追加。色ぬりの作業は解答例も掲載。	A4 13シート
08	レイヤー切替主題図	PDF	教科書掲載の主題図を凡例ごとに切り替えて表示できるPDF形式で収録。電子黒板などで図中の必要な凡例を選択し，その塗り分けを表示できる。	10図
09	準拠版ワークブック	PDF	「地理探究」準拠版ワークブックの紙面をPDFファイルで収録。(解答別)	2ファイル
10	MANDARA統計 データ集	Excel Word PNG画像	フリーGISソフト「MANDARA」やウェブGIS「MANDARA JS」に読み込んで地図化できる世界の主要統計を，解説や見本地図画像とともに収録。	39テーマ
11	一問一答	Word	教科書掲載の重要な地理用語について一問一答形式の設問を収録。授業の進行に合わせ抜粋・修正が可能。	1304問
12	白地図	PNG画像	白地図の画像データを収録。世界6図，大州53図，地方52図，国76図，日本50図	237図

■ 教科書紙面PDF

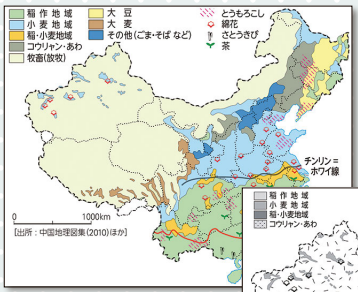
PDF

高解像度のPDFを収録。画像を拡大すると，写真の細部まで詳細に表示できます

■ 教科書図版集　各 506 図

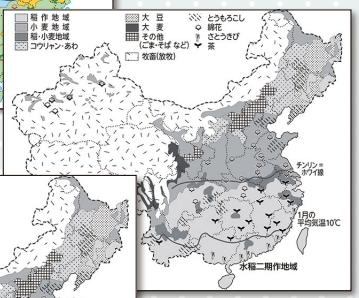
PNG

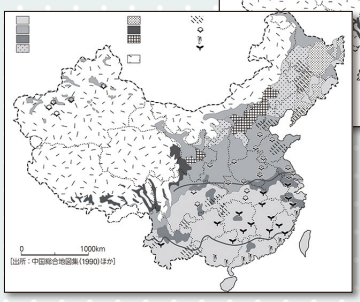
カラー



全図版のカラー・モノクロ・モノクロ文字なし画像を用意。プリントや問題作成にたいへん便利です。

モノクロ





モノクロ文字なし

教師用指導書付録DVD-ROM

■ 授業用スライド　全単元118ファイル

pptx

1時間の授業の流れをPowerPoint形式で収録。

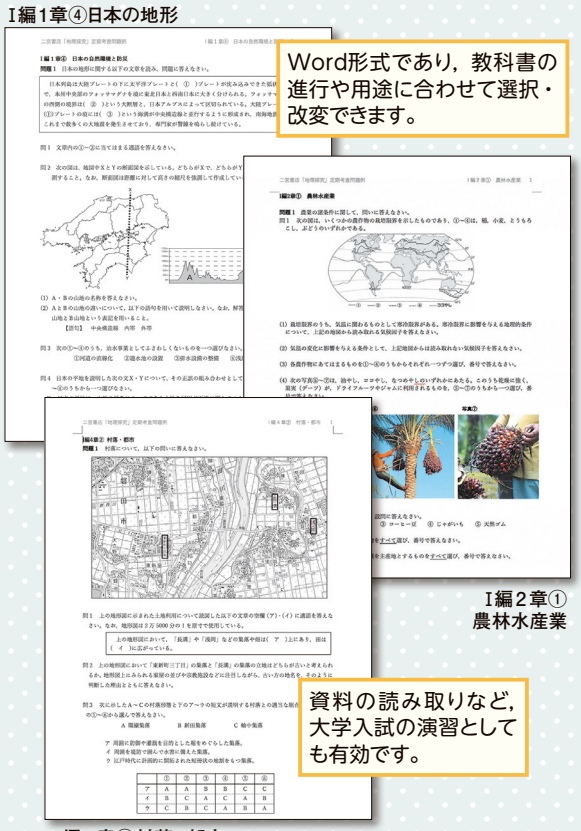
イントロからまとめまで，教科書の内容を整理。授業に合わせ編集可能。

p.198-199
「中国　経済発展を支える人口」

■ 定期考査問題例　全単元大問132題

Word

教科書の準拠問題や，共通テストや私大入試などを取り入れた発展的な問題を収録。



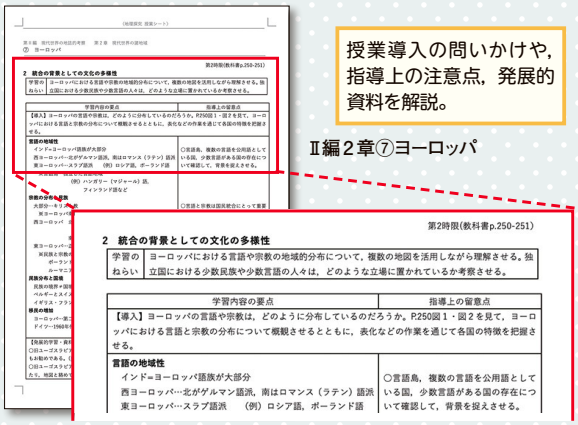
Word形式であり，教科書の進行や用途に合わせて選択・改変できます。

資料の読み取りなど，大学入試の演習としても有効です。

■ 授業シート　全単元 119 シート

Word

授業を想定した指導例を，授業1時限に対し1シートで収録。



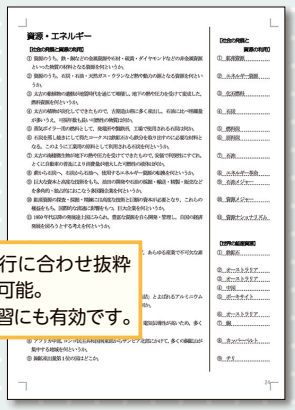
授業導入の問いかけや，指導上の注意点，発展的資料を解説。

Ⅱ編２章⑦ヨーロッパ

■ 一問一答　全分野 計 1304 問

Word

教科書中の重要語句を一問一答形式で収録。



Ⅰ編２章②資源・エネルギー

授業の進行に合わせ抜粋や修正が可能。
復習や演習にも有効です。

（全ての内容は前のページの一覧をご覧ください）

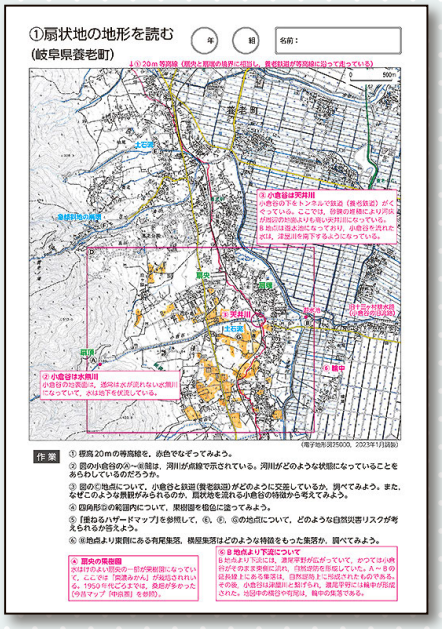
■ 地形図読図ワーク

13シート（作業例・解説付）

PDF

教科書中の地形図の発問や作業を配布用プリントとして収録。教科書の設問をベースに，発展・探究的な読図問題も追加。

p.161地理の技能　「交通網の発達による変化」



p.24地理の技能　「扇状地の地形を読む」

作業

① 1930年代の地形図に描かれている河川を青色でなぞってみよう。また，集落を黄色で塗ってみよう。

② 道路Ⓐは仙台と山形を結ぶ「二口街道」の一部であった。もともと湿地帯であった地点Ⓐには山寺の石を利用した「八貫橋」が架けられたが，たびたび洪水で流出したため，現在も供養塔が残されている。その後，上流側に直線的に作られたバイパス道路Ⓑは，水害を回避できたのだろうか，土地条件をもとに考えてみよう。

③ 現在の地理院地図にみられる道路Ⓒ～Ⓔについて，どのような場所を通り，どのような特徴が見られるか，地理院地図で周辺地域も調べた上で，それぞれ気づいたことをまとめてみよう。また，Ⓕ流通センターはなぜ広い土地を確保できたのか，説明してみよう。

④ 山形自動車道の開通により，Ⓕ流通センターの外側にも物流機能を担う土地利用が広がっている。赤枠の範囲で，物流基地として利用されている地域を調べ，流通センターを含めて紫色で塗ってみよう。

地形図の色塗り作業だけでなく，地理院地図の各レイヤを活用して，地域の成り立ちを探究させる設問も掲載しました。

■ 白地図

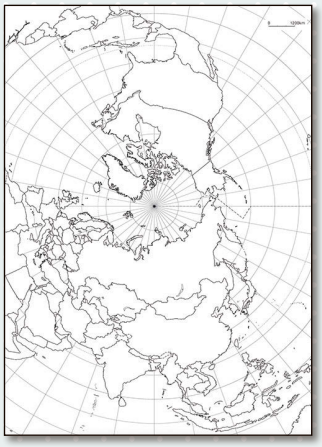
世界 6 図，大州 53 図，地方 52 図，国・地域 76 図，日本 50 図，計 237 図

PNG

首都記号や河川の有無など，さまざまなタイプの白地図を収録。

西・中央ヨーロッパ
（首都記号・河川あり）

多種多様なスケール・範囲の白地図を用意。資料や試験問題作成に便利です。



ユーラシア・アメリカ

年間指導計画 作成資料

弊社ウェブサイトに同内容のExcelファイルを用意しています。
ダウンロードしてご利用ください。

学習の到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
使用教材	教科書：「地理探究」「詳解現代地図 最新版」　副教材：「地理探究ワークブック」「データブック オブ・ザ・ワールド」

※ 年間授業時数を35週（35×3），全105時と設定しました。2学期/3学期制を考慮して，それぞれの指導計画を提示しています。

	章	節	項	学習内容とねらい	配当時 時数	月	2学期	3学期
第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察	第1章 自然環境 23	①地形	1 世界の地形と地形をつくる力 2 プレートの運動が地形におよぼす影響 3 地震と火山 / 4 造山運動と世界の陸地 5 河川がつくりだす地形 / 6 海岸にみられる地形 7 さまざまな環境で形成される地形	地形に関わる諸事象の規則性，傾向性や，人間による利用などについて理解する。地形の分布や成因などに注目して，「平野の地形」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	6	4月	前期中間	1学期中間
		②気候と生態系	1 水の循環と利用 / 2 海洋の循環 3 大気の大循環と気候 / 4 気候の地域性 / 5 植生と土壌 （新しい視点）自然環境と生態系	気候と生態系に関わる諸事象の規則性，傾向性や，気候の地域性などについて理解する。大気大循環のしくみや影響などに注目して，「気候の地域性」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	5	4月		
		③世界各地の自然と生活	1 世界の気候区分 / 2 熱帯の自然と生活 3 乾燥帯の自然と生活 / 4 温帯の自然と生活 5 亜寒帯と寒帯の自然と生活 （新しい視点）高山地域の自然と生活	世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性，傾向性や，気候区分の方法などについて理解する。気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して，「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	5	5月		
		④日本の自然環境と防災	1 日本の地形 2 日本の気候 3 日本の自然災害と防災	日本の自然環境に関わる諸事象の規則性，傾向性や，自然災害などについて理解する。日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して，「自然災害と防災」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	3	5月		1学期期末
		⑤地球環境問題	1 環境問題に関する大観 / 2 越境する汚染 3 地球温暖化の現状 / 4 地球温暖化への対策 （新しい視点）環境問題への国際協力とシチズン・サイエンス	地球環境問題に関わる諸事象の規則性，傾向性や，持続可能な地球環境の開発のあり方などについて理解する。気候や環境の変化などに注目して，「気候変動の影響」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	4	6月		
	第2章 資源と産業 17	①農林水産業	1 農業の諸条件 / 2 社会の発展と農業の変化 （新しい視点）都市とその周辺で営まれる農業 3 グローバル化・技術革新と農業 / 4 林業 / 5 水産業 6 食料問題 （日本を知る）日本の農林水産業とその課題	農林水産業に関わる諸事象の規則性，傾向性や，食料問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。農林水産業の条件や変化などに注目して，「食料問題」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	6	6月	前期期末	
		②資源・エネルギー	1 社会の発展と資源の利用 / 2 世界の鉱産資源 3 世界のエネルギー資源とその課題 4 電力の利用と変化 （日本を知る）日本の資源・エネルギー問題	資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性，傾向性や，資源・エネルギー問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して，「エネルギー資源の課題」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	4	6月		
		③工業	1 社会の発展と世界の工業化 / 2 工業の立地 3 工業地域の形成と変化 4 自動車工業の特徴と日本の海外生産 5 国際分業の進展と多国籍企業 6 工業生産のグローバル化に伴う諸課題 （新しい視点）知識集約型産業の発展 （日本を知る）日本の工業 変化と課題	工業に関わる諸事象の規則性，傾向性や，工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。工業立地や変化などに注目して，「工業生産のグローバル化」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	6	7月		
		④第3次産業	1 サービス経済化と社会の変化	第3次産業に関わる諸事象の規則性，傾向性や，サービス経済化の現状や要因，解決に向けた取組について理解する。産業構造の変化に注目して，「サービス経済化」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	1	7月		
	第3章 人・モノ・金のつながり 7	①交通・通信	1 世界を結ぶ交通 2 世界を結ぶ通信 （新しい視点）交通・通信の発達と買い物行動の変化 （日本を知る）日本の暮らしを支える交通とその課題	交通・通信に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，交通・通信に関わる問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。交通・通信手段の発達や利用に関わる課題などに着目して，「交通と通信の課題」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	3	9月		2学期中間
		②貿易・観光	1 世界を結ぶ貿易 2 世界と日本の貿易とその課題 3 世界を結ぶ資金の流れ 4 世界を結ぶ観光とその課題 （日本を知る）日本の観光とその課題	運輸，観光に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，貿易・観光に関わる問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。貿易の構造や人・物・資金の流れなどに着目して，「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	4	9月		
	第4章 人口、村落・都市 9	①人口	1 人口の推移と分布 / 2 人口構成と人口転換 3 人口移動 / 4 人口増加地域，減少地域の人口問題 （日本を知る）日本の人口問題	人口に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，人口問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。人口の推移，分布，移動などに注目して，「少子高齢化」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	5	9月		
		②村落・都市	1 集落の成り立ちと機能 / 2 都市の成り立ちと機能 （新しい視点）都市の拡大と都市システム 3 世界の都市・居住問題と解決への努力 （日本を知る）日本の都市・居住問題と解決への努力	村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，居住・都市問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。集落の機能や形態などに注目して，「世界の居住問題」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	4	10月		

	編	節	項	学習内容とねらい	配当時 時数	配当時 月	配当時 2学期	配当時 3学期
第Ⅰ編 系統地理的考察	第5章 文化と国家 8	①生活文化と言語・宗教	1 生活文化と地域 2 世界の衣服 / 3 世界の食生活 4 世界の住居 5 世界の言語 / 6 世界の宗教	生活文化と言語・宗教に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，民族問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに着目して，「生活文化の多様性」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	4	10月	後期中間	2学期期末
		②国家とその領域	1 国家の形成と領域 2 世界の民族・領土問題 3 日本の領土に関する問題 4 海洋国家としての日本 (新しい視点)北極圏と南極圏 5 国際連合の役割と課題	国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，領土問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解する。国家の特徴や国家の結びつきなどに着目して，「世界の民族・領土問題」などの主題を設定し，多面的・多角的に考察し，表現する。	4			
第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察	第1章 地域区分		1 地域区分の目的と方法 2 さまざまな地域区分 3 本書でとりあげる地域と考察方法	地域区分について理解し，現代世界が自然，文化，国家群，経済などの指標によって様々な区分ができることを習得させ，それぞれの区分からわかる地域の特徴や複数の区分によって把握できる地域の特徴を考察させる。	2			
	第2章 現代世界の諸地域 35	①中国	1 経済の改革開放による変化 2 経済発展を支える人口 3 経済発展を支える農業の地域性 4 経済・産業の発展と現代の生活 5 経済成長と国内外の課題	世界の大国としての中国について，歴史的背景や経済体制，政策，工業，人口，民族，自然，農牧業，資源・エネルギー，貿易，投資・援助といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを経済成長と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ，日本をはじめ世界各国に与える影響や，今後構築すべきより良い国際関係について探究させる。	4	11月		
		②朝鮮半島	1 東アジアのなかの朝鮮半島 2 朝鮮半島の文化と経済発展 3 韓国の課題と国際関係	隣国としての韓国について，自然や文化，歴史的背景，経済発展，都市・人口問題，貿易といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	2			
		海洋① 環日本海		日本を含む環日本海諸国との関係について探究させる。				
		③東南アジア	1 東南アジアの成り立ちと多様な民族文化 2 自然環境と農業・食文化 3 工業化による発展と生活文化への影響 4 地域内外の経済関係と文化のつながり	経済発展の著しい東南アジアについて，歴史的背景や民族，自然，農業，工業，都市問題，地域間連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを多彩な文化と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ，今後の発展的変化や，それに伴う日本や中国をはじめとする周辺地域との関係について探究させる。	3			
		④南アジア	1 自然環境と人口 2 住民と文化 3 農業と農村 4 産業の発展とグローバル化	近年急成長するインドを中心とした南アジアについて，自然，人口，文化・生活，民族問題，農牧業，工業，国際的な経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ，今後の発展や，それに伴う日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	3	12月		
		⑤西アジア・中央アジア	1 多様な自然環境 2 民族と文化 3 資源開発の進展と生活の変化 4 地域紛争と国際関係	乾燥地帯に位置する西アジア・中央アジアについて，農牧業，イスラームの教えやそれに基づく生活，言語・民族，資源を背景に発達した経済，地域紛争といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを結びつけて二つの地域を類似性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる。	3			
		⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ	1 自然環境と農業 2 歴史と文化 3 産業と経済発展 4 地域紛争と国際関係	広大な大陸に位置するアフリカについて，自然や農牧業，歴史的背景・民族，産業・経済構造，地域紛争，国際関係といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを結びつけて北アフリカ・サブサハラアフリカの二つの地域を対照性に着目して比較しながら地域的特色を考察・理解させる。	3	1月	後期期末(学年末)	3学期期末(学年末)
		海洋② 環インド洋		環インド洋地域の変化や世界各地への影響，日本が貢献できることを探究させる。				
		⑦ヨーロッパ	1 統合するヨーロッパ 2 統合の背景としての文化の多様性 3 自然と農業の地域性と共通農業政策 4 エネルギー・工業と貿易・交通の変化 5 ヨーロッパの変化と課題	地域統合の進んだヨーロッパについて，EUとその歴史的背景，民族，自然，農牧業，工業とエネルギー，貿易と交通，経済格差といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを地域統合と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ，今後の変化や，日本をはじめとする世界各国への影響について探究させる。	5			
		⑧ロシア	1 自然環境と民族・文化 2 体制転換と産業の変化 3 ロシアと世界の結びつき	世界最大の面積を持つロシアについて，自然と歴史的背景，民族，体制の転換と産業の変化，地域格差，交通といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	2			
		⑨アングロアメリカ	1 自然環境の多様性と自然災害の特徴 2 社会の多様性と多文化社会 3 世界をリードする農業と産業 4 世界と結びつくアメリカ	広大な面積を持つアングロアメリカの2か国について，自然，歴史的背景，民族・文化，農業，鉱工業，世界との結びつき，都市・居住問題といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ，今後，関係の深い日本をはじめ世界各国に与える影響について探究させる。	4	2月		
		⑩ラテンアメリカ	1 多様な自然環境と農業 2 混ざりあう民族，拡大する都市 3 鉱工業の移り変わり 4 地域内外との政治的・経済的関係	南北に長いラテンアメリカについて，自然，農業，歴史的背景と民族，社会問題，鉱工業，貿易，経済連携といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	3			
		海洋③ 環大西洋		地域開発と経済発展について環大西洋地域の結びつきについて探究させる。				
		⑪オーストラリア	1 自然と農牧業・鉱工業 2 多文化主義の社会と大都市の発達 3 世界との結びつき	南半球に位置する大陸国家オーストラリアについて，自然と産業，歴史的背景と民族・文化，都市，世界との結びつきといった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させ，日本をはじめとするアジアやオセアニアなど各国との結びつきの変化について探究させる。	2			
		⑫ニュージーランドと島嶼国	1 オセアニアのなかのニュージーランド	日本と同じ太平洋に面するニュージーランドとオセアニアの島嶼国について，自然，農業，歴史的背景と民族・文化といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し，それらを結びつけて地域的特色を考察・理解させる。	1			
		海洋④ 環太平洋		日本をはじめ環太平洋地域との結びつきについて探究させる。				
第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像			1 2050年の日本の姿 2 テーマ① 自然災害に強い国土をめざすには テーマ② 産業の変化と持続可能な成長 テーマ③ 人口減少社会を活性化するためには テーマ④ 多文化共生社会の実現をめざして 3 国土像の探究 ～エネルギーの安定供給をめざして	今までの学習を基にして，自然災害に強い国土，変化する産業と持続可能な成長，人口減少社会の活性化，多文化共生社会の実現に関して，将来の日本の国土像について，日本がかかえる地理的な課題を生徒自らに発見させ，その課題を多面的・多角的に考察，探究させる。探究を行う際は，まず自ら発見した課題を解決するための方法を身につけさせる。地理的技能を活かして資料を作成させるとともに，第Ⅰ編で学んだ基本的な知識や，第Ⅱ編で学んだ世界各地のさまざまな事例を活用して考察し，課題解決のための提言を行わせることによって，日本がかかえる地理的課題の解決の方向性や将来の国土像について展望させる。	4	3月		

評価規準

弊社ウェブサイトに同内容のExcelファイルを用意しています。
ダウンロードしてご利用ください。

編	章	節	時数	評価の規準			評価方法
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察	第1章 自然環境	①地形	6	●地形に関わる諸事象の規則性，傾向性や，人間による利用などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて，地形の形成に関する様々な情報を適切に読み取り，まとめることができる。	●地形の分布や成因などに注目して，「平野の地形」などの主題を基に，「平野の地形はどのように利用されてきたのだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●地形とその利用について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	**知識・技能** ・地形図の読み取りやハイサーグラフを作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査の問題 **思考・判断・表現** ・地域の望ましい防災のあり方を判断し，適切に表現するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査の問題 **主体的態度** ・本単元で学んだことを実生活に適応できるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
		②気候と生態系	5	●気候と生態系に関わる諸事象の規則性，傾向性や，気候の地域性などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて，ハイサーグラフなど気候と生態系に関する情報を適切に作成することができる。	●大気大循環のしくみや影響などに注目して，「気候の地域性」などの主題を基に，「地域による気候の違いにはどのような背景があるのだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●気候の変化と生態系の維持について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
		③世界各地の自然と生活	5	●世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性，傾向性や，気候区分の方法などについて理解することができる。 ●統計やGISなどを用いて，気候に関するグラフを適切かつ効果的に読み取り，まとめることができる。	●気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して，「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を基に，「厳しい自然環境の中で人々はどのように工夫して暮らしているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●世界各地の自然と生活について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
		④日本の自然環境と防災	3	●日本の自然環境に関わる諸事象の規則性，傾向性や，自然災害などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて，防災に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して，「自然災害と防災」などの主題を基に，「自然災害にどのように対処すればよいだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●日本の自然環境と防災について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
		⑤地球環境問題	4	●地球環境問題に関わる諸事象の規則性，傾向性や，持続可能な開発のあり方などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて，地球環境問題に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●気候や環境の変化などに注目して，「気候変動の影響」などの主題を基に，「地球温暖化は生態系や人間生活にどのような影響を与えているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●地球環境問題について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
	第2章 資源と産業	①農林水産業	6	●農林水産業に関わる諸事象の規則性，傾向性や，食料問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて，農林水産業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●農林水産業の条件や変化などに注目して，「食料問題」などの主題を基に，「世界の栄養不足人口の分布に地域的な偏りがあるのはなぜだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●農林水産業の変化について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	**知識・技能** ・産業に関わる統計の読み取りや主題図を作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査問題 **思考・判断・表現** ・産業の発展に伴う問題の望ましい解決策を判断し，適切に図示するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査問題 **主体的態度** ・本単元で学んだことを実生活に適応できるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
		②資源・エネルギー	4	●資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性，傾向性や，資源・エネルギー問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて，資源・エネルギーに関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して，「エネルギー資源の課題」などの主題を基に，「資源の産出と消費にはどのような地域的な特徴と地域的結びつきがみられるか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●資源・エネルギーの生産と消費について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
		③工業	6	●工業に関わる諸事象の規則性，傾向性や，工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて，工業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●工業立地や変化などに注目して，「工業生産のグローバル化」などの主題を基に，「知識集約型産業は今後どのように展開していくのだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●工業の発展について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
		④第3次産業	1	●第3次産業に関わる諸事象の規則性，傾向性や，サービス経済化の現状や要因，問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて，第3次産業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●産業構造の変化に注目して，「サービス経済化」などの主題を基に，「サービス業の需要の拡大と発展は社会にどのような影響をもたらすのだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●産業構造の変化について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
	第3章 人・モノ・金のつながり	①交通・通信	3	●交通・通信に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，交通・通信に関わる問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて，交通・通信に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●交通・通信手段の発達や利用に関わる課題などに着目して，「交通と通信の課題」などの主題を基に，「通信手段の発達はどのような生活の変化や課題を生じさせているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●交通と通信の発達について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	**知識・技能** ・貿易に関わる統計の読み取りや主題図を作成するワークシート・教科書の内容を確認する定期考査問題 **思考・判断・表現** ・貿易の進展に伴う問題の望ましい解決策を判断し，適切に図示するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査問題 **主体的態度** ・本単元で学んだことを実生活に適応できるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
		②貿易・観光	4	●運輸，観光に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，貿易・観光に関わる問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて，貿易・観光に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●貿易の構造や人・物・資金の流れなどに着目して，「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を基に，「地域的な経済連携は，なぜどのように進められてきたのか」や「観光は経済や観光にどのような影響を与えているのか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●経済連携の進展や観光の多様化について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
	第4章 人口、村落・都市	①人口	5	●人口に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，人口問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて，人口に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●人口の推移，分布，移動などに注目して，「少子高齢化」などの主題を基に，「世界の人口分布や各国の年齢別人口割合は今後どのように変化するだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●世界及び日本の人口問題について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	**知識・技能** ・人口に関わる主題図の読み取りや村落の新旧地形図を比較するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査問題 **思考・判断・表現** ・人口問題や都市問題の望ましい解決策を判断し，適切に表現するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査問題 **主体的態度** ・本単元で学んだことを実生活に適応できるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
		②村落・都市	4	●村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，居住・都市問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて，村落・都市に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●集落の機能や形態などに注目して，「世界の居住問題」などの主題を基に，「都市の居住問題の背景には何があるのだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●世界の都市問題について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	

編	章	節	時数	評価の規準			評価方法
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察	第5章 文化と国家	①言語・宗教	4	●生活文化と言語・宗教に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，民族問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて，生活文化と言語・宗教に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに着目して，「生活文化の多様性」などの主題を基に，「世界各地で主食が異なるのはなぜだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●生活文化と言語・宗教について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	**知識・技能** ・景観写真の読み取りや民族紛争に関する主題図を作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査問題 **思考・判断・表現** ・民族紛争や領土問題の望ましい解決策を判断し，適切に表現するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査問題 **主体的態度** ・本単元で学んだことを実生活に適応できるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
		②国家とその領域	4	●国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，領土問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて，国家とその領域に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ，まとめることができる。	●国家の特徴や国家の結びつきなどに着目して，「世界の民族・領土問題」などの主題を基に，「民族紛争や領土問題の背景には何があるのだろうか」などを多面的・多角的に考察し，表現することができる。	●民族・領土問題について，よりよい社会の実現を視野に，そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察	第1章 地域区分		2	●地域の概念や地域区分の意義，有用性を理解し，地域区分の方法を身につけている。 ●地域区分の学習を通して，現代世界の多様性・多面性について理解することができる。	●州や自然，文化，国家群などで地域を区分する方法を多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現することができる。 ●地域区分の概念，意義を多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現することができる。	●現代世界をいくつかの地域に区分する方法や，地域の概念，地域区分の意義，その有用性を基に，地域区分に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，かつ活用しようとしている。	**知識・技能** ・教科書の内容を確認する定期考査の問題 **思考・判断・表現** ・作成した世界の地域区分図の考察 **主体的態度** ・授業での取り組みや発言等の学習状況
	第2章 現代世界の諸地域	①中国	4	●中国の歴史的背景や経済，鉱工業，人口，民族，自然，農牧業について，経済成長と関連づけながらその特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●中国の歴史的背景や経済，鉱工業，人口，民族，自然，農牧業について，経済成長と関連づけながら考察することができる。	●中国の経済成長に着目し，様々な分野における日本をはじめ世界への影響力について関心を高め，それを意欲的に追究しようとしている。	**知識・技能** ・世界の諸地域にみられる地域的特徴や地球的課題を整理するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査の問題 **思考・判断・表現** ・三つの地誌的考察方法を活用して諸地域の地域的特徴や地球的課題を判断し，適切に表現するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査の問題 **主体的態度** ・本単元で学んだことを実生活に適応できるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
		②朝鮮半島	2	●韓国の歴史的背景や，自然や文化，産業，都市や人口に関わる問題について，日本を含む環日本海地域との関係を関連づけながらその特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●韓国の歴史的背景や，自然や文化，産業，都市や人口に関わる問題について，日本を含む環日本海地域との関係を関連づけながら考察することができる。	●隣国である韓国の歴史的背景，自然や文化について，日本との関係もふまえつつ関心を高め，それを意欲的に追究している。	
		③東南アジア	3	●東南アジアの歴史的背景や民族，自然，産業，地域間連携について，多彩な文化と関連づけながらその特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●東南アジアの歴史的背景や民族，自然，産業，地域間連携について，多彩な文化と関連づけながら考察することができる。	●東南アジアの自然，資源，産業について，日本との関係を踏まえつつ関心を高め，それを意欲的に追究しようとしている。	
		④南アジア	3	●南アジアの歴史的背景や文化・民族，自然，人口，産業，経済連携について，その特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●南アジアの歴史的背景や文化・民族，自然，人口，産業，経済連携について，世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●南アジアの自然，産業，経済成長にともなう国際連携について，日本との関係を踏まえつつ関心を高め，それを意欲的に追究しようとしている。	
		⑤西アジア・中央アジア	3	●西アジア・中央アジアの歴史的背景や文化，民族問題，自然，農牧業，資源について，二つの地域を比較しながらその特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●西アジア・中央アジアの歴史的背景や文化，民族問題，自然，農牧業，資源について，二つの地域を比較しながら考察することができる。	●西アジア・中央アジアの自然，資源・産業，文化・生活について，二つの地域を比較しながら関心を高め，その類似点や差異を意欲的に追究しようとしている。	
		⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ	3	●北アフリカ・サブサハラアフリカの歴史的背景や民族，自然，産業，経済構造について，二つの地域を比較しながらその特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●北アフリカ・サブサハラアフリカの歴史的背景や民族，自然，産業，経済構造について，二つの地域を比較しながら考察することができる。	●北アフリカ・サブサハラアフリカの自然や民族・文化について，二つの地域を比較しながら関心を高め，その類似点や差異を意欲的に追究しようとしている。	
		⑦ヨーロッパ	5	●ヨーロッパの歴史的背景や民族，自然，農牧業，鉱工業，貿易と交通，地域連携について，その特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●ヨーロッパの歴史的背景や民族，自然，農牧業，鉱工業，貿易と交通，地域連携について，世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●ヨーロッパの自然,農牧業，鉱工業，民族について，日本との関係を踏まえつつ関心を高め，それを意欲的に追究しようとしている。	
		⑧ロシア	2	●ロシアの歴史的背景や民族，自然，産業の変化，地域格差，交通について，その特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●ロシアの歴史的背景や民族，自然，産業の変化，地域格差，交通について，世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●ロシアについて，歴史的背景に着目し，産業・生活の変化，世界との結びつきに関して，隣国日本との関係を踏まえつつ関心を高め，それを意欲的に追究しようとしている。	
		⑨アングロアメリカ	4	●アングロアメリカの歴史的背景や民族・文化，自然，産業，都市・居住問題，世界との結びつきについて，その特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●アングロアメリカの歴史的背景や民族・文化，自然，産業，都市・居住問題，世界との結びつきについて，日本をはじめ世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●アングロアメリカの自然，産業，民族・文化について，日本との関係を踏まえつつ関心を高め，それを意欲的に追究しようとしている。	
		⑩ラテンアメリカ	3	●ラテンアメリカの歴史的背景や民族，自然，産業，貿易，社会問題，経済連携について，その特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●ラテンアメリカの歴史的背景や民族，自然，産業，貿易，社会問題について，日本や環大西洋地域との関係と関連づけながら考察することができる。	●ラテンアメリカについて，歴史的背景や民族，貿易について，環大西洋地域との関係を踏まえつつ関心を高め，それを意欲的に追究しようとしている。	
		⑪オーストラリア	2	●オーストラリアの歴史的背景や民族，自然，産業，世界との結びつきについて，その特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●オーストラリアの歴史的背景や民族，自然，産業，世界との結びつきについて，日本をはじめ世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●オーストラリアについて，自然，産業，貿易について，日本をはじめ世界各国との関係を踏まえつつ関心を高め，それを意欲的に追究しようとしている。	
		⑫ニュージーランドと島嶼国	1	●ニュージーランドと島嶼国の歴史的背景や民族・文化，自然，農業について，その特色や課題を理解し，知識として身につけることができる。	●ニュージーランドと島嶼国の歴史的背景や民族・文化，自然，農業について，日本をはじめ世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●ニュージーランドや島嶼国について，歴史的背景や民族・文化，自然，農業について，日本をはじめ環太平洋諸国との関係を踏まえつつ関心を高め，それを意欲的に追究しようとしている。	
第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像			4	●自然災害や産業の変化，人口減少，多文化共生社会への対応など，現代世界における日本の国土の特色や諸課題について，個人や国，国際社会などからの多角的で客観的な視点を身につけることができる。 ●日本がかかえる地理的な諸課題を探究する過程において，主体的に課題を設定して探究し発表するという過程を通し，課題解決への視点や方法を身につけることができる。	●自然災害や産業の変化，人口減少，多文化共生社会への対応など，日本の国土や社会・経済の特色について，これまでの地図・系統的・地誌的学習をふまえ様々な視点から客観的に考察し，その過程や結果について適切に表現することができる。 ●日本がかかえる地理的な諸課題の形成要因について考察し，その過程や結果，今後の改善策について適切に表現することができる。 ●あるべき国づくりや地域づくりについて考察し，自分なりの国土像・地域像や国際関係を見い出し，その過程や結果について適切に表現することができる。	●自然災害や産業の変化，人口減少，多文化共生社会への対応など，日本の国土や社会・経済の特色や諸課題について関心を高め，その解決の方向性や将来の国土のあり方について意欲的に追究しようとしている。 ●「エネルギーの安定供給をめざして」の事例において，日本がかかえる地理的な諸課題に対する課題意識を高め，意欲的に探究しようとしている。 ●さまざまな視点から多面的・多角的に分析・考察し，仮説の検討を進めることにより，将来の国土像について積極的に展望しようとしている。	**知識・技能** ・課題の解決に向けて，これまでに学んできたことの整理 **思考・判断・表現** ・探究した内容について適切に文章化，表・グラフ化すること，発表内容・方法，質疑応答 **主体的態度** ・授業での取り組みや発言等の学習状況

地理探究　選定のポイント

弊社ウェブサイトに同内容のExcelファイルを用意しています。ダウンロードしてご利用ください。

	観　点	内容の特徴
内容の選択・程度	学習指導要領の教科の目標に沿った内容編成 「地理総合」の学習の成果を生かした内容	・高等学校の地理教育で扱うべき内容がわかりやすく解説され，現代世界の特徴や課題，新しい動向が具体的な事例とともに示されているため，生徒が自ら読んで理解できる教科書になっている。 ・「地理総合」で学習した成果を生かし，地図や地理情報システムなどを用いて，調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べたうえで，自ら考察し，判断，表現する力を身につけることができる。 ・よりよい社会を実現するために，日本が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土のあり方などについて，教科書を通して，構想する態度を養うことができるよう，工夫されている。
組織・配列・分量	内容の構成・配列の適正 学習意欲を高める構成	・各項目とも，「イントロ」「本文」「まとめと探究」という統一した流れで，見開きごとに完結する構成になっている。 ・「イントロ」では各項で学ぶことについて着眼点を示し，「まとめと探究」では各項で学んだことの確認や発展的な問いを設定し，生徒自らが考える探究学習を促している。 ・特設ページやコラムを随所に設け，世界の新しい動向を取り上げている。現代社会の現状や課題について考察したり，課題の解決策を構想する力を養うことができる。 ・学習指導要領の項目に沿って，標準的な授業時数で完結するように構成されており，過不足なく，基礎から段階的に知識・技能を習得することができるよう，配慮されている。
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	用語や解説の取り上げ方 図や写真の取り上げ方 指導資料やデジタル教材の充実	・資料性が高く，情報量の多い図表・写真が本文と有機的に結びついており，地域や項目を理解するうえで必要な知識をしっかりと習得することができる。 ・平易な表現で本文を記載するとともに，重要用語を太字で示し，関連箇所への参照ページを明記している。用語も精選されており，必要に応じて用語解説を欄外に記載するなどの工夫がなされている。 ・二次元コードで動画や資料，関連ウェブサイトへのリンクを掲載することで，生徒の自学自習に対応している。 ・準拠ワークブック，教師用の指導書やICTライブラリなど，周辺教材が整備されており，教科書との組み合わせでより効果的に指導することができる。
印刷・造本上の配慮	ユニバーサルデザインの配慮 環境への配慮と印刷の鮮明さ	・カラーユニバーサルデザイン（CUD）に配慮した色づかいであり，可読性の高いUDフォントを使用しているため，多くの生徒にとって読みやすい紙面になっている。 ・植物油インクや再生紙を使用しており，地球環境や限りある資源に配慮し，SDGs（持続可能な開発目標）に貢献している。
総合所見		・系統地理，地誌ともに事例が充実しており，世界を多角的・多面的に考察することできる。 ・資料性の高い図表・写真やコラムを活用することにより，本文の流れにそって地理的技能を習得することができる。 ・地理的知識を確実に学習することで，世界の多様性を認識し，変化し続ける社会に対して生徒自ら考え，探究する力を養うことができる。 ・3単位の選択科目として内容・程度・分量のバランスが取られており，指導しやすく，生徒自らも理解しやすい教科書となっている。

令和7（2025）年度用　二宮書店 教科書・地図帳 ラインナップ

130 二宮 | 地探703

地理探究

B5 判・326 頁

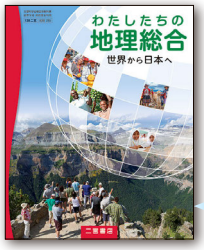
大学入学共通テストに対応
詳しい内容で理解を深める
地理探究の決定版

130 二宮 | 地総 704

地理総合
世界に学び地域へつなぐ

B5 判・246 頁

基礎から大学入試まで
豊富な題材と鮮度ある情報
地理探究へつながる，
事例の充実した教科書



130 二宮 | 地総705

わたしたちの地理総合
世界から日本へ

AB 判・214 頁

ビジュアルにアクティブに
世界と日本の今を知る 66 テーマ
主題型授業をリードする教科書

収録数の多い
世界地図と
日本地図

130 二宮 | 地図 704

高等地図帳

B5 判・166 頁

350 タイトル
以上の
豊富な資料図

130 二宮 | 地図 705

詳解現代地図 最新版

AB 判・182 頁

ビジュアル
中心で
大きな地図

130 二宮 | 地図 706

基本地図帳

A4 判・166 頁

新しい判型で
地理総合対応の
地図帳

130 二宮 | 地図 707

コンパクト地理総合地図

AB 変形判・182 頁

https://www.ninomiyashoten.co.jp/
二宮書店 検索
二宮書店
〒101-0047　東京都千代田区内神田 1-13-13　山川出版社ビル 5 階
Tel. 03-5244-5850　Fax. 03-5244-5963